

「大湊村地域福祉計画」策定における調査

— 結果報告書 —

平成30年3月

大 湊 村

目 次

第1章 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の実施状況	1
3. 報告書の見方	1
第2章 調査結果	2
1. 回答者の基本属性	2
(1) 性別	2
(2) 年齢	2
(3) 世帯構成	3
(4) 世帯の特徴	3
2. 福祉全般について	4
(1) 福祉分野別の関心度	4
(2) 福祉分野別の情報入手経路	7
(3) 福祉サービスの利用において必要なこと	21
(4) 福祉サービスに関する相談先	24
(5) 社会福祉協議会事業の認知状況	26
(6) 福祉サービスと税負担のバランスについて	28
(7) 今後希望する介護の形態	30
1) 回答者自身の場合	30
2) 回答者の家族の場合	34
3. 健康づくりについて	37
(1) 健康づくりのために必要な取組	37
4. 高齢者の福祉について	41
(1) 高齢者の生活支援のために必要な取組	41
5. 保育・子育てなど子どもの福祉について	44
(1) 子育て支援のために必要な取組	44
6. 障がい福祉について	47
(1) 障がい者支援のために必要な取組	47
7. 災害時の助け合いについて	50
(1) 災害時の自治会などからの援助の必要性	50
(2) 災害時の避難支援のための個人情報の開示意向	51
(3) 災害時の要援護者への避難支援の協力意向	52
8. 地域の助け合いやボランティア活動について	53
(1) 地域活動への参加状況	53
1) 地域活動の参加状況	53
2) 参加している地域活動	55
3) 地域活動に参加していない理由	57
(2) 近所つきあいの状況	59
(3) ボランティア活動促進のために必要なこと	60
9. 大潟村の福祉施策の取組について	62
(1) 自助・共助・公助のあり方について	62
1) 自助において重要なこと	62

2) 共助において重要なこと.....	64
3) 公助において重要なこと.....	66
4) 自助・共助・公助において取り組んでもらいたいこと.....	68
(2) 大潟村の地域福祉施策に対する満足度と重要度.....	69
1) 満足度.....	69
2) 重要度.....	74
3) 満足度と重要度の関係.....	79
(3) 大潟村の地域福祉の取組に対する総合満足度.....	80
10. 自由意見.....	82
(1) 日常生活において困っていること.....	82
(2) 大潟村の地域福祉施策に対する意見.....	84

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

「大潟村地域福祉計画」策定に向けた基礎資料とするため、地域における課題を把握し、その解決に向けた取組を検討する参考となるように、福祉全般のことや施策ニーズについてアンケート調査を実施しました。

2. 調査の実施状況

① 調査期間

平成30年3月9日～平成30年3月23日

② 調査方法

郵送による配布・回収

③ 調査対象

村内に居住している841世帯（1世帯につき、2票配布。うち、130世帯は単身世帯。）

④ 回収状況

発送数	回収数	有効回収数	有効回収率
1,552票 (841世帯)	588票	580票	37.4%

※回収票=588票のうち、調査票への回答の無いものが8票あったため、調査票への回答があった580票を有効票として集計を行っています。

3. 報告書の見方

○図表の中のnは回答者の総数を意味しています。設問によっては、回答者が制限される（別の設問である選択肢を選んだ回答者のみ回答する場合など）ため、nの数は一定ではありません。

○比率は、nを100%とした百分比で算出し、小数点以下第2位を四捨五入しています。そのため、表示されている百分比の合計が100%にならない場合があります。

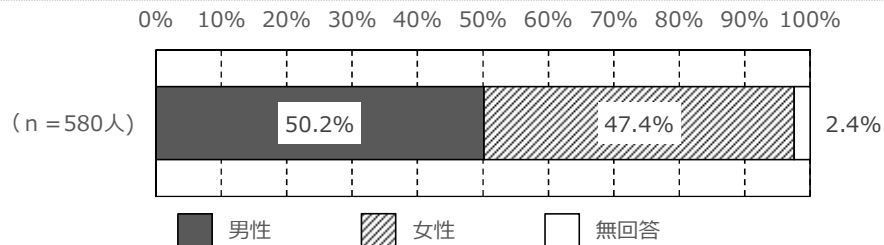
○複数回答が可能な設問では、その比率の合計が100%を上回ることがあります。

第2章 調査結果

1. 回答者の基本属性

(1) 性別

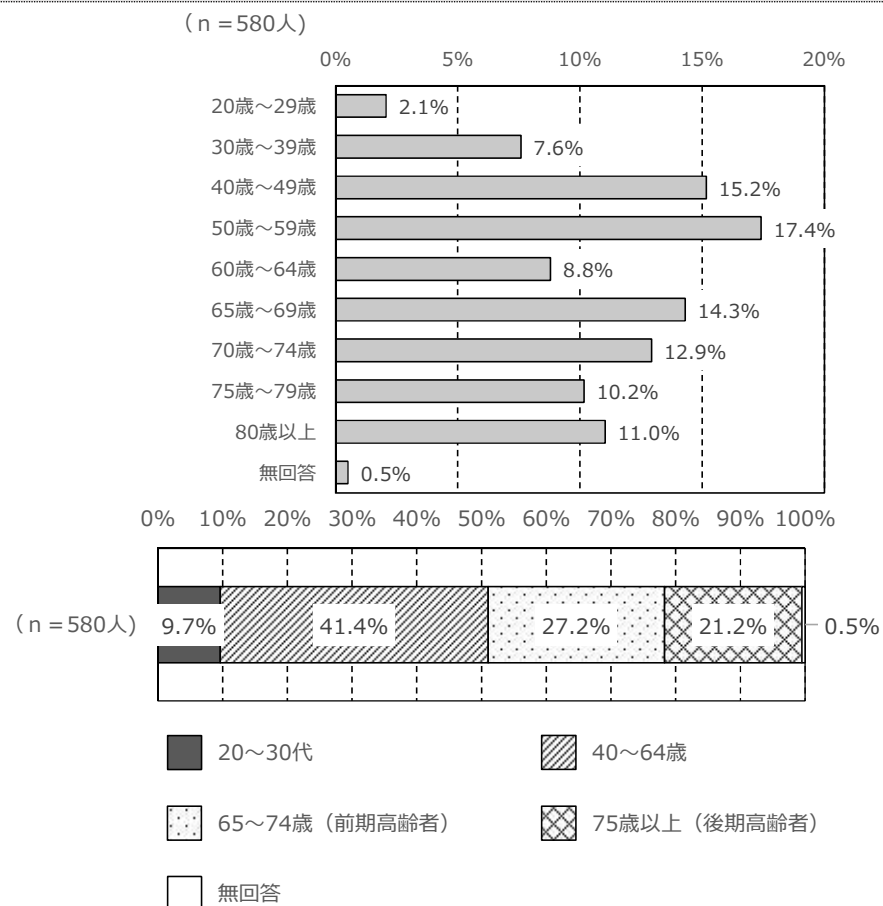
問1 あなたの性別はどちらですか。



回答者の性別は、「男性」50.2%、「女性」47.4%と、男女比はほぼ等しくなっています。

(2) 年齢

問2 あなたの年齢はおいくつですか。(平成30年3月1日現在)

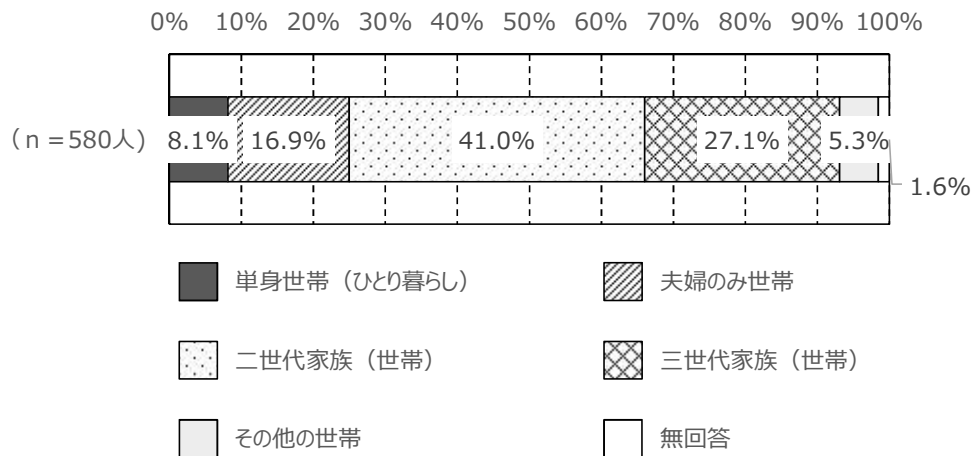


回答者の年齢は、「40～49歳」(15.2%)、「50～59歳」(17.4%)の占める割合が高く、『40～64歳』(41.4%)が全体の4割以上を占めています。

また、『65～74歳(前期高齢者)』(27.2%)、『75歳以上(後期高齢者)』(21.2%)もそれぞれ2割以上を占め、あわせると回答者の半数近くは高齢者が占めています。

(3) 世帯構成

問3 あなたの家族の世帯はどれに該当しますか。

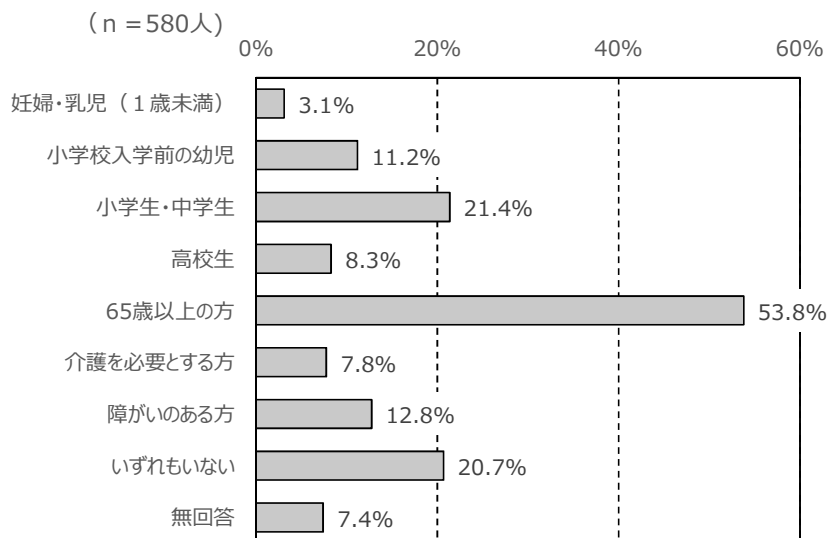


世帯構成をみると、「二世世代家族（世帯）」が41.0%、「三世世代家族（世帯）」が27.1%と、複数世代が同居している世帯が6割以上を占めています。

(4) 世帯の特徴

問4 同居のご家族（自分自身も含む）の中に妊婦の方や子ども、高齢者、障がいのある方などはいらっしゃいますか。（〇はいくつでも）

※家族には施設入所中の高齢者や住所移転している学生も含まれます。



回答のあった世帯の特徴をみると、「65歳以上の方」が世帯に含まれる高齢者のいる世帯が53.8%と半数以上となっています。

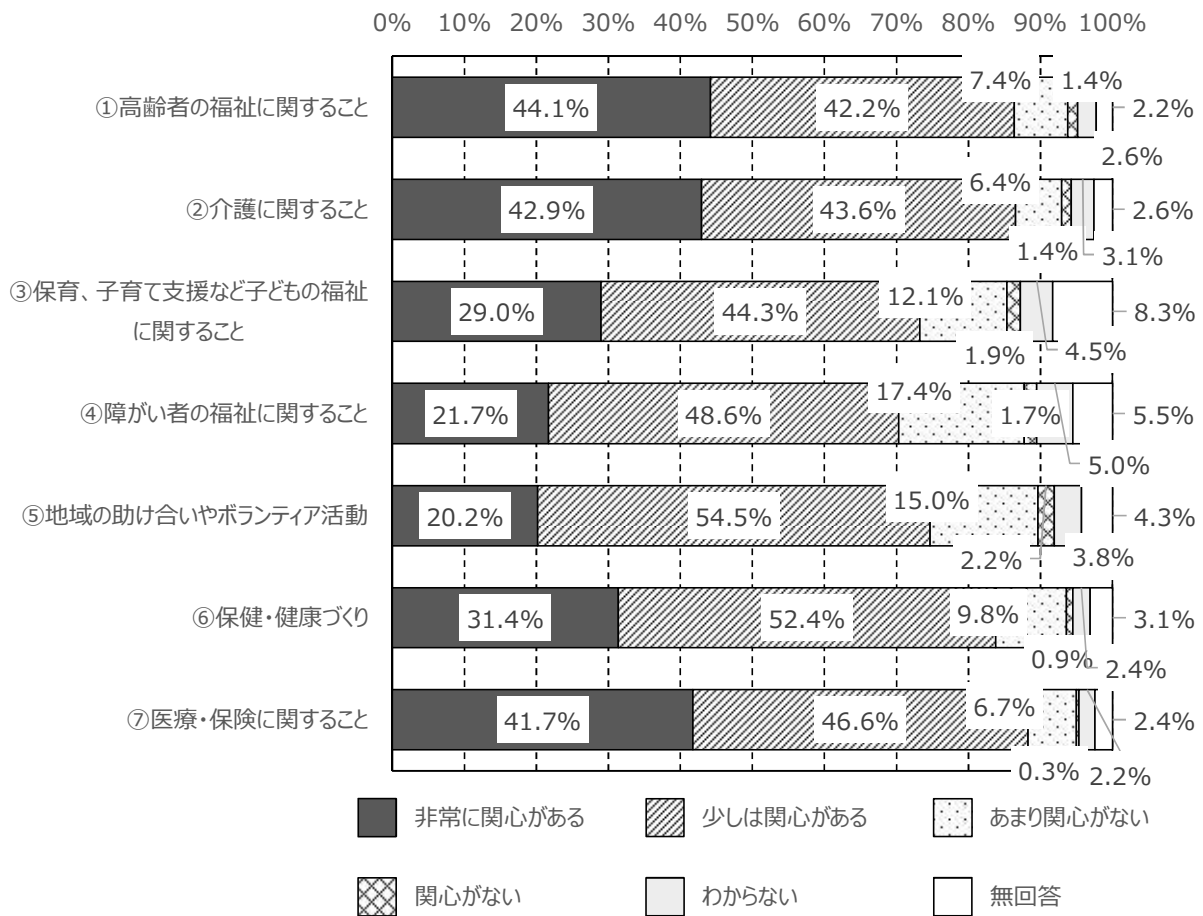
2. 福祉全般について

(1) 福祉分野別の関心度

問5 次の①～⑦の各分野について、あなたの関心度をそれぞれお答えください。(〇はそれぞれ1つずつ)

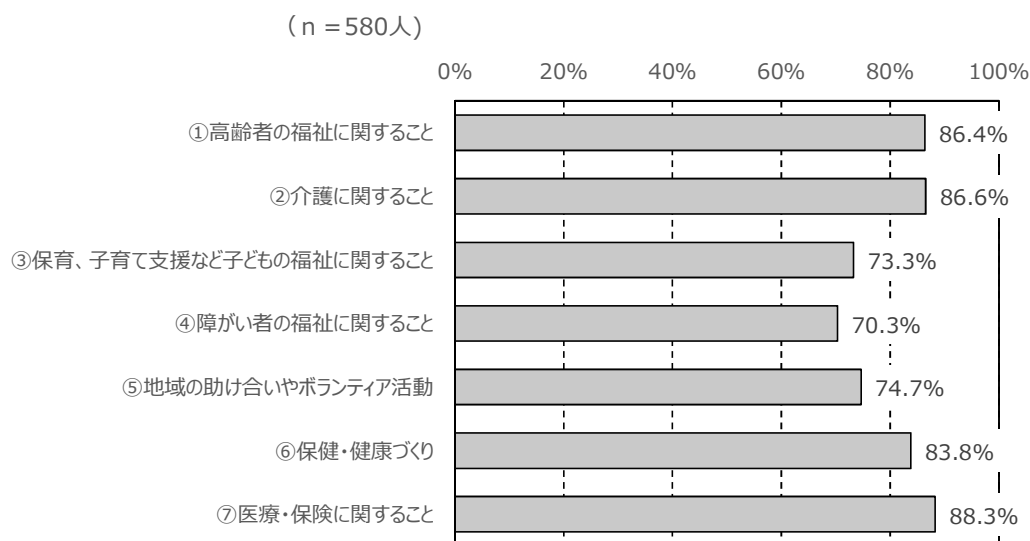
<回答結果>

(n = 580人)

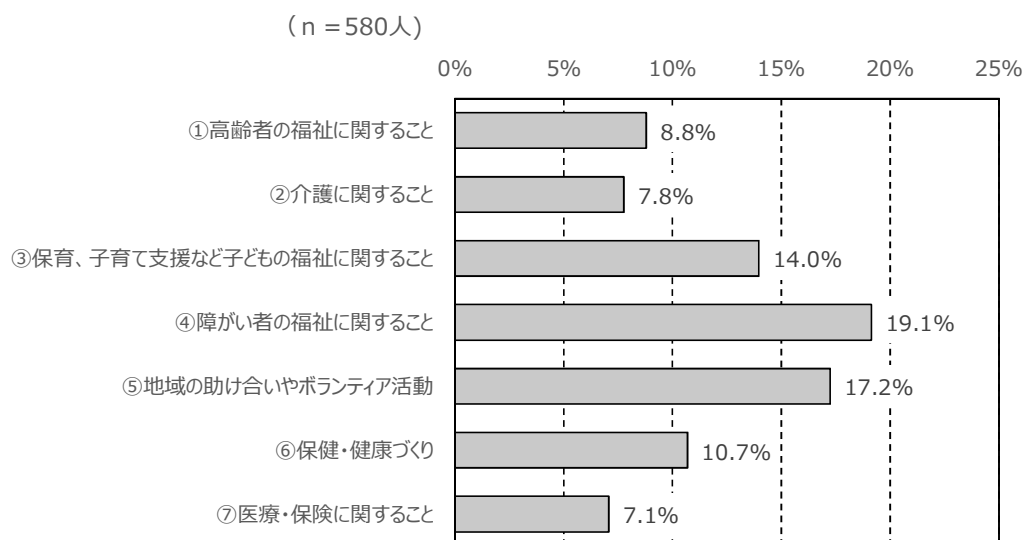


『①高齢者の福祉に関すること』(44.1%)、『②介護に関すること』(42.9%)、『⑦医療・保険に関すること』(41.7%)については、「非常に興味がある」との回答が4割を超えており、回答者の中では強い関心が持たれています。

< “関心がある” 福祉分野 >



< “関心がない” 福祉分野 >



「非常に関心がある」「少しは関心がある」を“関心がある”、「あまり関心がない」「関心がない」を“関心がない”として整理すると、①～⑦項目のすべてにおいて“関心がある”との回答が高い割合となっていますが、『③保育、子育て支援など子どもの福祉に関すること』、『④障がい者の福祉に関すること』、『⑤地域の助け合いやボランティア活動』については“関心がある”との回答は7割台と他の項目よりも関心の度合いが低くなっています。

また、『③保育、子育て支援など子どもの福祉に関すること』、『④障がい者の福祉に関すること』、『⑤地域の助け合いやボランティア活動』の3項目については、“関心がない”との回答の割合が他の項目よりも高くなっています。

<属性別にみた回答傾向（“関心がある”福祉分野）>

		n	①高齢者の福祉に関すること	②介護に関すること	③保育、子育て支援など子どもの福祉に関すること	④障がい者の福祉に関すること	⑤地域の助け合いやボランティア活動	⑥保健・健康づくり	⑦医療・保険に関すること
全体		100.0% 580人	86.4%	86.6%	73.3%	70.3%	74.7%	83.8%	88.3%
回答者の性別	男性	100.0% 291人	83.5%	85.9%	72.9%	71.1%	70.4%	79.7%	85.9%
	女性	100.0% 275人	89.1%	87.3%	74.2%	70.2%	78.9%	88.7%	90.5%
回答者の年齢	20～30代	100.0% 56人	66.1%	69.6%	89.3%	57.1%	62.5%	78.6%	85.7%
	40～64歳	100.0% 240人	86.3%	88.3%	77.5%	67.5%	75.4%	84.2%	88.3%
	65～74歳（前期高齢者）	100.0% 158人	91.8%	91.8%	74.7%	82.3%	74.1%	85.4%	93.0%
	75歳以上（後期高齢者）	100.0% 123人	88.6%	83.7%	56.1%	65.9%	78.9%	82.9%	82.9%
		109人	103人	69人	81人	97人	102人	102人	
世帯中の状況	妊婦・乳児（1歳未満）	100.0% 18人	77.8%	72.2%	100.0%	66.7%	77.8%	100.0%	100.0%
	小学校入学前の幼児	100.0% 65人	81.5%	84.6%	95.4%	67.7%	73.8%	78.5%	87.7%
	小学生・中学生	100.0% 124人	87.9%	88.7%	85.5%	71.8%	77.4%	86.3%	91.1%
	高校生	100.0% 48人	91.7%	91.7%	77.1%	77.1%	87.5%	91.7%	91.7%
		44人	44人	44人	37人	37人	42人	44人	44人
	65歳以上の方	100.0% 312人	89.7%	88.8%	74.4%	71.5%	76.3%	83.3%	89.1%
	介護を必要とする方	100.0% 45人	97.8%	97.8%	71.1%	82.2%	82.2%	84.4%	86.7%
		44人	44人	44人	32人	37人	37人	38人	39人
	障がいのある方	100.0% 74人	86.5%	90.5%	66.2%	87.8%	73.0%	83.8%	89.2%
いづれもない	100.0% 120人	80.0%	78.3%	68.3%	64.2%	67.5%	80.8%	83.3%	
96人	94人	82人	77人	81人	97人	100人			
福祉施策に対する総合満足度	満足	100.0% 333人	89.8%	88.6%	75.4%	69.7%	77.5%	86.2%	90.1%
	どちらでもない	100.0% 137人	81.8%	85.4%	75.2%	72.3%	69.3%	83.2%	92.7%
		112人	117人	103人	99人	95人	114人	127人	
不満	100.0% 65人	93.8%	95.4%	76.9%	86.2%	86.2%	89.2%	92.3%	
61人	62人	50人	56人	56人	58人	60人			

男女間に大きな差はありませんでしたが、「⑥保健・健康づくり」については男性よりも女性の方が関心が高くなっています。

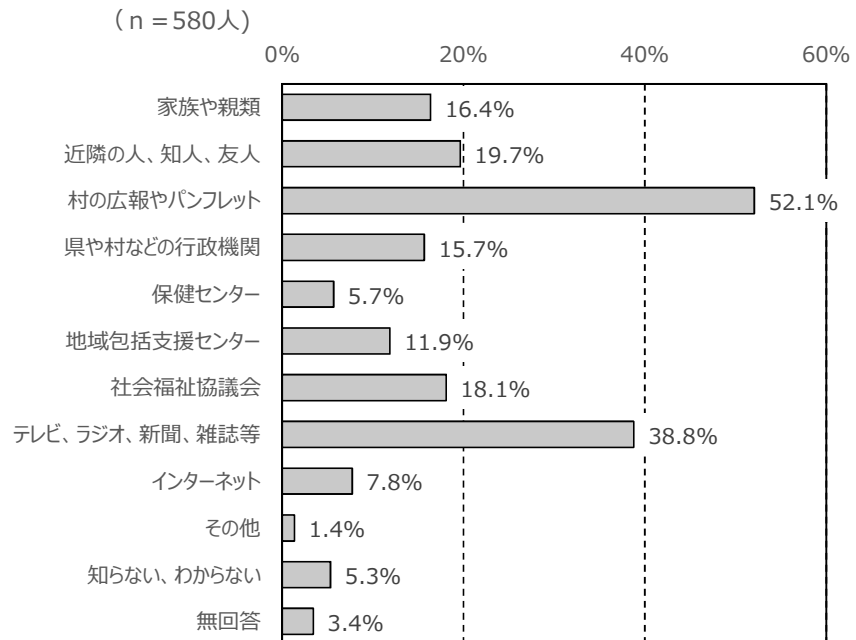
年齢別にみると、『20～30代』では「③保育、子育て支援など子どもの福祉に関すること」に対する関心が他の年代よりも高いものの、「④障がい者の福祉に関すること」に対する関心は他の年代よりも低くなっています。『65～74歳（前期高齢者）』では全般的に福祉分野に対する関心が高く、「①高齢者の福祉に関すること」、「②介護に関すること」、「⑦医療・保険に関すること」には9割以上が関心があるとしており、「④障がい者の福祉に関すること」についても8割以上が関心があるとしています。

世帯中の状況別では、世帯の中に小さな子どもがいるほど「③保育、子育て支援など子どもの福祉に関すること」に対する関心が高く、『介護を必要とする方』がいる場合には「①高齢者の福祉に関すること」、「②介護に関すること」への関心が高くなっています。また『障がいのある方』がいる場合には、「②介護に関すること」、「④障がい者の福祉に関すること」などへの関心が高くなっています。

(2) 福祉分野別の情報入手経路

問6 あなたは、次の①～⑦に関する知識、情報をどこから得ていますか。それぞれの項目についてお答えください。(〇はそれぞれ3つまで)

①高齢者の福祉に関すること



①高齢者の福祉に関することについては、52.1%と半数が「村の広報やパンフレット」から情報を得ているとしています。ついで、「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等」が38.8%となっています。

「保健センター」(5.7%)や「地域包括支援センター」(11.9%)への回答の割合は低く、情報の確認のためにはあまり活用されていない状況にあります。

<属性別にみた回答傾向>

		n	家族や親類	近隣の人、知人、友人	村の広報やパンフレット	県や村などの行政機関	保健センター	地域包括支援センター	社会福祉協議会	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等	インターネット
全体		100.0% 580人	16.4% 95人	19.7% 114人	52.1% 302人	15.7% 91人	5.7% 33人	11.9% 69人	18.1% 105人	38.8% 225人	7.8% 45人
回答者の性別	男性	100.0% 291人	13.4% 39人	16.2% 47人	53.3% 155人	17.9% 52人	4.5% 13人	10.0% 29人	17.2% 50人	39.9% 116人	10.7% 31人
	女性	100.0% 275人	20.0% 55人	22.5% 62人	50.9% 140人	12.7% 35人	6.5% 18人	13.8% 38人	18.9% 52人	38.5% 106人	5.1% 14人
回答者の年齢	20～30代	100.0% 56人	17.9% 10人	19.6% 11人	39.3% 22人	10.7% 6人	3.6% 2人	5.4% 3人	7.1% 4人	42.9% 24人	21.4% 12人
	40～64歳	100.0% 240人	18.3% 44人	21.7% 52人	52.1% 125人	13.3% 32人	2.5% 6人	11.3% 27人	14.6% 35人	40.4% 97人	10.4% 25人
	65～74歳（前期高齢者）	100.0% 158人	15.8% 25人	17.1% 27人	61.4% 97人	15.8% 25人	9.5% 15人	11.4% 18人	22.8% 36人	41.1% 65人	3.8% 6人
	75歳以上（後期高齢者）	100.0% 123人	13.0% 16人	18.7% 23人	45.5% 56人	22.8% 28人	8.1% 10人	17.1% 21人	23.6% 29人	31.7% 39人	1.6% 2人
世帯の中の状況	妊婦・乳児（1歳未満）	100.0% 18人	22.2% 4人	22.2% 4人	61.1% 11人	22.2% 4人	11.1% 2人	0.0% 0人	0.0% 0人	44.4% 8人	5.6% 1人
	小学校入学前の幼児	100.0% 65人	20.0% 13人	23.1% 15人	53.8% 35人	9.2% 6人	6.2% 4人	7.7% 5人	10.8% 7人	41.5% 27人	7.7% 5人
	小学生・中学生	100.0% 124人	19.4% 24人	13.7% 17人	58.1% 72人	14.5% 18人	3.2% 4人	8.9% 11人	20.2% 25人	32.3% 40人	9.7% 12人
	高校生	100.0% 48人	16.7% 8人	14.6% 7人	60.4% 29人	18.8% 9人	0.0% 0人	2.1% 1人	10.4% 5人	45.8% 22人	4.2% 2人
	65歳以上の方	100.0% 312人	17.0% 53人	20.8% 65人	56.1% 175人	16.0% 50人	5.8% 18人	13.1% 41人	21.2% 66人	38.8% 121人	6.7% 21人
	介護を必要とする方	100.0% 45人	33.3% 15人	28.9% 13人	51.1% 23人	15.6% 7人	4.4% 2人	35.6% 16人	17.8% 8人	31.1% 14人	4.4% 2人
	障がいのある方	100.0% 74人	16.2% 12人	20.3% 15人	50.0% 37人	25.7% 19人	2.7% 2人	20.3% 15人	23.0% 17人	35.1% 26人	13.5% 10人
	いずれもない	100.0% 120人	13.3% 16人	17.5% 21人	50.8% 61人	12.5% 15人	9.2% 11人	6.7% 8人	10.8% 13人	36.7% 44人	10.0% 12人
"関心がある"福祉分野	①高齢者の福祉に関すること	100.0% 501人	17.4% 87人	20.6% 103人	55.9% 280人	17.0% 85人	6.2% 31人	13.6% 68人	20.4% 102人	40.1% 201人	7.6% 38人
	②介護に関すること	100.0% 502人	17.5% 88人	20.9% 105人	55.6% 279人	16.9% 85人	5.8% 29人	13.1% 66人	20.5% 103人	40.0% 201人	7.4% 37人
	③保育、子育て支援など子どもの福祉に関すること	100.0% 425人	17.2% 73人	20.9% 89人	55.8% 237人	16.0% 68人	5.9% 25人	11.1% 47人	17.9% 76人	42.8% 182人	8.5% 36人
	④障がい者の福祉に関すること	100.0% 408人	16.9% 69人	20.6% 84人	58.1% 237人	17.4% 71人	5.9% 24人	12.7% 52人	20.3% 83人	42.6% 174人	7.6% 31人
	⑤地域の助け合いやボランティア活動	100.0% 433人	17.8% 77人	21.0% 91人	56.8% 246人	17.3% 75人	5.8% 25人	14.3% 62人	21.5% 93人	42.0% 182人	7.6% 33人
	⑥保健・健康づくり	100.0% 486人	16.9% 82人	19.8% 96人	54.7% 266人	17.3% 84人	6.0% 29人	12.3% 60人	19.8% 96人	40.5% 197人	7.4% 36人
	⑦医療・保険に関すること	100.0% 512人	16.4% 84人	20.3% 104人	55.3% 283人	16.2% 83人	6.3% 32人	12.5% 64人	19.5% 100人	41.0% 210人	8.2% 42人

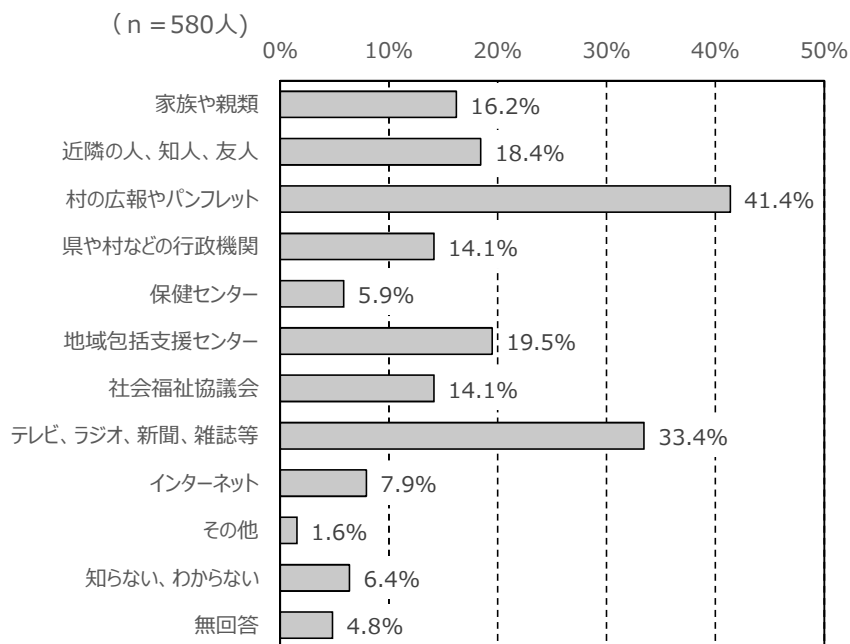
※「その他」、「知らない、わからない」、「無回答」の属性別の回答については割愛

①高齢者の福祉に関することについて、『女性』の場合、『男性』よりも「家族や親類」、「近隣の人、知人、友人」への回答が多くなっています。

「村の広報やパンフレット」については全般的に回答の割合が高いですが、『20～30代』と『75歳以上（後期高齢者）』ではやや回答の割合が低くなっています。また65歳以上の高齢者では「社会福祉協議会」への回答が若い世代よりも多く、75歳未満では「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等」への回答が4割を占めています。

また世帯の中に『介護を必要とする方』がいる場合、「家族や親類」、「近隣の人、知人、友人」、「地域包括支援センター」などへの回答が多くなっています。

②介護に関すること



②介護に関することについては、41.4%と4割が「村の広報やパンフレット」から情報を得ているとしています。ついで、「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等」が33.4%となっています。

「保健センター」(5.7%)を情報の確認に活用しているという回答は少ないですが、「地域包括支援センター」への回答は19.5%となっており、介護に関する情報提供ツールの1つとして活用されているように思われます。

＜属性別にみた回答傾向＞

		n	家族や親類	近隣の人、知人、友人	村の広報やパンフレット	県や村などの行政機関	保健センター	地域包括支援センター	社会福祉協議会	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等	インターネット
全体		100.0% 580人	16.2% 94人	18.4% 107人	41.4% 240人	14.1% 82人	5.9% 34人	19.5% 113人	14.1% 82人	33.4% 194人	7.9% 46人
回答者の性別	男性	100.0% 291人	13.7% 40人	15.5% 45人	40.9% 119人	16.8% 49人	4.8% 14人	16.2% 47人	13.1% 38人	37.5% 109人	10.3% 30人
	女性	100.0% 275人	18.9% 52人	20.4% 56人	41.5% 114人	11.3% 31人	6.5% 18人	22.9% 63人	15.3% 42人	29.8% 82人	5.8% 16人
回答者の年齢	20～30代	100.0% 56人	16.1% 9人	14.3% 8人	33.9% 19人	8.9% 5人	1.8% 1人	8.9% 5人	1.8% 1人	42.9% 24人	21.4% 12人
	40～64歳	100.0% 240人	19.2% 46人	19.6% 47人	43.3% 104人	12.5% 30人	2.9% 7人	18.8% 45人	11.7% 28人	33.8% 81人	11.3% 27人
	65～74歳（前期高齢者）	100.0% 158人	15.2% 24人	21.5% 34人	45.6% 72人	15.8% 25人	8.9% 14人	23.4% 37人	16.5% 26人	34.2% 54人	3.2% 5人
	75歳以上（後期高齢者）	100.0% 123人	11.4% 14人	14.6% 18人	35.0% 43人	17.9% 22人	9.8% 12人	21.1% 26人	21.1% 26人	28.5% 35人	1.6% 2人
世帯中の状況	妊婦・乳児（1歳未満）	100.0% 18人	16.7% 3人	11.1% 2人	61.1% 11人	16.7% 3人	11.1% 2人	11.1% 2人	5.6% 1人	27.8% 5人	5.6% 1人
	小学校入学前の幼児	100.0% 65人	20.0% 13人	26.2% 17人	35.4% 23人	13.8% 9人	3.1% 2人	15.4% 10人	7.7% 5人	40.0% 26人	7.7% 5人
	小学生・中学生	100.0% 124人	18.5% 23人	16.1% 20人	40.3% 50人	16.1% 20人	2.4% 3人	15.3% 19人	12.1% 15人	25.8% 32人	11.3% 14人
	高校生	100.0% 48人	18.8% 9人	14.6% 7人	43.8% 21人	14.6% 7人	2.1% 1人	16.7% 8人	6.3% 3人	33.3% 16人	8.3% 4人
	65歳以上の方	100.0% 312人	17.3% 54人	20.5% 64人	44.2% 138人	13.8% 43人	6.1% 19人	21.8% 68人	16.0% 50人	32.4% 101人	6.1% 19人
	介護を必要とする方	100.0% 45人	31.1% 14人	22.2% 10人	42.2% 19人	15.6% 7人	2.2% 1人	57.8% 26人	22.2% 10人	20.0% 9人	6.7% 3人
	障がいのある方	100.0% 74人	21.6% 16人	20.3% 15人	32.4% 24人	21.6% 16人	9.5% 7人	32.4% 24人	18.9% 14人	28.4% 21人	12.2% 9人
	いずれもない	100.0% 120人	11.7% 14人	14.2% 17人	40.8% 49人	12.5% 15人	6.7% 8人	12.5% 15人	9.2% 11人	36.7% 44人	10.0% 12人
"関心がある" 福祉分野	①高齢者の福祉に関すること	100.0% 501人	17.0% 85人	19.6% 98人	44.7% 224人	15.6% 78人	6.8% 34人	21.8% 109人	15.8% 79人	33.7% 169人	7.8% 39人
	②介護に関すること	100.0% 502人	17.5% 88人	19.9% 100人	44.4% 223人	14.7% 74人	6.8% 34人	21.3% 107人	16.1% 81人	34.7% 174人	7.6% 38人
	③保育、子育て支援など子どもの福祉に関すること	100.0% 425人	17.2% 73人	19.5% 83人	44.2% 188人	14.1% 60人	6.1% 26人	20.0% 85人	14.4% 61人	36.2% 154人	8.2% 35人
	④障がい者の福祉に関すること	100.0% 408人	16.9% 69人	19.1% 78人	46.3% 189人	14.2% 58人	6.9% 28人	21.3% 87人	16.7% 68人	35.5% 145人	8.1% 33人
	⑤地域の助け合いやボランティア活動	100.0% 433人	17.8% 77人	19.9% 86人	45.5% 197人	15.5% 67人	6.2% 27人	23.1% 100人	17.6% 76人	34.6% 150人	7.9% 34人
	⑥保健・健康づくり	100.0% 486人	16.0% 78人	18.3% 89人	45.1% 219人	14.8% 72人	6.4% 31人	20.4% 99人	16.0% 78人	34.0% 165人	7.4% 36人
	⑦医療・保険に関すること	100.0% 512人	16.8% 86人	19.3% 99人	44.3% 227人	15.0% 77人	6.4% 33人	20.5% 105人	15.4% 79人	35.0% 179人	8.2% 42人

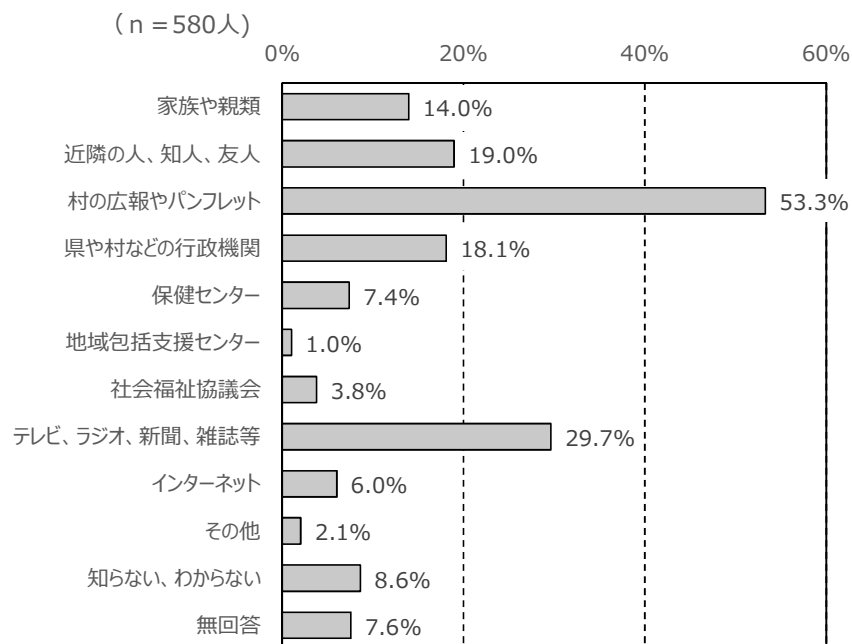
※「その他」、「知らない、わからない」、「無回答」の属性別の回答については割愛

②介護に関することについて、『男性』では「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等」への回答が『女性』よりも多く、『女性』では「地域包括支援センター」への回答が『男性』よりもやや多くなっています。

『20～30代』では「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等」、「インターネット」への回答が他の年代よりも多く、全体でもっとも回答の多かった「村の広報やパンフレット」については『20～30代』と『75歳以上（後期高齢者）』で回答の割合がやや低くなっています。

世帯の中に『介護を必要とする方』がいる場合、「地域包括支援センター」への回答が半数を超えています。

③保育、子育て支援など子どもの福祉に関すること



③保育、子育て支援など子どもの福祉に関することについては、53.3%と半数が「村の広報やパンフレット」から情報を得ているとしています。ついで、「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等」が29.7%となっています。

「県や村などの行政機関」への回答は18.1%となっていますが、「村の広報やパンフレット」への回答に比べると回答の割合が低く、行政機関の窓口で情報を確認しに行くことはややハードルが高いのではないかと考えられます。

「保健センター」への回答は7.4%にとどまっています。

＜属性別にみた回答傾向＞

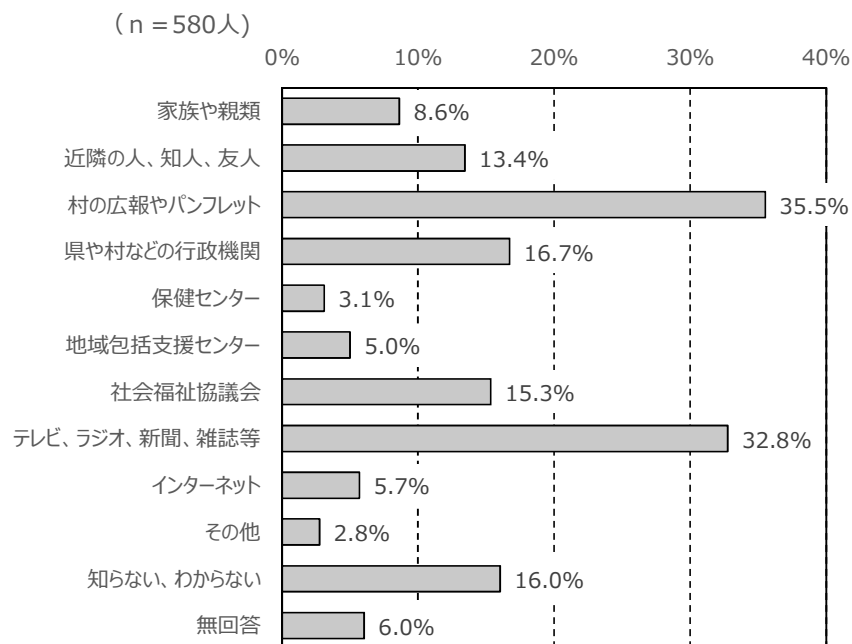
		n	家族や親類	近隣の人、知人、友人	村の広報やパンフレット	県や村などの行政機関	保健センター	地域包括支援センター	社会福祉協議会	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等	インターネット
全体		100.0% 580人	14.0% 81人	19.0% 110人	53.3% 309人	18.1% 105人	7.4% 43人	1.0% 6人	3.8% 22人	29.7% 172人	6.0% 35人
回答者の性別	男性	100.0% 291人	13.1% 38人	16.5% 48人	50.9% 148人	22.3% 65人	3.1% 9人	1.0% 3人	3.8% 11人	34.4% 100人	6.9% 20人
	女性	100.0% 275人	15.3% 42人	22.2% 61人	55.6% 153人	14.2% 39人	11.6% 32人	1.1% 3人	4.0% 11人	25.8% 71人	5.5% 15人
回答者の年齢	20～30代	100.0% 56人	28.6% 16人	39.3% 22人	53.6% 30人	10.7% 6人	16.1% 9人	1.8% 1人	0.0% 0人	33.9% 19人	19.6% 11人
	40～64歳	100.0% 240人	15.0% 36人	22.5% 54人	59.6% 143人	16.7% 40人	7.9% 19人	0.4% 1人	2.5% 6人	28.3% 68人	6.7% 16人
	65～74歳（前期高齢者）	100.0% 158人	11.4% 18人	13.9% 22人	57.0% 90人	22.2% 35人	7.0% 11人	0.6% 1人	5.1% 8人	33.5% 53人	3.2% 5人
	75歳以上（後期高齢者）	100.0% 123人	8.1% 10人	9.8% 12人	35.8% 44人	19.5% 24人	3.3% 4人	2.4% 3人	5.7% 7人	26.0% 32人	2.4% 3人
世帯の中の状況	妊婦・乳児（1歳未満）	100.0% 18人	50.0% 9人	33.3% 6人	61.1% 11人	27.8% 5人	27.8% 5人	5.6% 1人	0.0% 0人	16.7% 3人	0.0% 0人
	小学校入学前の幼児	100.0% 65人	33.8% 22人	32.3% 21人	66.2% 43人	15.4% 10人	10.8% 7人	3.1% 2人	1.5% 1人	26.2% 17人	7.7% 5人
	小学生・中学生	100.0% 124人	21.0% 26人	25.0% 31人	66.9% 83人	17.7% 22人	7.3% 9人	0.8% 1人	4.8% 6人	21.0% 26人	8.1% 10人
	高校生	100.0% 48人	12.5% 6人	14.6% 7人	62.5% 30人	22.9% 11人	6.3% 3人	0.0% 0人	0.0% 0人	33.3% 16人	2.1% 1人
	65歳以上の方	100.0% 312人	13.5% 42人	19.9% 62人	57.7% 180人	17.9% 56人	7.7% 24人	1.3% 4人	3.5% 11人	26.9% 84人	4.5% 14人
	介護を必要とする方	100.0% 45人	15.6% 7人	17.8% 8人	55.6% 25人	8.9% 4人	6.7% 3人	2.2% 1人	2.2% 1人	22.2% 10人	8.9% 4人
	障がいのある方	100.0% 74人	8.1% 6人	21.6% 16人	44.6% 33人	17.6% 13人	6.8% 5人	1.4% 1人	4.1% 3人	29.7% 22人	9.5% 7人
	いずれもない	100.0% 120人	11.7% 14人	14.2% 17人	48.3% 58人	15.8% 19人	4.2% 5人	0.0% 0人	5.8% 7人	31.7% 38人	5.8% 7人
"関心がある"福祉分野	①高齢者の福祉に関すること	100.0% 501人	13.8% 69人	19.4% 97人	56.9% 285人	18.8% 94人	7.4% 37人	0.8% 4人	4.4% 22人	30.5% 153人	5.2% 26人
	②介護に関すること	100.0% 502人	13.9% 70人	19.9% 100人	57.2% 287人	18.7% 94人	7.4% 37人	1.0% 5人	4.2% 21人	30.7% 154人	5.6% 28人
	③保育、子育て支援など子どもの福祉に関すること	100.0% 425人	16.9% 72人	23.1% 98人	61.4% 261人	20.0% 85人	7.8% 33人	0.9% 4人	4.0% 17人	33.4% 142人	6.8% 29人
	④障がい者の福祉に関すること	100.0% 408人	15.0% 61人	20.8% 85人	58.1% 237人	19.9% 81人	6.4% 26人	1.0% 4人	4.7% 19人	34.1% 139人	5.4% 22人
	⑤地域の助け合いやボランティア活動	100.0% 433人	15.0% 65人	19.9% 86人	58.9% 255人	20.1% 87人	8.3% 36人	1.2% 5人	4.4% 19人	32.6% 141人	6.0% 26人
	⑥保健・健康づくり	100.0% 486人	14.8% 72人	20.4% 99人	56.0% 272人	19.5% 95人	8.2% 40人	1.2% 6人	4.1% 20人	31.5% 153人	6.2% 30人
	⑦医療・保険に関すること	100.0% 512人	14.6% 75人	19.7% 101人	56.4% 289人	19.5% 100人	8.2% 42人	1.2% 6人	4.3% 22人	31.1% 159人	6.4% 33人

※「その他」、「知らない、わからない」、「無回答」の属性別の回答については割愛

③保育、子育て支援など子どもの福祉に関することについては、男女とも半数が「村の広報やパンフレット」から情報を得ているとしていますが、『男性』では3割が「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等」としています。

『20～30代』では、他の年代よりも「家族や親類」、「近隣の人、知人、友人」、「インターネット」への回答が多く、世帯の中に高校生以下の子どもがいる場合、「村の広報やパンフレット」が6割を超え、未就学児以下の子どもがいる場合には「家族や親類」、「近隣の人、知人、友人」への回答が多く、『妊婦・乳児（1歳未満）』ではさらに「県や村などの行政機関」、「保健センター」への回答が多くなっています。

④障がい者の福祉に関すること



④障がい者の福祉に関することについては、35.5%が「村の広報やパンフレット」から、32.8%が「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等」から情報を得ているとしています。

また「社会福祉協議会」への回答は15.3%となっており、高齢者や介護に比べると、社会福祉協議会から情報を得ているという回答の割合は高くなっています。

一方で、「知らない、わからない」という回答も16.0%を占めており、他の項目に比べて情報の確認手段があまり知られていないように思われます。

＜属性別にみた回答傾向＞

		n	家族や親類	近隣の人、知人、友人	村の広報やパンフレット	県や村などの行政機関	保健センター	地域包括支援センター	社会福祉協議会	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等	インターネット
全体		100.0% 580人	8.6%	13.4%	35.5%	16.7%	3.1%	5.0%	15.3%	32.8%	5.7%
回答者の性別	男性	100.0% 291人	6.2%	12.0%	34.7%	19.9%	2.4%	4.5%	16.8%	34.4%	8.2%
	女性	100.0% 275人	11.3%	14.9%	35.6%	13.5%	3.6%	5.1%	14.2%	32.0%	3.3%
回答者の年齢	20～30代	100.0% 56人	8.9%	8.9%	33.9%	7.1%	3.6%	0.0%	3.6%	33.9%	14.3%
	40～64歳	100.0% 240人	9.6%	12.5%	34.6%	12.1%	2.1%	3.8%	10.8%	32.5%	8.3%
	65～74歳（前期高齢者）	100.0% 158人	9.5%	12.7%	39.9%	23.4%	3.8%	5.1%	22.2%	35.4%	2.5%
	75歳以上（後期高齢者）	100.0% 123人	4.1%	17.9%	32.5%	22.0%	4.1%	9.8%	20.3%	30.1%	0.8%
世帯中の状況	妊婦・乳児（1歳未満）	100.0% 18人	11.1%	11.1%	44.4%	16.7%	16.7%	0.0%	5.6%	22.2%	0.0%
	小学校入学前の幼児	100.0% 65人	6.2%	12.3%	36.9%	13.8%	1.5%	6.2%	9.2%	30.8%	4.6%
	小学生・中学生	100.0% 124人	13.7%	9.7%	38.7%	16.1%	1.6%	1.6%	15.3%	20.2%	7.3%
	高校生	100.0% 48人	14.6%	6.3%	29.2%	14.6%	4.2%	0.0%	16.7%	31.3%	2.1%
	65歳以上の方	100.0% 312人	9.0%	13.1%	37.2%	17.3%	3.8%	5.8%	17.3%	32.7%	4.8%
	介護を必要とする方	100.0% 45人	4.4%	17.8%	40.0%	15.6%	6.7%	15.6%	17.8%	33.3%	2.2%
	障がいのある方	100.0% 74人	16.2%	18.9%	32.4%	33.8%	4.1%	16.2%	18.9%	29.7%	13.5%
	いずれもない	100.0% 120人	4.2%	10.0%	35.8%	13.3%	1.7%	1.7%	10.8%	32.5%	7.5%
“関心がある”福祉分野	①高齢者の福祉に関すること	100.0% 501人	9.2%	14.2%	36.7%	18.2%	3.4%	5.8%	17.0%	34.3%	5.2%
	②介護に関すること	100.0% 502人	9.6%	14.1%	38.0%	18.1%	3.4%	5.6%	17.3%	34.7%	5.0%
	③保育、子育て支援など子どもの福祉に関すること	100.0% 425人	9.6%	14.1%	39.3%	16.9%	3.3%	4.2%	15.5%	35.3%	5.6%
	④障がい者の福祉に関すること	100.0% 408人	10.5%	15.9%	40.0%	20.3%	3.7%	5.1%	18.6%	37.0%	6.1%
	⑤地域の助け合いやボランティア活動	100.0% 433人	9.5%	15.2%	38.3%	18.2%	3.7%	5.8%	18.5%	35.1%	5.5%
	⑥保健・健康づくり	100.0% 486人	9.3%	14.4%	38.5%	17.9%	3.5%	5.3%	16.9%	34.4%	4.9%
	⑦医療・保険に関すること	100.0% 512人	9.6%	13.7%	37.3%	17.4%	3.5%	5.7%	16.8%	33.8%	5.9%

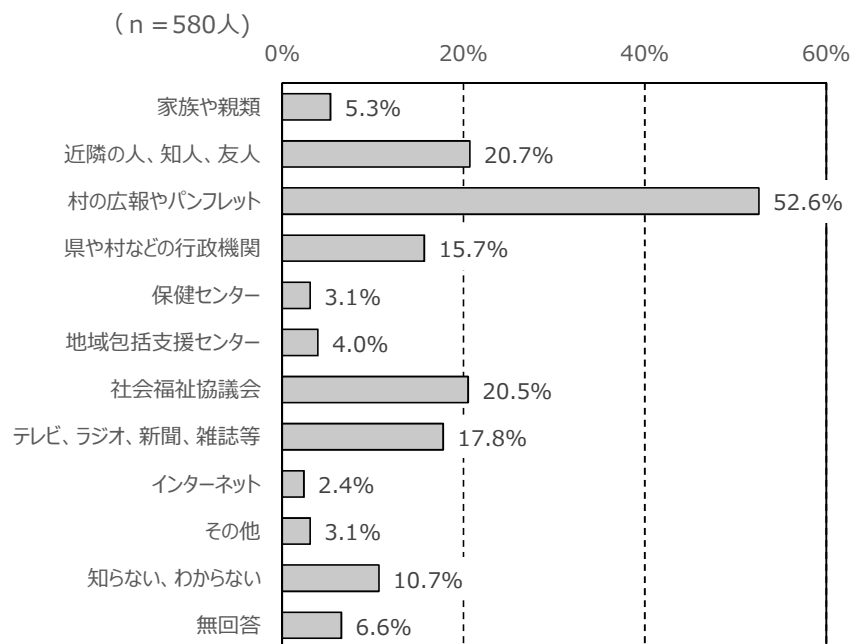
※「その他」、「知らない、わからない」、「無回答」の属性別の回答については割愛

④障がい者の福祉に関することについては、『女性』の場合、『男性』よりも「家族や親類」への回答が多くなっています。

『20～30代』では「インターネット」、65歳以上では「県や村などの行政機関」への回答が他の年代よりも多くなっています。

『障がいのある方』が世帯の中にいる場合、「県や村などの行政機関」への回答が33.8%と特に回答の割合が高くなっています。

⑤地域の助け合いやボランティア活動



⑤地域の助け合いやボランティア活動については、52.6%と半数が「村の広報やパンフレット」から情報を得ているとしています。

また「社会福祉協議会」への回答は20.5%となっており、地域での活動に関する情報提供ツールの1つとして活用されているように思われます。

＜属性別にみた回答傾向＞

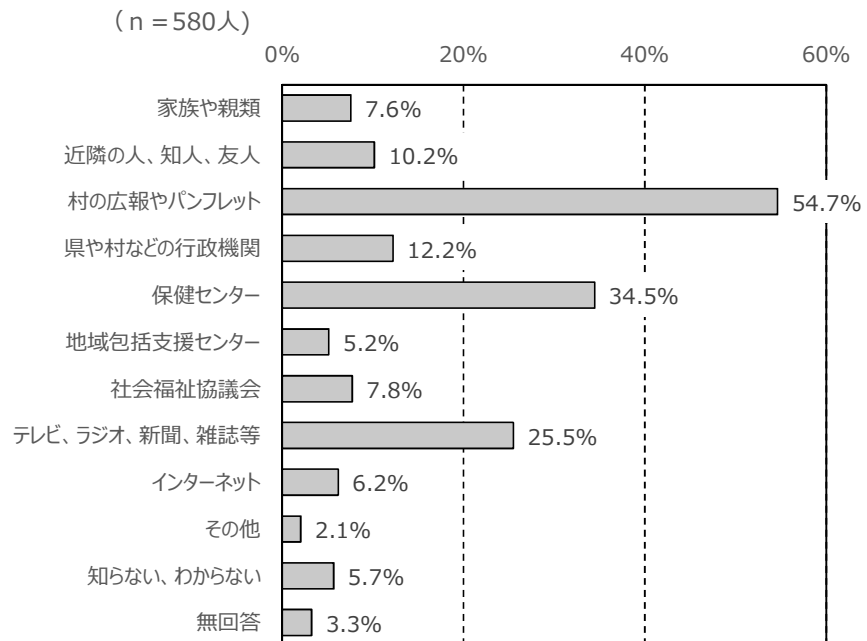
		n	家族や親類	近隣の人、知人、友人	村の広報やパンフレット	県や村などの行政機関	保健センター	地域包括支援センター	社会福祉協議会	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等	インターネット
全体		100.0% 580人	5.3% 31人	20.7% 120人	52.6% 305人	15.7% 91人	3.1% 18人	4.0% 23人	20.5% 119人	17.8% 103人	2.4% 14人
回答者の性別	男性	100.0% 291人	4.5% 13人	17.5% 51人	50.5% 147人	16.8% 49人	2.4% 7人	2.7% 8人	17.9% 52人	23.7% 69人	4.1% 12人
	女性	100.0% 275人	6.5% 18人	23.6% 65人	55.6% 153人	14.9% 41人	3.6% 10人	5.1% 14人	24.0% 66人	12.0% 33人	0.7% 2人
回答者の年齢	20～30代	100.0% 56人	5.4% 3人	16.1% 9人	58.9% 33人	12.5% 7人	1.8% 1人	1.8% 1人	10.7% 6人	25.0% 14人	10.7% 6人
	40～64歳	100.0% 240人	7.9% 19人	19.6% 47人	56.7% 136人	13.8% 33人	2.5% 6人	2.9% 7人	15.4% 37人	16.7% 40人	2.9% 7人
	65～74歳（前期高齢者）	100.0% 158人	3.8% 6人	25.3% 40人	50.6% 80人	19.0% 30人	3.8% 6人	4.4% 7人	24.7% 39人	19.6% 31人	0.6% 1人
	75歳以上（後期高齢者）	100.0% 123人	2.4% 3人	17.9% 22人	45.5% 56人	17.1% 21人	4.1% 5人	6.5% 8人	28.5% 35人	14.6% 18人	0.0% 0人
世帯中の状況	妊婦・乳児（1歳未満）	100.0% 18人	0.0% 0人	22.2% 4人	55.6% 10人	22.2% 4人	0.0% 0人	0.0% 0人	22.2% 4人	16.7% 3人	0.0% 0人
	小学校入学前の幼児	100.0% 65人	6.2% 4人	24.6% 16人	63.1% 41人	12.3% 8人	0.0% 0人	4.6% 3人	12.3% 8人	15.4% 10人	0.0% 0人
	小学生・中学生	100.0% 124人	8.9% 11人	17.7% 22人	60.5% 75人	12.9% 16人	2.4% 3人	2.4% 3人	20.2% 25人	16.9% 21人	2.4% 3人
	高校生	100.0% 48人	8.3% 4人	16.7% 8人	54.2% 26人	8.3% 4人	0.0% 0人	0.0% 0人	22.9% 11人	16.7% 8人	0.0% 0人
	65歳以上の方	100.0% 312人	5.8% 18人	19.9% 62人	53.5% 167人	14.1% 44人	4.5% 14人	3.8% 12人	22.4% 70人	18.3% 57人	1.6% 5人
	介護を必要とする方	100.0% 45人	2.2% 1人	28.9% 13人	60.0% 27人	24.4% 11人	2.2% 1人	6.7% 3人	22.2% 10人	22.2% 10人	2.2% 1人
	障がいのある方	100.0% 74人	5.4% 4人	27.0% 20人	55.4% 41人	20.3% 15人	4.1% 3人	4.1% 3人	23.0% 17人	18.9% 14人	4.1% 3人
	いずれもない	100.0% 120人	3.3% 4人	19.2% 23人	50.0% 60人	18.3% 22人	1.7% 2人	2.5% 3人	15.0% 18人	16.7% 20人	2.5% 3人
"関心がある" 福祉分野	①高齢者の福祉に関すること	100.0% 501人	5.2% 26人	22.0% 110人	53.7% 269人	17.2% 86人	3.6% 18人	4.4% 22人	22.6% 113人	18.6% 93人	2.0% 10人
	②介護に関すること	100.0% 502人	5.6% 28人	22.5% 113人	55.0% 276人	16.7% 84人	3.4% 17人	4.2% 21人	23.1% 116人	18.1% 91人	2.0% 10人
	③保育、子育て支援など子どもの福祉に関すること	100.0% 425人	6.4% 27人	22.1% 94人	58.6% 249人	16.7% 71人	3.8% 16人	4.0% 17人	19.5% 83人	20.0% 85人	2.6% 11人
	④障がい者の福祉に関すること	100.0% 408人	5.9% 24人	23.5% 96人	56.4% 230人	17.2% 70人	3.7% 15人	4.4% 18人	24.0% 98人	20.3% 83人	2.2% 9人
	⑤地域の助け合いやボランティア活動	100.0% 433人	6.2% 27人	23.8% 103人	56.6% 245人	16.9% 73人	3.5% 15人	5.1% 22人	24.7% 107人	19.2% 83人	2.3% 10人
	⑥保健・健康づくり	100.0% 486人	6.2% 30人	22.2% 108人	56.0% 272人	16.7% 81人	3.5% 17人	4.5% 22人	22.4% 109人	20.0% 97人	2.3% 11人
	⑦医療・保険に関すること	100.0% 512人	6.1% 31人	21.5% 110人	55.3% 283人	16.4% 84人	3.5% 18人	4.3% 22人	22.3% 114人	18.8% 96人	2.5% 13人

※「その他」、「知らない、わからない」、「無回答」の属性別の回答については割愛

⑤地域の助け合いやボランティア活動については、男女とも「村の広報やパンフレット」への回答が半数以上を占めていますが、『女性』では「近隣の人、知人、友人」、「社会福祉協議会」への回答が『男性』よりも多くなっています。また『男性』では「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等」への回答が2割を超えています。

『20～30代』では「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等」、「インターネット」への回答が他の年代よりも多く、いずれの年代でももっとも多く挙げられている「村の広報やパンフレット」については年代が上がるほど回答の割合が低く、『75歳以上（後期高齢者）』では45.5%となっています。

⑥保健・健康づくり



⑥保健・健康づくりについては、54.7%と半数が「村の広報やパンフレット」から情報を得ているとしています。

また「保健センター」への回答は34.5%となっており、保健に関する情報提供ツールの1つとして活用されているように思われます。

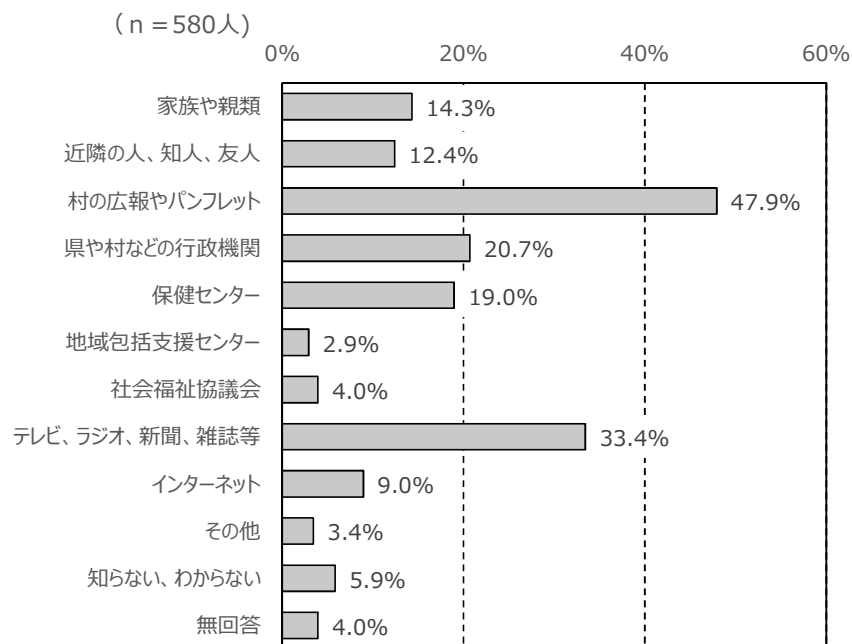
＜属性別にみた回答傾向＞

		n	家族や親類	近隣の人、知人、友人	村の広報やパンフレット	県や村などの行政機関	保健センター	地域包括支援センター	社会福祉協議会	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等	インターネット
全体		100.0% 580人	7.6% 44人	10.2% 59人	54.7% 317人	12.2% 71人	34.5% 200人	5.2% 30人	7.8% 45人	25.5% 148人	6.2% 36人
回答者の性別	男性	100.0% 291人	6.9% 20人	8.9% 26人	52.9% 154人	13.7% 40人	34.0% 99人	3.1% 9人	8.6% 25人	26.5% 77人	8.2% 24人
	女性	100.0% 275人	8.7% 24人	11.6% 32人	56.7% 156人	10.9% 30人	34.9% 96人	6.5% 18人	7.3% 20人	25.5% 70人	4.4% 12人
回答者の年齢	20～30代	100.0% 56人	8.9% 5人	10.7% 6人	53.6% 30人	7.1% 4人	28.6% 16人	3.6% 2人	0.0% 0人	32.1% 18人	21.4% 12人
	40～64歳	100.0% 240人	8.8% 21人	11.3% 27人	58.3% 140人	9.6% 23人	35.4% 85人	1.3% 3人	2.5% 6人	22.5% 54人	7.9% 19人
	65～74歳（前期高齢者）	100.0% 158人	7.0% 11人	12.0% 19人	53.8% 85人	13.9% 22人	38.6% 61人	6.3% 10人	11.4% 18人	31.6% 50人	2.5% 4人
	75歳以上（後期高齢者）	100.0% 123人	5.7% 7人	4.9% 6人	48.8% 60人	17.9% 22人	30.1% 37人	11.4% 14人	17.1% 21人	21.1% 26人	0.8% 1人
世帯中の状況	妊婦・乳児（1歳未満）	100.0% 18人	5.6% 1人	5.6% 1人	66.7% 12人	5.6% 1人	44.4% 8人	0.0% 0人	11.1% 2人	0.0% 0人	0.0% 0人
	小学校入学前の幼児	100.0% 65人	10.8% 7人	10.8% 7人	52.3% 34人	12.3% 8人	40.0% 26人	4.6% 3人	3.1% 2人	18.5% 12人	4.6% 3人
	小学生・中学生	100.0% 124人	12.1% 15人	10.5% 13人	58.9% 73人	10.5% 13人	32.3% 40人	5.6% 7人	5.6% 7人	17.7% 22人	9.7% 12人
	高校生	100.0% 48人	10.4% 5人	10.4% 5人	54.2% 26人	6.3% 3人	25.0% 12人	4.2% 2人	4.2% 2人	25.0% 12人	4.2% 2人
	65歳以上の方	100.0% 312人	9.0% 28人	10.3% 32人	58.0% 181人	11.5% 36人	36.9% 115人	4.8% 15人	9.0% 28人	23.7% 74人	5.1% 16人
	介護を必要とする方	100.0% 45人	11.1% 5人	17.8% 8人	51.1% 23人	15.6% 7人	28.9% 13人	8.9% 4人	8.9% 4人	22.2% 10人	4.4% 2人
	障がいのある方	100.0% 74人	8.1% 6人	16.2% 12人	45.9% 34人	12.2% 9人	36.5% 27人	4.1% 3人	12.2% 9人	23.0% 17人	10.8% 8人
	いずれもない	100.0% 120人	5.0% 6人	5.8% 7人	53.3% 64人	15.0% 18人	29.2% 35人	3.3% 4人	4.2% 5人	28.3% 34人	5.8% 7人
"関心がある" 福祉分野	①高齢者の福祉に関すること	100.0% 501人	7.4% 37人	10.6% 53人	56.9% 285人	13.4% 67人	37.1% 186人	6.0% 30人	8.6% 43人	25.9% 130人	5.4% 27人
	②介護に関すること	100.0% 502人	7.8% 39人	10.4% 52人	57.4% 288人	12.9% 65人	37.3% 187人	6.0% 30人	8.2% 41人	26.3% 132人	6.2% 31人
	③保育、子育て支援など子どもの福祉に関すること	100.0% 425人	8.2% 35人	11.1% 47人	58.8% 250人	12.7% 54人	35.5% 151人	4.7% 20人	7.1% 30人	27.8% 118人	6.8% 29人
	④障がい者の福祉に関すること	100.0% 408人	8.1% 33人	10.8% 44人	58.3% 238人	13.0% 53人	36.8% 150人	6.1% 25人	9.3% 38人	27.5% 112人	6.1% 25人
	⑤地域の助け合いやボランティア活動	100.0% 433人	8.3% 36人	10.6% 46人	59.4% 257人	13.4% 58人	37.9% 164人	6.7% 29人	8.3% 36人	26.1% 113人	5.1% 22人
	⑥保健・健康づくり	100.0% 486人	7.8% 38人	11.1% 54人	57.8% 281人	13.4% 65人	37.2% 181人	5.8% 28人	8.0% 39人	27.2% 132人	6.0% 29人
	⑦医療・保険に関すること	100.0% 512人	8.0% 41人	10.4% 53人	58.0% 297人	12.9% 66人	37.1% 190人	5.7% 29人	8.4% 43人	26.0% 133人	6.4% 33人

※「その他」、「知らない、わからない」、「無回答」の属性別の回答については割愛

⑥保健・健康づくりについては、男女間の回答傾向に大きな差はなく、回答者の年齢別にみると、いずれの年代でももっとも多く挙げられている「村の広報やパンフレット」については『75歳以上（後期高齢者）』では48.8%で、他の年代よりも回答の割合が低くなっています。『20～30代』ではその他に「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等」、「インターネット」への回答が他の年代よりも多くなっており、『40～64歳』と『65～74歳（前期高齢者）』では「保健センター」への回答が多くなっています。

⑦医療・保険に関すること



⑦医療・保険に関することについては、47.9%と4割以上が「村の広報やパンフレット」から情報を得ているとしています。ついで、「テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等」が33.4%となっています。

＜属性別にみた回答傾向＞

		n	家族や親類	近隣の人、知人、友人	村の広報やパンフレット	県や村などの行政機関	保健センター	地域包括支援センター	社会福祉協議会	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌等	インターネット
全体		100.0% 580人	14.3% 83人	12.4% 72人	47.9% 278人	20.7% 120人	19.0% 110人	2.9% 17人	4.0% 23人	33.4% 194人	9.0% 52人
回答者の性別	男性	100.0% 291人	12.0% 35人	13.1% 38人	46.4% 135人	22.3% 65人	20.3% 59人	2.7% 8人	4.8% 14人	34.0% 99人	10.7% 31人
	女性	100.0% 275人	17.1% 47人	11.3% 31人	49.8% 137人	19.3% 53人	16.7% 46人	2.9% 8人	3.3% 9人	33.5% 92人	7.6% 21人
回答者の年齢	20～30代	100.0% 56人	17.9% 10人	12.5% 7人	41.1% 23人	19.6% 11人	10.7% 6人	1.8% 1人	0.0% 0人	35.7% 20人	23.2% 13人
	40～64歳	100.0% 240人	15.8% 38人	13.3% 32人	48.3% 116人	15.0% 36人	17.9% 43人	1.3% 3人	1.3% 3人	32.5% 78人	12.9% 31人
	65～74歳（前期高齢者）	100.0% 158人	15.2% 24人	10.8% 17人	51.9% 82人	27.2% 43人	21.5% 34人	1.9% 3人	5.7% 9人	38.6% 61人	3.2% 5人
	75歳以上（後期高齢者）	100.0% 123人	8.1% 10人	12.2% 15人	44.7% 55人	24.4% 30人	22.0% 27人	8.1% 10人	8.9% 11人	28.5% 35人	2.4% 3人
世帯の中の状況	妊婦・乳児（1歳未満）	100.0% 18人	27.8% 5人	11.1% 2人	27.8% 5人	16.7% 3人	16.7% 3人	0.0% 0人	5.6% 1人	22.2% 4人	0.0% 0人
	小学校入学前の幼児	100.0% 65人	20.0% 13人	18.5% 12人	43.1% 28人	20.0% 13人	16.9% 11人	3.1% 2人	0.0% 0人	29.2% 19人	7.7% 5人
	小学生・中学生	100.0% 124人	19.4% 24人	16.1% 20人	54.0% 67人	17.7% 22人	17.7% 22人	2.4% 3人	1.6% 2人	23.4% 29人	15.3% 19人
	高校生	100.0% 48人	16.7% 8人	14.6% 7人	43.8% 21人	14.6% 7人	16.7% 8人	4.2% 2人	2.1% 1人	39.6% 19人	8.3% 4人
	65歳以上の方	100.0% 312人	14.7% 46人	12.5% 39人	53.5% 167人	20.2% 63人	20.5% 64人	2.9% 9人	4.5% 14人	32.4% 101人	8.7% 27人
	介護を必要とする方	100.0% 45人	20.0% 9人	8.9% 4人	40.0% 18人	26.7% 12人	28.9% 13人	8.9% 4人	4.4% 2人	28.9% 13人	6.7% 3人
	障がいのある方	100.0% 74人	17.6% 13人	13.5% 10人	41.9% 31人	32.4% 24人	18.9% 14人	5.4% 4人	6.8% 5人	24.3% 18人	16.2% 12人
	いずれもない	100.0% 120人	10.0% 12人	6.7% 8人	42.5% 51人	19.2% 23人	15.8% 19人	0.8% 1人	4.2% 5人	38.3% 46人	8.3% 10人
"関心がある" 福祉分野	①高齢者の福祉に関すること	100.0% 501人	14.2% 71人	12.4% 62人	51.1% 256人	22.8% 114人	19.4% 97人	3.4% 17人	4.0% 20人	35.1% 176人	8.6% 43人
	②介護に関すること	100.0% 502人	15.1% 76人	13.1% 66人	51.8% 260人	22.1% 111人	19.1% 96人	3.4% 17人	4.4% 22人	34.9% 175人	8.8% 44人
	③保育、子育て支援など子どもの福祉に関すること	100.0% 425人	15.1% 64人	14.4% 61人	50.8% 216人	21.4% 91人	19.5% 83人	2.6% 11人	4.0% 17人	36.0% 153人	9.2% 39人
	④障がい者の福祉に関すること	100.0% 408人	14.2% 58人	12.7% 52人	51.5% 210人	23.0% 94人	19.9% 81人	3.4% 14人	4.7% 19人	37.0% 151人	8.1% 33人
	⑤地域の助け合いやボランティア活動	100.0% 433人	14.8% 64人	12.9% 56人	51.7% 224人	23.6% 102人	21.5% 93人	3.2% 14人	4.2% 18人	37.2% 161人	8.5% 37人
	⑥保健・健康づくり	100.0% 486人	14.2% 69人	13.2% 64人	51.2% 249人	22.8% 111人	20.0% 97人	3.3% 16人	4.1% 20人	35.6% 173人	9.1% 44人
	⑦医療・保険に関すること	100.0% 512人	14.8% 76人	13.3% 68人	51.0% 261人	22.3% 114人	19.5% 100人	3.3% 17人	4.5% 23人	35.9% 184人	9.4% 48人

※「その他」、「知らない、わからない」、「無回答」の属性別の回答については割愛

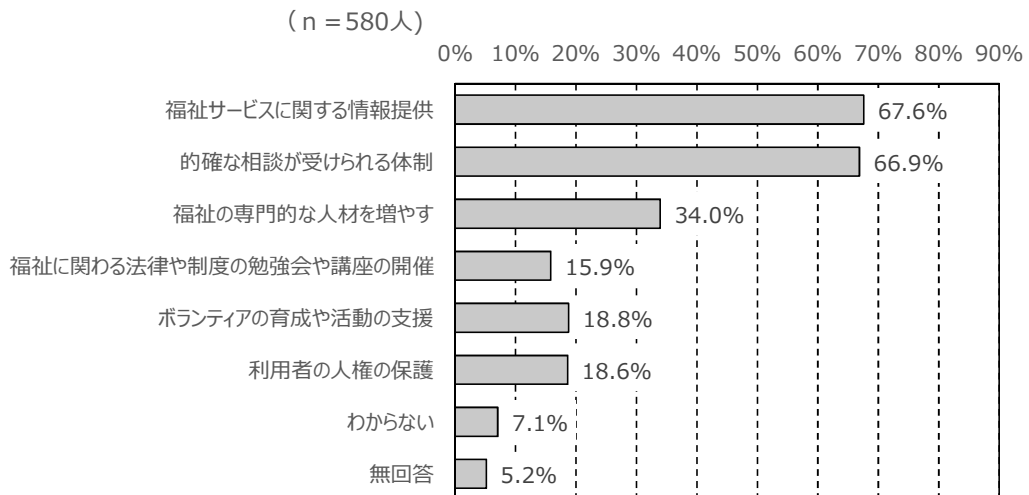
⑦医療・保険に関することについては、男女間の回答傾向に大きな差はなく、回答者の年齢別にみると、『20～30代』では「インターネット」への回答が他の年代よりも多く、『65～74歳（前期高齢者）』では「村の広報やパンフレット」、「県や村などの行政機関」などへの回答が多くなっています。65歳以上では「保健センター」への回答が2割を超え、『75歳以上（後期高齢者）』では「地域包括支援センター」、「社会福祉協議会」への回答が他の年代よりも多くなっています。

また世帯の中に『障がいのある方』がいる場合、「県や村などの行政機関」や「インターネット」への回答の割合が高くなっています。

(3) 福祉サービスの利用において必要なこと

問7 あなたは、福祉サービスの利用者が自分にあった最適なサービスを利用するために、どのようなことが必要になると思いますか。(〇は3つまで)

①最適なサービス利用のために必要なこと



利用者が自分にあった最適な福祉サービスを利用するために必要なこととしては、「福祉サービスに関する情報提供」(67.6%)、「的確な相談が受けられる体制」(66.9%)への回答がともに6割を超え、「情報提供」と「相談体制の充実」が必要と考えられています。

<属性別にみた回答傾向>

		n	福祉サービスに関する情報提供	的確な相談が受けられる体制	福祉の専門的な人材を増やす	福祉に関わる法律や制度の勉強会や講座の開催	ボランティアの育成や活動の支援	利用者の人権の保護	わからない	無回答
全体		580人	67.6%	66.9%	34.0%	15.9%	18.8%	18.6%	7.1%	1.7%
回答者の性別	男性	291人	65.6%	64.9%	36.8%	15.5%	17.9%	18.2%	8.2%	1.0%
	女性	275人	69.8%	69.5%	29.8%	15.6%	20.0%	20.0%	5.5%	2.5%
回答者の年齢	20~30代	56人	66.1%	66.1%	37.5%	12.5%	16.1%	10.7%	7.1%	1.8%
	40~64歳	240人	67.5%	70.0%	32.9%	13.3%	17.9%	15.4%	7.9%	0.8%
	65~74歳 (前期高齢者)	158人	73.4%	72.2%	37.3%	13.3%	17.7%	23.4%	4.4%	1.9%
	75歳以上 (後期高齢者)	123人	61.8%	54.5%	30.1%	26.0%	22.8%	22.8%	8.9%	3.3%

男女間の回答傾向に大きな差はありませんが、『65~74歳 (前期高齢者)』では「福祉サービスに関する情報提供」、「的確な相談が受けられる体制」、「利用者の人権の保護」などへの回答が他の年代よりも多く、『75歳以上 (後期高齢者)』では「福祉に関わる法律や制度の勉強会や講座の開催」、「ボランティアの育成や活動の支援」、「利用者の人権の保護」などへの回答が他の年代よりも多くなっています。

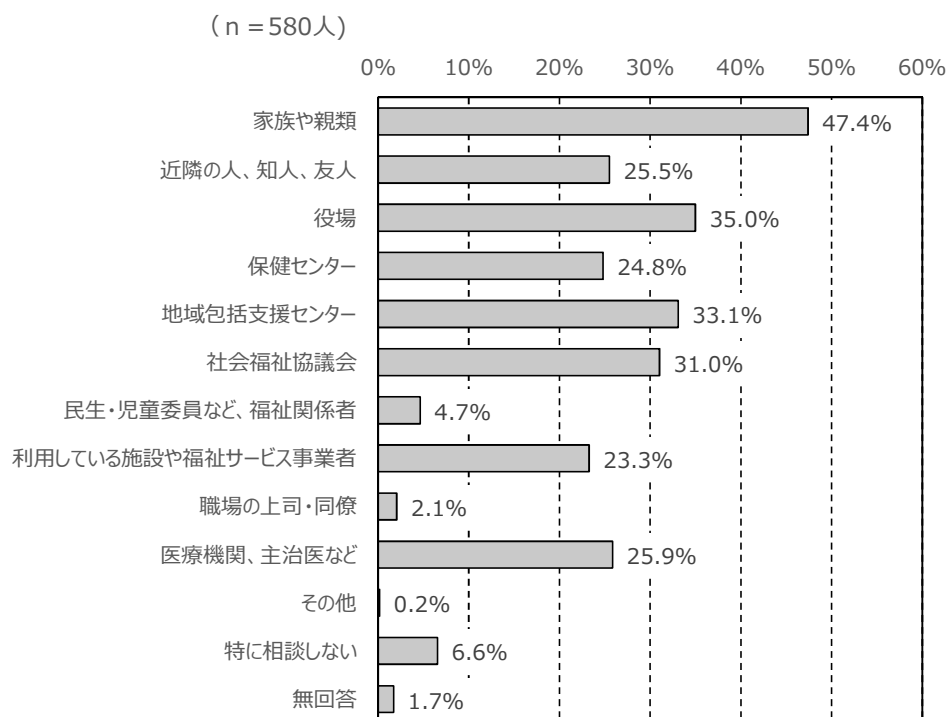
②村に希望する福祉サービスの利用促進の取組

回答内容
必要があれば人間なら自分で調べると考えている。
地元の人が地元でサービスを得られる環境
〇〇（場所）でおしえてくれるというのでは行かない。〇〇（人）さんがわしい。という「人」が信用できないと門前払いされるだろうという気がしてしまう。
使用料金を知りたい
福祉サービスの取舍選択が必要と考える
公平性、福祉マップは年ごとに变化する。作っただけのような気がする。
良い意味で“おせっかいおばさん”が居て欲しい。
福祉サービスって何？
タクシー送迎
福祉サービスがどのようなのか分からないので詳しく教えてほしい。ボランティアではなく、少しでも賃金や商品券など発生させれば人が増えると思う。そうすると皆サービスを受けれる。村の特産品などに税をかけて、そこから賃金や商品券にまわす。村外の人からも手伝ってもらえる。
中高年の体力増進のためにスポーツジムがあればいい、これから、中高年がどんどん保険税を使うような病気になってしまうので予防のために冬にスポーツできる場所が早急に必要ではないか。
具体的にサービス内容を村民にお知らせしてほしい。ワンストップの相談窓口が社協であることをお知らせする。
生産調整のようなパンフを作成し、それに各分野毎と連絡先担当者を記入すると良いのではないでしょうか。
専門的な資格を持った人材を雇用して欲しい
社福の強化
ひだまり園の入所条件等、各種料金等の公報。
サービスを受ける側になった場合のシミュレーション
当事者どうしが、集える体制がもっとあっても良いと思う。
単独施行ではなく、広域に市町を合併施行
認知度に差があるように思う
村のHPをもっと見やすくする。分かりにくいし、情報がずっと更新されておらず、情報が受け取れない。広報だけでなく、インターネットでの発信をもっと充実してほしい。
どういった場合にサービスが受けられるのかを知りたい。
情報をわかりやすく示してほしい。県や国のパンフレットだけでなく、大湯版を示してほしい
周知徹底
相談者や利用者の個人情報を守られる体制。村民の安心と信頼を得られる体制と職員資質向上
医療保険と介護保険を2つ同時に必要な時は使える様にしてもらいたい（希望です）。
外出する時の交通手段、特に一人暮らしの高齢者

回答内容
地域包括が一番頼りやすい機関だと思います。もっと利用しやすい場所であってほしいと思う。
そもそも福祉サービスとはなにかわからないのでおしえて
自分も障害者であるが特別不自由とっていないので福祉やそのサービスについて良く判らない事があれば役場に行く
ボランティアの育成、生活支援などのサービス化、見守りなどのインフォーマルな支援の基盤づくり
どこでどんなサービスを受けられるか。窓口はどこかわかりやすく村民に周知させる事ができれば利用しやすくなるのでは。
介護施設は、少なくとも2施設欲しい
今の所ないかな！
色々な病気や、なやみ事があると思いますが、同じような病気になった時に、話し合えるような事が出来たらよいかと思う。情報交流。体験話など情報提供を聞ける場があるとよいと思う。(病気について)
福祉サービスを受けたいときの窓口の簡素化
プライバシーを口外しない。
将来的な視点で施設の増強を望みます。(特養など)
村民、同土または行政の担当者とのコミュニケーションを密にする
相談が1ヶ所ですむように
情報が少ない
地域柄、色々言われるイメージがあるので担当者は、村外出身、信頼できる人等、厳選していただきたい。相談しづらいです。
移送サービスの充実(通年でやってもらいたい)
福祉分野のセンターがあると良い(窓口を含んだ)
交通体系の拡充、介護施設の増床、相談しやすい人材の育成、働く場や自立支援
サービスを受けたい利用者が相談に行く窓口は1つで、そこから分野別に指示してもらおうと行き易いし迷わない。
特養の入居数を増やしてほしい。(誰でもいつでも入居出来るよう)
誰でもわかりやすいという事、事務的でない事。
利用者の移動手段と周知(情報サービス)
よくある問い合わせの例を掲載した文書
福祉サービスを受ける人の負の心情を考えた対応、体制づくりを、支援してやる対応でなく、よるこんで支援を受けられる、地域づくりを、社会福祉でありたいです。

(4) 福祉サービスに関する相談先

問8 あなたは福祉サービスに関する相談をどこにしますか。(〇はあてはまるものすべて)



福祉サービスに関する相談先としては、「家族や親類」が47.4%で最も多く、ついで「役場」(35.0%)、「地域包括支援センター」(33.1%)、「社会福祉協議会」(31.0%)となっています。

<その他の記載内容>

回答内容
まだ、相談することがない

＜属性別にみた回答傾向＞

		n	家族や親類	近隣の人、知人、友人	役場	保健センター	地域包括支援センター	社会福祉協議会	民生・児童委員など、福祉関係者	利用している施設や福祉サービス事業者	職場の上司・同僚	医療機関、主治医など
全体		100.0%	47.4%	25.5%	35.0%	24.8%	33.1%	31.0%	4.7%	23.3%	2.1%	25.9%
		580人	275人	148人	203人	144人	192人	180人	27人	135人	12人	150人
回答者の性別	男性	100.0%	43.0%	24.7%	41.9%	25.8%	27.8%	34.0%	5.2%	23.4%	2.4%	24.4%
		291人	125人	72人	122人	75人	81人	99人	15人	68人	7人	71人
回答者の性別	女性	100.0%	52.4%	26.9%	28.0%	23.3%	38.9%	27.6%	4.4%	22.9%	1.8%	26.9%
		275人	144人	74人	77人	64人	107人	76人	12人	63人	5人	74人
回答者の年齢	20～30代	100.0%	55.4%	41.1%	28.6%	16.1%	14.3%	8.9%	1.8%	16.1%	12.5%	16.1%
		56人	31人	23人	16人	9人	8人	5人	1人	9人	7人	9人
	40～64歳	100.0%	45.4%	29.6%	40.4%	25.8%	30.4%	24.6%	1.3%	24.6%	1.3%	23.3%
		240人	109人	71人	97人	62人	73人	59人	3人	59人	3人	56人
	65～74歳（前期高齢者）	100.0%	46.2%	20.9%	31.6%	22.8%	38.0%	36.1%	7.0%	24.1%	0.6%	25.3%
	158人	73人	33人	50人	36人	60人	57人	11人	38人	1人	40人	
回答者の年齢	75歳以上（後期高齢者）	100.0%	48.8%	17.1%	32.5%	29.3%	40.7%	47.2%	9.8%	22.8%	0.8%	35.8%
		123人	60人	21人	40人	36人	50人	58人	12人	28人	1人	44人
回答者の世帯の構成	単身世帯（ひとり暮らし）	100.0%	51.1%	29.8%	21.3%	12.8%	42.6%	23.4%	2.1%	25.5%	4.3%	21.3%
		47人	24人	14人	10人	6人	20人	11人	1人	12人	2人	10人
	夫婦のみ世帯	100.0%	48.0%	21.4%	34.7%	20.4%	33.7%	30.6%	6.1%	9.2%	2.0%	25.5%
		98人	47人	21人	34人	20人	33人	30人	6人	9人	2人	25人
	二世帯家族（世帯）	100.0%	48.3%	26.1%	33.2%	26.9%	30.3%	25.2%	5.9%	21.8%	2.9%	27.3%
		238人	115人	62人	79人	64人	72人	60人	14人	52人	7人	65人
回答者の世帯の構成	三世帯家族（世帯）	100.0%	47.8%	25.5%	42.0%	28.0%	32.5%	36.9%	2.5%	29.9%	0.6%	26.8%
		157人	75人	40人	66人	44人	51人	58人	4人	47人	1人	42人
回答者の世帯の構成	その他の世帯	100.0%	38.7%	32.3%	35.5%	32.3%	41.9%	54.8%	6.5%	38.7%	0.0%	22.6%
		31人	12人	10人	11人	10人	13人	17人	2人	12人	0人	7人
世帯の中の状況	妊婦・乳児（1歳未満）	100.0%	61.1%	5.6%	38.9%	27.8%	11.1%	16.7%	5.6%	27.8%	0.0%	16.7%
		18人	11人	1人	7人	5人	2人	3人	1人	5人	0人	3人
	小学校入学前の幼児	100.0%	56.9%	30.8%	47.7%	24.6%	24.6%	20.0%	1.5%	24.6%	4.6%	18.5%
		65人	37人	20人	31人	16人	16人	13人	1人	16人	3人	12人
	小学生・中学生	100.0%	53.2%	28.2%	39.5%	27.4%	26.6%	29.0%	6.5%	25.0%	3.2%	21.8%
		124人	66人	35人	49人	34人	33人	36人	8人	31人	4人	27人
	高校生	100.0%	41.7%	20.8%	18.8%	25.0%	27.1%	20.8%	4.2%	27.1%	2.1%	22.9%
		48人	20人	10人	9人	12人	13人	10人	2人	13人	1人	11人
	65歳以上の方	100.0%	46.5%	26.9%	35.3%	26.0%	35.6%	35.3%	6.4%	26.0%	1.3%	26.3%
		312人	145人	84人	110人	81人	111人	110人	20人	81人	4人	82人
介護を必要とする方	100.0%	51.1%	20.0%	35.6%	13.3%	68.9%	28.9%	4.4%	40.0%	0.0%	35.6%	
	45人	23人	9人	16人	6人	31人	13人	2人	18人	0人	16人	
障がいのある方	100.0%	41.9%	25.7%	36.5%	14.9%	37.8%	32.4%	1.4%	35.1%	4.1%	40.5%	
	74人	31人	19人	27人	11人	28人	24人	1人	26人	3人	30人	
いずれもない	100.0%	50.0%	25.8%	31.7%	23.3%	32.5%	23.3%	0.8%	13.3%	3.3%	20.0%	
	120人	60人	31人	38人	28人	39人	28人	1人	16人	4人	24人	

※「その他」、「特に相談しない」、「無回答」の属性別の回答については割愛

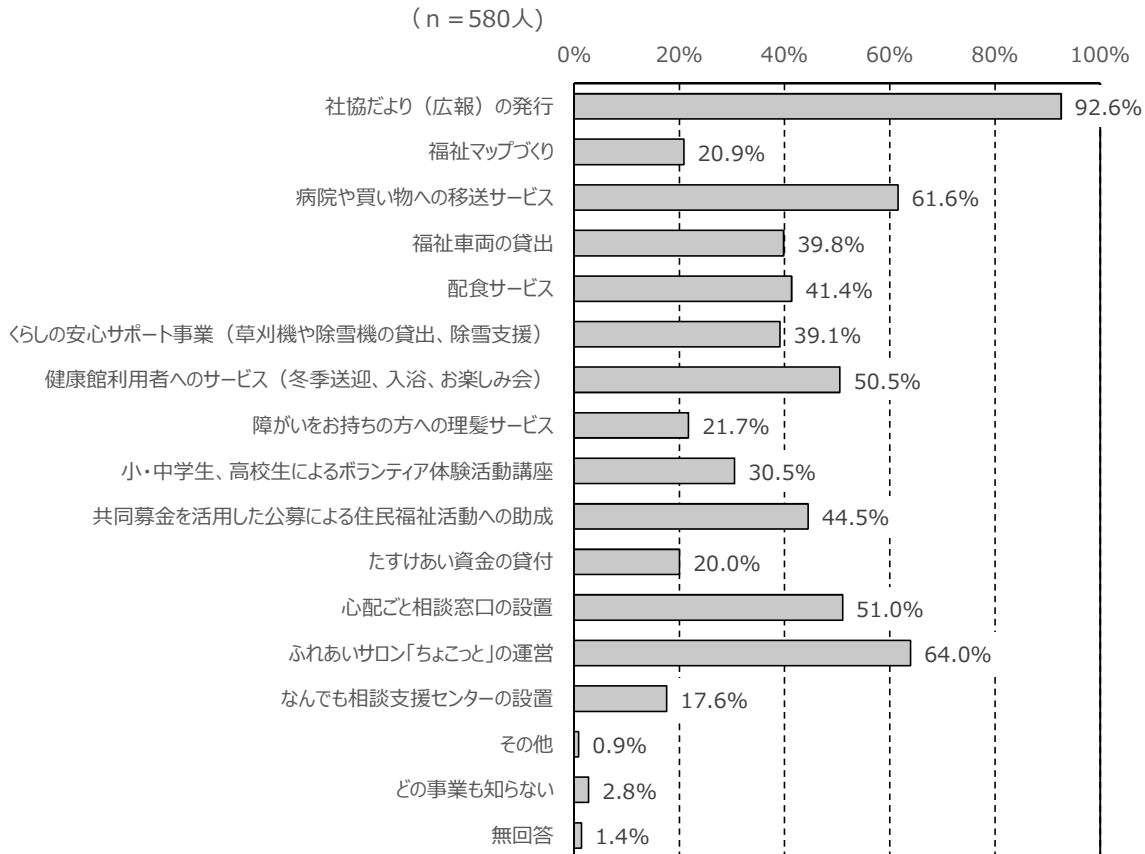
福祉サービスに関する相談相手について、『男性』では「役場」、「社会福祉協議会」への回答が『女性』よりも多くなっています。反対に『女性』では「家族や親類」が半数を超え、その他に「地域包括支援センター」への回答が多くなっています。

『20～30代』では「家族や親類」、「近隣の人、知人、友人」への回答が、『40～64歳』では「役場」が、『75歳以上（後期高齢者）』では「保健センター」、「地域包括支援センター」、「社会福祉協議会」、「医療機関、主治医など」などへの回答が多くなっています。

世帯の中に『介護を必要とする方』がいる場合、「地域包括支援センター」への回答が68.9%ととく多く、「利用している施設や福祉サービス事業者」への回答も介護を必要とする方がいない場合よりも回答の割合が高くなっています。

(5) 社会福祉協議会事業の認知状況

問9 村の社会福祉協議会ではさまざまな福祉事業を実施しています。あなたが知っている事業についてお答え下さい。(〇はあてはまるものすべて)



社会福祉協議会の実施している事業の中で知っている事業は、「社協だより (広報) の発行」が92.6%で最も多く、回答者のほとんどは「社協だより (広報) の発行」を知っているとしています。

ついで「ふれあいサロン「ちょこっと」の運営」(64.0%)と「病院や買い物への移送サービス」(61.6%)については6割以上が知っているとしており、「心配ごと相談窓口の設置」(51.0%)と「健康館利用者へのサービス (冬季送迎、入浴、お楽しみ会)」(50.5%)については半数が知っているとしています。

一方で「福祉マップづくり」(20.9%)、「障がいをお持ちの方への理髪サービス」(21.7%)、「たすけあい資金の貸付」(20.0%)、「なんでも相談支援センターの設置」(17.6%)については知っているとの回答が2割前後にとどまっています。

<その他の記載内容>

回答内容
農福連携
健康館の各室の村民への利用サービス = これはありがたいことです。
わかっていない
老人クラブ、各団体の窓口支援。

＜属性別にみた回答傾向＞

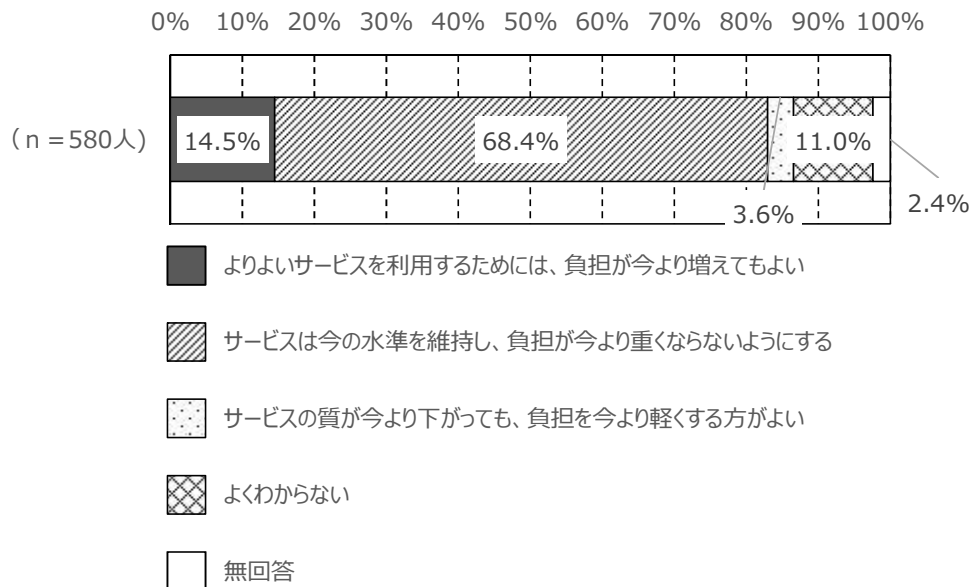
		n	社協だより（広報）の発行	福祉マップづくり	病院や買い物への移送サービス	福祉車両の貸出	配食サービス	くらしの安心サポート事業（車刈機や除雪機の貸出、除雪支援）	健康館利用者へのサービス（冬季送迎、入浴、お楽しみ会）	障がいをお持ちの方への理髪サービス	小・中学生、高校生によるボランティア体験活動講座	共同募金を活用した公募による住民福祉活動への助成
全体		100.0%	92.6%	20.9%	61.6%	39.8%	41.4%	39.1%	50.5%	21.7%	30.5%	44.5%
		580人	537人	121人	357人	231人	240人	227人	293人	126人	177人	258人
回答者の性別	男性	100.0%	92.1%	16.8%	51.2%	37.8%	29.2%	34.7%	42.3%	16.2%	18.9%	41.2%
		291人	268人	49人	149人	110人	85人	101人	123人	47人	55人	120人
回答者の性別	女性	100.0%	93.1%	25.8%	72.4%	41.8%	54.9%	44.4%	59.6%	27.6%	43.6%	49.5%
		275人	256人	71人	199人	115人	151人	122人	164人	76人	120人	136人
回答者の年齢	20～30代	100.0%	80.4%	14.3%	42.9%	17.9%	25.0%	21.4%	32.1%	8.9%	41.1%	32.1%
		56人	45人	8人	24人	10人	14人	12人	18人	5人	23人	18人
	40～64歳	100.0%	94.6%	17.1%	59.6%	36.3%	40.0%	39.2%	49.2%	16.7%	37.9%	41.7%
		240人	227人	41人	143人	87人	96人	94人	118人	40人	91人	100人
	65～74歳（前期高齢者）	100.0%	96.2%	28.5%	72.2%	55.7%	47.5%	45.6%	60.8%	31.0%	27.8%	52.5%
	158人	152人	45人	114人	88人	75人	72人	96人	49人	44人	83人	
回答者の年齢	75歳以上（後期高齢者）	100.0%	89.4%	21.1%	59.3%	36.6%	43.1%	38.2%	48.0%	23.6%	14.6%	43.9%
		123人	110人	26人	73人	45人	53人	47人	59人	29人	18人	54人
世帯の中の状況	妊婦・乳児（1歳未満）	100.0%	88.9%	5.6%	55.6%	16.7%	16.7%	11.1%	38.9%	16.7%	11.1%	33.3%
		18人	16人	1人	10人	3人	3人	2人	7人	3人	2人	6人
	小学校入学前の幼児	100.0%	90.8%	13.8%	50.8%	30.8%	32.3%	32.3%	47.7%	16.9%	29.2%	40.0%
		65人	59人	9人	33人	20人	21人	21人	31人	11人	19人	26人
	小学生・中学生	100.0%	94.4%	16.1%	59.7%	35.5%	41.9%	37.9%	52.4%	16.9%	49.2%	46.8%
		124人	117人	20人	74人	44人	52人	47人	65人	21人	61人	58人
	高校生	100.0%	95.8%	14.6%	58.3%	35.4%	41.7%	37.5%	52.1%	18.8%	47.9%	47.9%
		48人	46人	7人	28人	17人	20人	18人	25人	9人	23人	23人
	65歳以上の方	100.0%	93.9%	24.7%	66.3%	44.6%	43.3%	44.2%	58.7%	23.4%	31.7%	45.8%
		312人	293人	77人	207人	139人	135人	138人	183人	73人	99人	143人
介護を必要とする方	100.0%	97.8%	20.0%	71.1%	64.4%	48.9%	53.3%	62.2%	24.4%	24.4%	40.0%	
	45人	44人	9人	32人	29人	22人	24人	28人	11人	11人	18人	
障がいのある方	100.0%	93.2%	31.1%	77.0%	55.4%	47.3%	39.2%	54.1%	40.5%	28.4%	48.6%	
	74人	69人	23人	57人	41人	35人	29人	40人	30人	21人	36人	
いずれもない	100.0%	90.8%	14.2%	50.0%	29.2%	35.0%	31.7%	37.5%	15.0%	22.5%	41.7%	
	120人	109人	17人	60人	35人	42人	38人	45人	18人	27人	50人	

		n	たすけあい資金の貸付	心配ごと相談窓口の設置	ふれあいサロン「ちよこっ」の運営	なんでも相談支援センターの設置	その他	どの事業も知らない	無回答
全体		100.0%	20.0%	51.0%	64.0%	17.6%	0.9%	2.8%	1.4%
		580人	116人	296人	371人	102人	5人	16人	8人
回答者の性別	男性	100.0%	19.9%	46.0%	52.6%	14.4%	1.4%	3.1%	1.4%
		291人	58人	134人	153人	42人	4人	9人	4人
回答者の性別	女性	100.0%	20.7%	57.8%	77.8%	21.8%	0.4%	2.2%	1.5%
		275人	57人	159人	214人	60人	1人	6人	4人
回答者の年齢	20～30代	100.0%	16.1%	17.9%	48.2%	10.7%	1.8%	7.1%	3.6%
		56人	9人	10人	27人	6人	1人	4人	2人
	40～64歳	100.0%	18.3%	49.6%	66.3%	12.1%	1.3%	1.7%	0.4%
		240人	44人	119人	159人	29人	3人	4人	1人
	65～74歳（前期高齢者）	100.0%	25.3%	62.0%	70.9%	25.9%	0.0%	1.3%	1.9%
	158人	40人	98人	112人	41人	0人	2人	3人	
回答者の年齢	75歳以上（後期高齢者）	100.0%	17.9%	55.3%	56.9%	21.1%	0.8%	4.9%	1.6%
		123人	22人	68人	70人	26人	1人	6人	2人
世帯の中の状況	妊婦・乳児（1歳未満）	100.0%	5.6%	27.8%	50.0%	16.7%	0.0%	5.6%	5.6%
		18人	1人	5人	9人	3人	0人	1人	1人
	小学校入学前の幼児	100.0%	16.9%	35.4%	61.5%	13.8%	1.5%	3.1%	0.0%
		65人	11人	23人	40人	9人	1人	2人	0人
	小学生・中学生	100.0%	21.0%	49.2%	74.2%	18.5%	0.8%	0.0%	0.0%
		124人	26人	61人	92人	23人	1人	0人	0人
	高校生	100.0%	16.7%	52.1%	62.5%	12.5%	0.0%	2.1%	0.0%
		48人	8人	25人	30人	6人	0人	1人	0人
	65歳以上の方	100.0%	22.1%	57.4%	67.6%	17.0%	0.3%	2.2%	0.3%
		312人	69人	179人	211人	53人	1人	7人	1人
介護を必要とする方	100.0%	24.4%	53.3%	82.2%	24.4%	0.0%	0.0%	0.0%	
	45人	11人	24人	37人	11人	0人	0人	0人	
障がいのある方	100.0%	23.0%	54.1%	70.3%	16.2%	0.0%	2.7%	0.0%	
	74人	17人	40人	52人	12人	0人	2人	0人	
いずれもない	100.0%	16.7%	42.5%	55.8%	16.7%	2.5%	5.8%	2.5%	
	120人	20人	51人	67人	20人	3人	7人	3人	

社会福祉協議会で実施している事業については、おおむね『男性』よりも『女性』の方が知っているという回答が多く、年代別にみると、『65～74歳（前期高齢者）』で知っているという回答が多くなっています。『20～30代』では全般的に知っているという回答が少ないですが、「小・中学生、高校生によるボランティア体験活動講座」については他の年代よりも回答の割合が高くなっています。

(6) 福祉サービスと税負担のバランスについて

問 10 公的な福祉サービスを実施するために、国保税や介護保険料などを納めていただいております。こうした税金は福祉サービスの利用の有無に関わらず納めていただくものですが、今後のサービスと税金等の負担についてどのように考えますか。(〇は1つだけ)



福祉サービスと税負担のバランスについてみると、68.4%と7割近くは「サービスは今の水準を維持し、負担が今より重くならないようにする」としており、サービス水準も負担も現状維持を希望しています。

「サービスの質が今より下がっても、負担を今より軽くする方がよい」(3.6%)よりも、「よりよいサービスを利用するためには、負担が今より増えてもよい」(14.5%)への回答の割合の方が高く、サービス水準の低下を容認する回答は少なくなっています。

<属性別に応じた回答傾向>

		n	よりよいサービスを利用するためには、負担が今より増えてもよい	サービスは今の水準を維持し、負担が今より重くならないようにする	サービスの質が今より下がっても、負担を今より軽くする方がよい	よくわからない	無回答
全体		100.0%	14.5%	68.4%	3.6%	11.0%	2.4%
		580人	84人	397人	21人	64人	14人
回答者の性別	男性	100.0%	16.8%	64.9%	4.8%	11.0%	2.4%
		291人	49人	189人	14人	32人	7人
回答者の性別	女性	100.0%	11.3%	72.7%	2.5%	10.9%	2.5%
		275人	31人	200人	7人	30人	7人
回答者の年齢	20～30代	100.0%	19.6%	55.4%	3.6%	17.9%	3.6%
		56人	11人	31人	2人	10人	2人
	40～64歳	100.0%	13.3%	68.3%	5.0%	12.1%	1.3%
		240人	32人	164人	12人	29人	3人
回答者の年齢	65～74歳（前期高齢者）	100.0%	10.8%	75.9%	2.5%	6.3%	4.4%
		158人	17人	120人	4人	10人	7人
回答者の年齢	75歳以上（後期高齢者）	100.0%	18.7%	65.0%	2.4%	12.2%	1.6%
		123人	23人	80人	3人	15人	2人
福祉施策に対する総合満足度	満足	100.0%	15.0%	73.6%	2.7%	7.5%	1.2%
		333人	50人	245人	9人	25人	4人
	どちらでもない	100.0%	11.7%	69.3%	4.4%	12.4%	2.2%
	137人	16人	95人	6人	17人	3人	
福祉施策に対する総合満足度	不満	100.0%	16.9%	55.4%	9.2%	15.4%	3.1%
		65人	11人	36人	6人	10人	2人

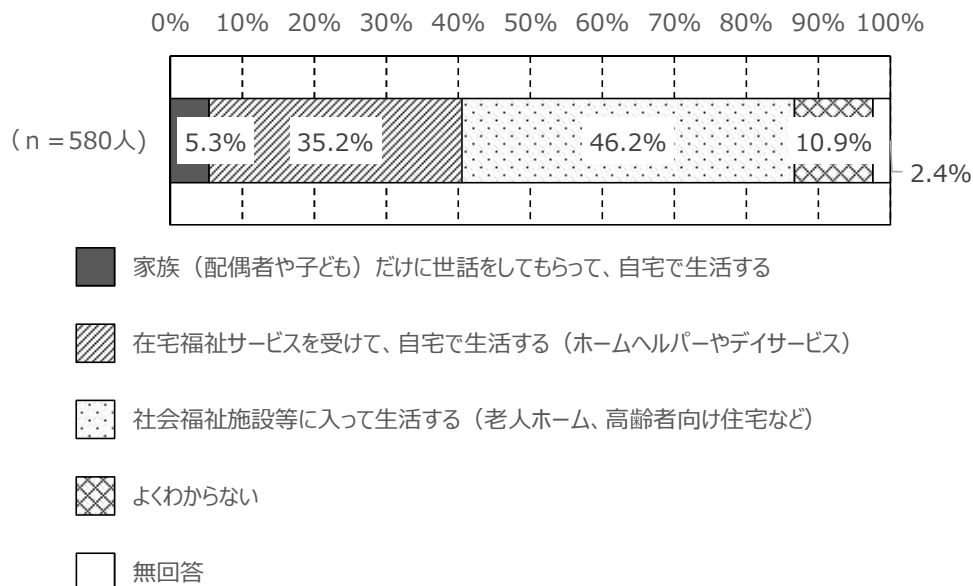
いずれの属性においても「サービスは今の水準を維持し、負担が今より重くならないようにする」への回答が多くなっていますが、『女性』や『65～74歳（前期高齢者）』、福祉施策について総合的に『満足』という回答者では、回答が7割を超えています。

(7) 今後希望する介護の形態

1) 回答者自身の場合

問 11 あなた自身が日常生活を送る上で、もし、長期間にわたって何らかのお世話（介護など）が必要になった場合、どのような形が望ましいと思いますか。（〇は1つだけ）

①希望する介護の形態



自分自身が今後介護が必要になった場合に希望する介護のあり方については、46.2%が「社会福祉施設等に入って生活する（老人ホーム、高齢者向け住宅など）」としており、「在宅福祉サービスを受けて、自宅で生活する（ホームヘルパーやデイサービス）」の35.2%を上回っています。

<属性別にみた回答傾向>

		n	家族（配偶者や子ども）だけに世話をもらって、自宅で生活する	在宅福祉サービスを受けて、自宅で生活する（ホームヘルパーやデイサービス）	社会福祉施設等に入って生活する（老人ホーム、高齢者向け住宅など）	よくわからない	無回答
全体		100.0% 580人	5.3% 31人	35.2% 204人	46.2% 268人	10.9% 63人	2.4% 14人
回答者の性別	男性	100.0% 291人	7.6% 22人	34.0% 99人	45.7% 133人	10.3% 30人	2.4% 7人
	女性	100.0% 275人	3.3% 9人	37.5% 103人	45.5% 125人	11.3% 31人	2.5% 7人
回答者の年齢	20～30代	100.0% 56人	12.5% 7人	28.6% 16人	35.7% 20人	19.6% 11人	3.6% 2人
	40～64歳	100.0% 240人	2.9% 7人	34.2% 82人	51.7% 124人	10.8% 26人	0.4% 1人
	65～74歳（前期高齢者）	100.0% 158人	3.8% 6人	35.4% 56人	49.4% 78人	6.3% 10人	5.1% 8人
	75歳以上（後期高齢者）	100.0% 123人	8.1% 10人	39.8% 49人	37.4% 46人	12.2% 15人	2.4% 3人
回答者の世帯の構成	単身世帯（ひとり暮らし）	100.0% 47人	12.8% 6人	17.0% 8人	46.8% 22人	19.1% 9人	4.3% 2人
	夫婦のみ世帯	100.0% 98人	6.1% 6人	35.7% 35人	43.9% 43人	11.2% 11人	3.1% 3人
	二世帯家族（世帯）	100.0% 238人	4.2% 10人	38.2% 91人	45.4% 108人	10.5% 25人	1.7% 4人
	三世帯家族（世帯）	100.0% 157人	3.8% 6人	35.7% 56人	50.3% 79人	8.9% 14人	1.3% 2人
	その他の世帯	100.0% 31人	9.7% 3人	35.5% 11人	41.9% 13人	9.7% 3人	3.2% 1人

自分自身の今後の介護のあり方についてはいずれの属性においても「社会福祉施設等に入って生活する（老人ホーム、高齢者向け住宅など）」への回答が多くなっていますが、『75歳以上（後期高齢者）』では、「在宅福祉サービスを受けて、自宅で生活する（ホームヘルパーやデイサービス）」への回答が39.8%とほぼ同じ割合を占めています。

『単身世帯（ひとり暮らし）』では、「家族（配偶者や子ども）だけに世話をしてもらって、自宅で生活する」への回答が12.8%で他の年代よりも回答の割合が高く、「在宅福祉サービスを受けて、自宅で生活する（ホームヘルパーやデイサービス）」については17.0%で他の年代よりも回答の割合が低くなっています。

②村に希望する福祉サービス

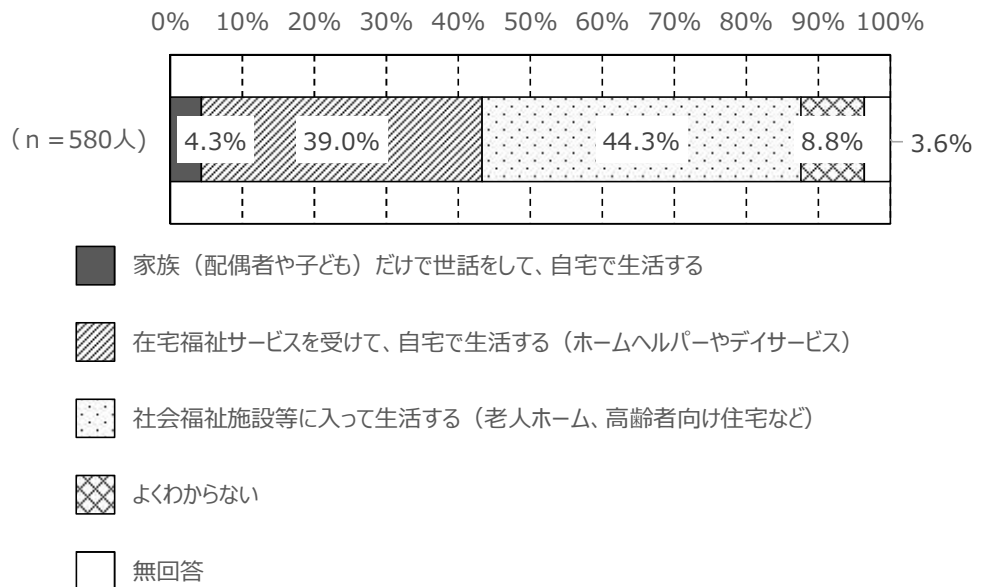
回答内容
ホームヘルパーの援助
老後の事よく考えておりません
在宅福祉サービスを充実してもらいたい
家族にめいわくがかからない在宅福祉サービス
高齢者施設が、まだ必要
訪問ヘルパー
村に「有料民間経営による高齢者用マンション」の誘致。
有料のホーム
村の真ん中に施設を作してほしい。
24時間のトータルケア（訪問診療、看護、介護）。配食サービスを毎日。グループホーム。ボランティアによる訪問。
現実にならないとわからない。
有料の対価に値する施設
健康長寿への推進活動
無理に行政直営で低質なサービスより民間の質のあるサービスがほしい
村の人が入れる様に施設ふやして下さい。年金で入れる様に！！
配食サービスの充実、状態に合うに料理の提供、ホームヘルパーを利用しやすい体制
福祉用品の貸出（高額なもの）
現在介護度によって利用できるサービスが限られていますが、希望すれば有料でも利用できる施設がほしい。○1つだけの回答はできません
ひとりでも安心できるような施策を進めてほしい。施設入所はしたくないと思っているので。
交通手段
体験入居なんてあるのかなー
要介護になった時速やかに施設等に入居出来るようにしてほしい
車の免許を返納した後の自分の足の確保をいかにしたら良いか一番心配です。
今の福祉サービス、ケアセンターで充分だと思います（続けば）。
家庭の中の家族というのはどう意味をもつか、高齢者、弱年者の有り方の勉強会があったらいい。
まずは介護保険の仕組みを村民すべて理解できるように。
配食サービス、移動手段の充実
福祉サービスに対する取り組みが見えない
その時になってみないと解らない
介護保険料は等しく負担しているのだから、施設に入った場合と、在宅の場合が、費用の面でも人的な面でも不公平にならない様にしてほしい
村の施設に入れる時にすぐ入れるようにしてほしい
あるかもしれませんが、短期入居利用の施設。

回答内容
自立したいけれど考えてはおりますが状態によりけり高齢者向けの住宅（集合）がいいかと思っています。
デイサービス利用の前にグループホーム的な場所があると良い なるべく自活できるように働きかける取り組み。
在宅サービスの充実（訪問介護など）
福祉施設に入るまで、日常生活のサポート。たとえば、金銭の管理等 リハビリ
福祉施設等に入るにも、現在は家族も少ないし、やはり先に立つものが、家族にふたんならない様に取り組んでほしい。
施設の入所者数を増やす。福祉と医療との連携による健康づくり
社会福祉施設が満室で入所出来なく、やむを得ず自宅で生活する場合、介護用ベッド等の備品の助成やレンタルをしてもらえると助かります。
特養の入居数を増やしてほしい。（誰でもいつでも入居出来るよう）
老人施設の増設
負担を少なく
ホームヘルパーやデイサービス内容の充実
介護が必要な体になったら期間を空けた上で、亡くなりたい。一年後
高齢者向けシェアハウス1人暮らし2人暮らしの方でも、利用出来る多人数で助け合いながらの共同生活。いいの家を

2) 回答者の家族の場合

問 12 あなたの家族が日常生活を送る上で、もし、長期間にわたって何らかのお世話（介護など）が必要になった場合、どのような形が望ましいと思いますか。（〇は1つだけ）

①希望する介護の形態



家族が今後介護が必要になった場合に希望する介護のあり方についても、44.3%が「社会福祉施設等に入って生活する（老人ホーム、高齢者向け住宅など）」としており、「在宅福祉サービスを受けて、自宅で生活する（ホームヘルパーやデイサービス）」の39.0%を上回っていますが、自分自身の場合に比べると差は少なく、「家族（配偶者や子ども）だけで世話をし、自宅で生活する」（4.3%）とあわせると、在宅生活を希望する回答と、施設利用を希望する回答がほぼ同じ割合となっています。

<属性別にみた回答傾向>

		n	家族（配偶者や子ども）だけで世話をし、自宅で生活する	在宅福祉サービスを受けて、自宅で生活する（ホームヘルパーやデイサービス）	社会福祉施設等に入って生活する（老人ホーム、高齢者向け住宅など）	よくわからない	無回答
全体		100.0%	4.3%	39.0%	44.3%	8.8%	3.6%
		580人	25人	226人	257人	51人	21人
回答者の性別	男性	100.0%	4.8%	37.1%	45.7%	10.0%	2.4%
		291人	14人	108人	133人	29人	7人
回答者の性別	女性	100.0%	3.6%	41.8%	42.2%	7.6%	4.7%
		275人	10人	115人	116人	21人	13人
回答者の年齢	20～30代	100.0%	12.5%	37.5%	32.1%	14.3%	3.6%
		56人	7人	21人	18人	8人	2人
	40～64歳	100.0%	2.9%	38.8%	49.2%	8.3%	0.8%
		240人	7人	93人	118人	20人	2人
回答者の年齢	65～74歳（前期高齢者）	100.0%	4.4%	36.7%	46.2%	6.3%	6.3%
		158人	7人	58人	73人	10人	10人
回答者の年齢	75歳以上（後期高齢者）	100.0%	2.4%	43.1%	39.0%	10.6%	4.9%
		123人	3人	53人	48人	13人	6人
回答者の世帯の構成	単身世帯（ひとり暮らし）	100.0%	8.5%	23.4%	34.0%	17.0%	17.0%
		47人	4人	11人	16人	8人	8人
	夫婦のみ世帯	100.0%	3.1%	46.9%	37.8%	10.2%	2.0%
		98人	3人	46人	37人	10人	2人
	二世帯家族（世帯）	100.0%	3.8%	39.5%	46.2%	8.0%	2.5%
		238人	9人	94人	110人	19人	6人
回答者の世帯の構成	三世帯家族（世帯）	100.0%	5.1%	37.6%	47.8%	8.3%	1.3%
		157人	8人	59人	75人	13人	2人
回答者の世帯の構成	その他の世帯	100.0%	3.2%	38.7%	54.8%	3.2%	0.0%
		31人	1人	12人	17人	1人	0人

家族の今後の介護のあり方については、『男性』よりも『女性』の方が「在宅福祉サービスを受けて、自宅で生活する（ホームヘルパーやデイサービス）」への回答が多く、『75歳以上（後期高齢者）』でも「在宅福祉サービスを受けて、自宅で生活する（ホームヘルパーやデイサービス）」への回答が多くなっています。一方、『単身世帯（ひとり暮らし）』では「在宅福祉サービスを受けて、自宅で生活する（ホームヘルパーやデイサービス）」への回答の割合が低くなっています。

②村に希望する福祉サービス

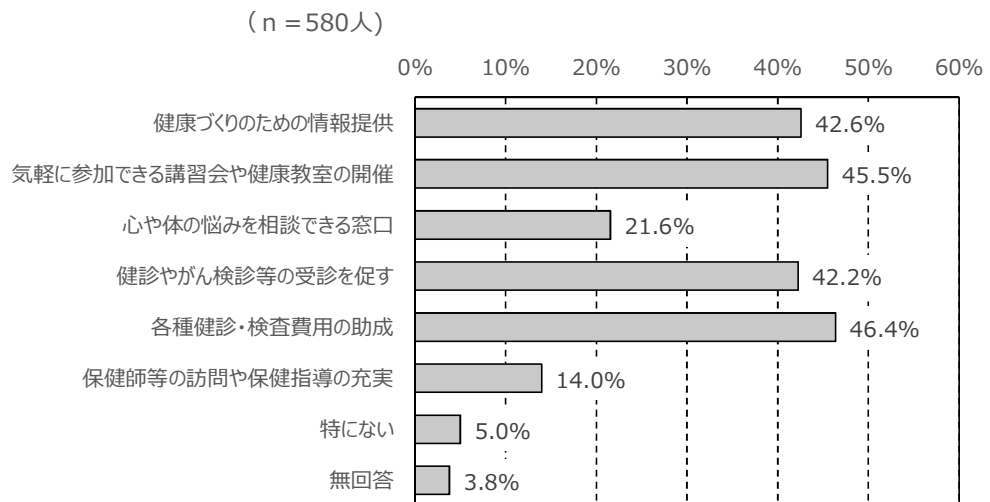
回答内容
配食、通院、入浴補助
村内の福祉をお願いします
介護の程度による
福祉スタッフが充実していて、必要なときいつでも対応してくれる事。
24時間サービスを受けられ、これらの仕事を職業にする人を増やし、待遇を良くし、産業とする。
社会福祉協議会の今後超高齢化社会（特に大潟村）に対する真剣な検討、分析そして実行（村の福祉は村民の手で）<<大潟村の基本姿勢>>
雪の無い生活。年寄りには寒さは大変。転ぶ。
24時間のトータルケア（訪問診療、看護、介護）。配食サービスを毎日。グループホーム。ボランティアによる訪問。
社会福祉施設の増設
老人保健施設等
ホームヘルパー制度の充実
有料の利用者が欲する施設
無理に行政直営で低質なサービスより民間の質のあるサービスがほしい
急用ができた時などにも預けられる体制づくり
福祉用品の貸出（高額なもの）
段階的にデイサービスから社会福祉施設等へと利用が変わって行くと思うので○1つだけの回答はできません
できる限り、自宅でお世話をしてやりたいと思っている。いろいろなサービスをとり入れて、快適な環境でと思っている。
配食サービス（毎日）
高齢者が利用している健康館への使用時間を朝9：00時～午後5時ころまで（若い人たちが安心して農作業できるため）
土曜日、日曜日のサービス
その時になってみないと解らない
在宅で家族等が世話をした場も、ホームヘルパーや、デイサービスと同じ様に、介護の料金の支払いをしてほしい。それが出来ないなら施設に行くしかない。
デイサービスの日数を多くしてほしい
高齢で介護したくても出来ないので、2、3、がいいかと思えます
施設の増設（強）定員増など
年金等でまかなえるようなサービスをのぞみます。家族も自分達の生活もあるのでふたんがふえる事によって、問題もおきかねないと思えます。
核家族化やコミュニティの希薄化等の中、支え合う事がむずかしい中、どうしても施設に頼らなければならない。
入りたいと思った時はすぐ利用出来る施設であってほしい
社会福祉施設が満室で入所出来なく、やむを得ず自宅で生活する場合、介護用ベッド等の備品の助成やレンタルをしてもらえると助かります。
特養の入居数を増やしてほしい。（誰でもいつでも入居出来るよう）
負担を少なく
心情的に介護してあげると言う上からの目線をなくすこと、申し訳ない。お世話になりますとの負の心理を無くすること

3. 健康づくりについて

(1) 健康づくりのために必要な取組

問13 あなたは、健康づくりのためにどのような取組が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

①健康づくりのために必要なこと



健康づくりのために必要な取組としては、「健康づくりのための情報提供」(42.6%)、「気軽に参加できる講習会や健康教室の開催」(45.5%)、「健診やがん検診等の受診を促す」(42.2%)、「各種健診・検査費用の助成」(46.4%)など、多くの項目で必要という回答が4割を超えていますが、「心や体の悩みを相談できる窓口」(21.6%)と「保健師等の訪問や保健指導の充実」(14.0%)への回答は他の項目に比べて回答の割合が低くなっています。

<属性別にみた回答傾向>

		n	健康づくりのための 情報提供	気軽に参加できる 講習会や健康 教室の開催	心や体の悩みを 相談できる窓口	健診やがん検診 等の受診を促す	各種健診・検査 費用の助成	保健師等の訪問 や保健指導の充 実	特になし	無回答
全体		100.0%	42.6%	45.5%	21.6%	42.2%	46.4%	14.0%	5.0%	3.8%
		580人	247人	264人	125人	245人	269人	81人	29人	22人
回答者の性別	男性	100.0%	43.6%	36.1%	18.9%	48.1%	46.0%	15.1%	7.2%	3.4%
		291人	127人	105人	55人	140人	134人	44人	21人	10人
回答者の性別	女性	100.0%	42.2%	54.9%	24.4%	36.7%	48.4%	11.3%	2.5%	4.0%
		275人	116人	151人	67人	101人	133人	31人	7人	11人
回答者の年齢	20～30代	100.0%	37.5%	48.2%	17.9%	55.4%	57.1%	10.7%	1.8%	3.6%
		56人	21人	27人	10人	31人	32人	6人	1人	2人
	40～64歳	100.0%	40.8%	42.5%	26.3%	45.8%	53.3%	10.4%	4.2%	1.3%
		240人	98人	102人	63人	110人	128人	25人	10人	3人
	65～74歳（前期高齢者）	100.0%	45.6%	44.3%	19.6%	39.9%	46.2%	15.8%	4.4%	6.3%
	158人	72人	70人	31人	63人	73人	25人	7人	10人	
回答者の年齢	75歳以上（後期高齢者）	100.0%	44.7%	51.2%	17.1%	32.5%	29.3%	19.5%	8.9%	5.7%
		123人	55人	63人	21人	40人	36人	24人	11人	7人
福祉施策に対する 総合満足度	満足	100.0%	45.9%	49.5%	19.8%	47.1%	46.2%	12.3%	3.0%	2.1%
		333人	153人	165人	66人	157人	154人	41人	10人	7人
	どちらでもない	100.0%	41.6%	39.4%	24.1%	40.9%	53.3%	13.1%	5.1%	3.6%
	137人	57人	54人	33人	56人	73人	18人	7人	5人	
福祉施策に対する 総合満足度	不満	100.0%	38.5%	49.2%	27.7%	29.2%	44.6%	20.0%	7.7%	3.1%
		65人	25人	32人	18人	19人	29人	13人	5人	2人

『女性』に比べると『男性』では「健診やがん検診等の受診を促す」への回答が多く、反対に『女性』では「気軽に参加できる講習会や健康教室の開催」への回答が多くなっています。

回答者の年齢別にみると、『20～30代』では「健診やがん検診等の受診を促す」、「各種健診・検査費用の助成」への回答が半数を超えており、他の年代よりも回答の割合が高くなっています。また、『75歳以上（後期高齢者）』では「気軽に参加できる講習会や健康教室の開催」への回答が他の年代よりも多くなっています。

福祉施策に対する総合満足度別にみると、『満足』という回答者では「健康づくりのための情報提供」、「健診やがん検診等の受診を促す」などへの回答が『不満』という回答者よりも多く、『不満』という回答者では「心や体の悩みを相談できる窓口」、「保健師等の訪問や保健指導の充実」への回答が『満足』という回答者よりも多くなっています。

②村に希望する健康づくりの取組

回答内容
無駄な飲み会の削減
「村に」といわれるとせますぎてよくかわらない
社会福祉事業に参加しづらい人を迎えに行く方法（参加希望者）
冬期間（特に）水中ウォークの出来る場所が欲しい。
トレーニングジムがほしい
健康づくりのため（意識的、無意識を問わず）貢献しているグループ、団体の再評価をして、具体的支援策を講じる。例えば“オールドパワー委員会”など
人間ドック無料、働いている人でも参加できるように夜の教室をふやす。おくないプールを作る。
年に1回の強制的な健康診断。無料で。
食育の推進
村民体育館の改修。冬の間でも多くの人が歩いたり走ったり出来る。室内施設やトレーニングルームがあれば良い。
予防医療の充実
無理に行政直営で低質なサービスより民間の質のあるサービスがほしい
講習会や教室にでかけられない人もいるので、自宅へ出掛けてきてくれて相談に乗ってくれる体制づくりが必要と思う。
詳しくはわからないのですが、血液検査や、犬の臭覚を使うような簡単な検査で、早期にガンを発見できるようになってほしいです。
健診後の指導助言
現在の健康教室を継続していただきたい。
現在あるスポーレの継続さらなる発展を願います。
ジムや走ることができる体育館
予防のための教室の充実。非農家も参加出来るように、平日夕～夜の開催
食事機能を有する図書館、娯楽施設の整備
村ではいろいろ取り組んでいるようですが利用する人が少ない。村民の意識の問題であって行政の取り組みは今のままで良いと思う。特に男性の参加が少くない。
ターゲットをしばった健康教育
健康に過ごせるように楽しく長つづきできるような健康教室の開催
車ばかりでなく、出来るだけ歩く取り組み。子育て世代～食の安全をテーマにした講習（遺伝子組み換えや食品添加物等…） 幼少期の習慣が、結果健康に生きる事につながると思う。
健康教室から生涯スポーツ、生涯学習へのサポート
（3）心や体の悩みを相談できる窓口を設け、その人が保健的な活動にも参加し、積極的な活動ができればすばらしい。
健康な人と、障害者を差別的にしないで、誰でもみな同じ村の人です。おそくても早くても、差別的にしてほしくない。
健康館のような冷暖房完備の施設が欲しい
ウォーキングやサイクリングの道路を整える
筋トレ施設

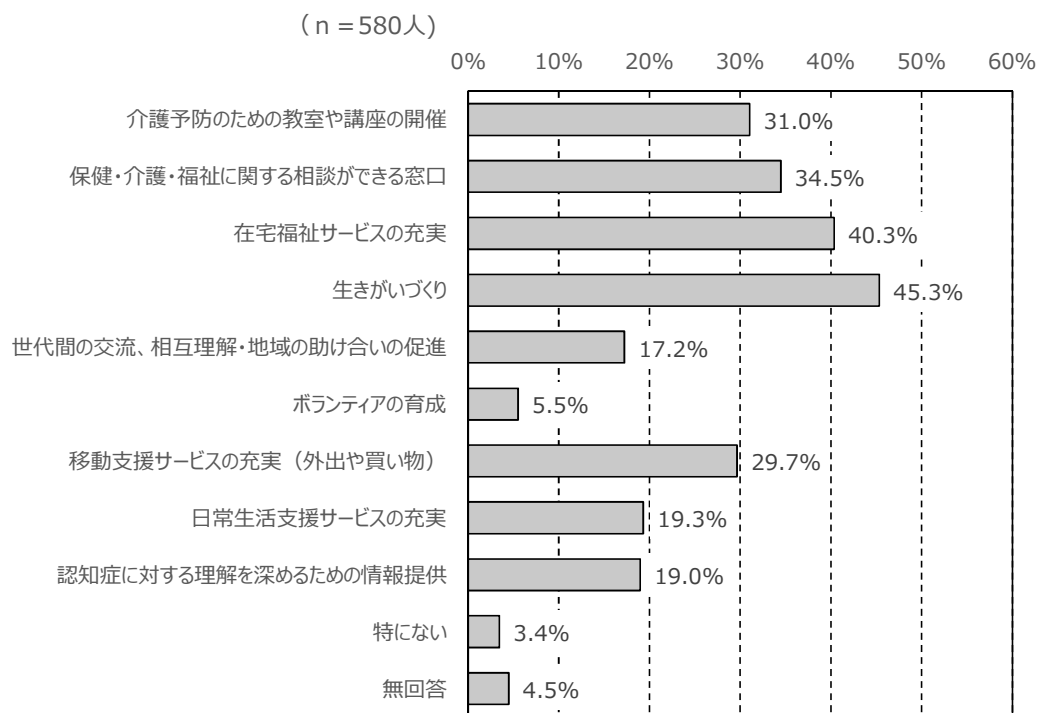
回答内容
横手駅付近の施設のようにトレーニングルームを作り、天気に関係なくいつでも運動できる場所がほしい。一人でも気がねなくできるようなものがよい。
世代別に使える施設
冬期間健康づくりの為に室内土付場作り、冬期間周辺温水プール使用料の助成、参加利用促進。
2の充実
積極的に体を動かす取り組みをする。気安い取り組みはだめです。強制的に運動させる。甘やかしが良くない。
各住区ごとに元気クラブの立上げ、高齢者の仲間づくり、茶のみ友だちづくり

4. 高齢者の福祉について

(1) 高齢者の生活支援のために必要な取組

問 14 高齢者が自立した生活を送っていくために、あなたは、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

① 高齢者の生活支援のために必要なこと



高齢者が自立した生活を送っていくために必要なこととしては、「生きがいづくり(ボランティア、文化・スポーツ、農業などの活動促進等)」への回答が45.3%で最も多くなっています。ついで「在宅福祉サービスの充実(ホームヘルパーの派遣やデイサービスの拡充など)」が40.3%となっています。

一方で、「ボランティアの育成」への回答は5.5%と他の項目に比べて特に回答の割合が低くなっています。

＜属性別にみた回答傾向＞

		n	介護予防のための教室や講座の開催	保健・介護・福祉に関する相談ができる窓口	在宅福祉サービスの充実（ホームヘルパーの派遣やデイサービスの拡充など）	生きがいのづくり（ボランティア、文化・スポーツ、農業などの活動促進等）	世代間の交流、相互理解・地域の助け合いの促進	ボランティアの育成	移動支援サービスの充実（外出や買い物）	日常生活支援サービスの充実（電球の交換などちょっとしたことのお手伝い）	認知症に対する理解を深めるための情報提供
全体		100.0% 580人	31.0% 180人	34.5% 200人	40.3% 234人	45.3% 263人	17.2% 100人	5.5% 32人	29.7% 172人	19.3% 112人	19.0% 110人
回答者の性別	男性	100.0% 291人	26.1% 76人	40.2% 117人	40.2% 117人	48.5% 141人	16.8% 49人	6.2% 18人	26.5% 77人	13.1% 38人	20.3% 59人
	女性	100.0% 275人	35.3% 97人	30.2% 83人	41.8% 115人	41.1% 113人	18.2% 50人	4.0% 11人	34.2% 94人	26.5% 73人	17.1% 47人
回答者の年齢	20～30代	100.0% 56人	42.9% 24人	28.6% 16人	30.4% 17人	51.8% 29人	19.6% 11人	5.4% 3人	35.7% 20人	25.0% 14人	3.6% 2人
	40～64歳	100.0% 240人	27.9% 67人	37.1% 89人	44.2% 106人	49.2% 118人	18.8% 45人	4.2% 10人	36.3% 87人	23.3% 56人	18.3% 44人
	65～74歳（前期高齢者）	100.0% 158人	32.3% 51人	31.0% 49人	42.4% 67人	40.5% 64人	17.1% 27人	8.2% 13人	27.8% 44人	15.8% 25人	20.9% 33人
	75歳以上（後期高齢者）	100.0% 123人	30.9% 38人	37.4% 46人	34.1% 42人	42.3% 52人	13.0% 16人	4.1% 5人	16.3% 20人	13.8% 17人	25.2% 31人
福祉施策に対する総合満足度	満足	100.0% 333人	31.5% 105人	39.3% 131人	42.3% 141人	47.4% 158人	17.7% 59人	5.7% 19人	27.3% 91人	19.2% 64人	20.4% 68人
	どちらでもない	100.0% 137人	27.7% 38人	28.5% 39人	41.6% 57人	47.4% 65人	11.7% 16人	6.6% 9人	36.5% 50人	21.9% 30人	18.2% 25人
	不満	100.0% 65人	33.8% 22人	26.2% 17人	38.5% 25人	38.5% 25人	29.2% 19人	4.6% 3人	36.9% 24人	26.2% 17人	16.9% 11人

※「特になし」、「無回答」の属性別の回答については割愛

『女性』に比べると『男性』では「保健・介護・福祉に関する相談ができる窓口」、「生きがいのづくり（ボランティア、文化・スポーツ、農業などの活動促進等）」などへの回答の割合が高く、反対に『女性』では「介護予防のための教室や講座の開催」、「移動支援サービスの充実（外出や買い物）」、「日常生活支援サービスの充実（電球の交換などちょっとしたことのお手伝い）」などへの回答の割合が高くなっています。

『20～30代』では「介護予防のための教室や講座の開催」への回答が他の年代よりも多く、その他に「生きがいのづくり（ボランティア、文化・スポーツ、農業などの活動促進等）」、「移動支援サービスの充実（外出や買い物）」、「日常生活支援サービスの充実（電球の交換などちょっとしたことのお手伝い）」などへの回答が他の年代よりもやや多くなっています。

福祉施策に対する総合満足度別にみると、『満足』層では「保健・介護・福祉に関する相談ができる窓口」、「在宅福祉サービスの充実（ホームヘルパーの派遣やデイサービスの拡充など）」、「生きがいのづくり（ボランティア、文化・スポーツ、農業などの活動促進等）」などへの回答が『不満』層よりも多く、『不満』層では「世代間の交流、相互理解・地域の助け合いの促進」、「移動支援サービスの充実（外出や買い物）」、「日常生活支援サービスの充実（電球の交換などちょっとしたことのお手伝い）」などへの回答が多くなっています。

②村に希望する高齢者福祉の取組

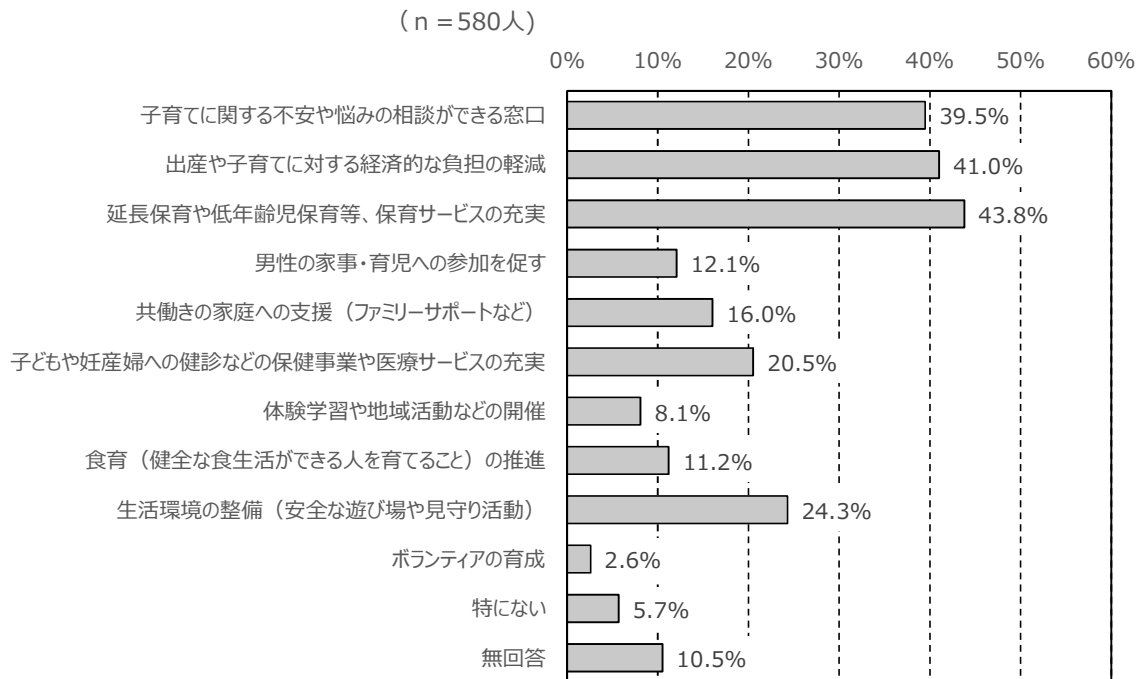
回答内容
通院への補助（交通）
交安協や安心、安全ネットワークなど、他人に対して、無償で何かをすることを真剣にやってみよう。
定期的にかを訪問してもらい無事を確認してもらいたい
グループホーム（空屋利用）又は、多機能型住宅
高齢者の自立の定義があいまい。
冬の間雪が積もった時など前に沢山おいて行くので手助けしてもらいたい。
気軽に相談に行けないので考えてほしい
自分からやる気を出させないとボケる。自給自足させる。高齢者の国みたいなのを作る。
家庭の居間のような居場所作り
定期的（月1回程度）な専門員の家庭訪問（高齢者宅）
夫婦二人いる内はなんとかなるが一人になった時、終の住み処がひだまり苑のケアハウスではさびしい。ルールを将来、高齢者用マンションにするのもいいのではないかと思うが
今、現在どのような感じかがわからないのですが、気楽に、五城目イオンなどの周辺のショッピングセンターや病院などに行けたらいいと思います。
インフォーマルサービス
今のままでよい
高齢者の運転はできるだけ控えられるようなサービスの充実
時々訪問して傾聴などの心の支援。孤独にならないよう外出を促す。
日常生活支援の為、金銭の管理、契約等のサポート
理解
村内を主とした送迎のための中型車両運行サービス。時間的にも容易に利用できるもの
高齢者には自然環境は良いが暮らしにくい、若い世代に苦勞かけたくない
自宅にいながら、外出や買う物に気軽に出かけられる事
1人暮らしの人の買物、食事（弁当）の手伝いが必要な事をしてほしい
平日は仕事なので、せめて土曜日に講習会があれば、知識が得られる。
買い物時の運転（買い物タクシーの様なもの）免許返還した後の足になるもの
一人暮らし（特に女性）になると8番とかの必要性は強くなると思う。
お楽しみ健康づくり会（軽スポーツ）の推進
小グループによる生きがいづくりの提案、軽スポーツ、小旅行、ゴ楽等

5. 保育・子育てなど子どもの福祉について

(1) 子育て支援のために必要な取組

問 15 あなたは、安心して子どもを健やかに生み育てていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

①子育て支援のために必要なこと



子育て支援に必要なこととしては、「延長保育や低年齢児保育等、保育サービスの充実」（43.8%）、「出産や子育てに対する経済的な負担の軽減」（41.0%）、「子育てに関する不安や悩みの相談ができる窓口」（39.5%）が4割前後以上を占めて、回答の割合が高くなっています。

一方で、「ボランティアの育成」への回答は 2.6%と他の項目に比べて特に回答の割合が低くなっています。

<属性別にみた回答傾向>

		n	子育てに関する不安や悩みの相談ができる窓口	出産や子育てに対する経済的な負担の軽減	延長保育や低年齢児保育等、保育サービスの充実	男性の家事・育児への参加を促す	共働きの家庭への支援（ファミリーサポートなど）	子どもや妊産婦への健診などの保健事業や医療サービスの充実	体験学習や地域活動などの開催	食育（健全な食生活ができる人を育てること）の推進	生活環境の整備（安全な遊び場や見守り活動）	ボランティアの育成
全体		100.0%	39.5%	41.0%	43.8%	12.1%	16.0%	20.5%	8.1%	11.2%	24.3%	2.6%
		580人	229人	238人	254人	70人	93人	119人	47人	65人	141人	15人
回答者の性別	男性	100.0%	38.8%	42.3%	44.3%	9.3%	14.4%	21.3%	8.2%	11.0%	25.8%	3.1%
		291人	113人	123人	129人	27人	42人	62人	24人	32人	75人	9人
回答者の性別	女性	100.0%	40.0%	41.1%	43.6%	15.6%	17.8%	19.3%	7.6%	11.3%	21.5%	2.2%
		275人	110人	113人	120人	43人	49人	53人	21人	31人	59人	6人
回答者の年齢	20～30代	100.0%	35.7%	66.1%	37.5%	14.3%	21.4%	21.4%	10.7%	8.9%	33.9%	3.6%
		56人	20人	37人	21人	8人	12人	12人	6人	5人	19人	2人
	40～64歳	100.0%	41.7%	50.8%	55.4%	12.1%	19.6%	26.7%	6.7%	9.6%	28.3%	0.8%
		240人	100人	122人	133人	29人	47人	64人	16人	23人	68人	2人
回答者の年齢	65～74歳（前期高齢者）	100.0%	42.4%	34.2%	43.0%	12.0%	13.9%	19.0%	8.9%	12.7%	20.9%	3.2%
		158人	67人	54人	68人	19人	22人	30人	14人	20人	33人	5人
回答者の年齢	75歳以上（後期高齢者）	100.0%	34.1%	20.3%	24.4%	10.6%	8.1%	10.6%	8.9%	13.8%	16.3%	4.1%
		123人	42人	25人	30人	13人	10人	13人	11人	17人	20人	5人
世帯中の状況	妊婦・乳児（1歳未満）	100.0%	44.4%	44.4%	44.4%	5.6%	22.2%	44.4%	5.6%	11.1%	33.3%	0.0%
		18人	8人	8人	8人	1人	4人	8人	1人	2人	6人	0人
	小学校入学前の幼児	100.0%	32.3%	49.2%	67.7%	3.1%	12.3%	29.2%	9.2%	13.8%	41.5%	3.1%
		65人	21人	32人	44人	2人	8人	19人	6人	9人	27人	2人
	小学生・中学生	100.0%	38.7%	45.2%	54.8%	9.7%	16.1%	21.0%	12.9%	9.7%	37.1%	2.4%
		124人	48人	56人	68人	12人	20人	26人	16人	12人	46人	3人
	高校生	100.0%	27.1%	52.1%	47.9%	4.2%	20.8%	22.9%	12.5%	8.3%	39.6%	2.1%
		48人	13人	25人	23人	2人	10人	11人	6人	4人	19人	1人
	65歳以上の方	100.0%	41.7%	44.2%	47.8%	12.2%	14.4%	23.4%	8.0%	11.5%	24.4%	1.9%
		312人	130人	138人	149人	38人	45人	73人	25人	36人	76人	6人
介護を必要とする方	100.0%	44.4%	42.2%	51.1%	17.8%	13.3%	11.1%	4.4%	26.7%	13.3%	2.2%	
	45人	20人	19人	23人	8人	6人	5人	2人	12人	6人	1人	
障がいのある方	100.0%	36.5%	35.1%	39.2%	6.8%	17.6%	20.3%	6.8%	14.9%	24.3%	1.4%	
	74人	27人	26人	29人	5人	13人	15人	5人	11人	18人	1人	
いずれもない	100.0%	38.3%	38.3%	40.0%	12.5%	20.0%	15.0%	7.5%	7.5%	20.0%	3.3%	
	120人	46人	46人	48人	15人	24人	18人	9人	9人	24人	4人	
福祉施策に対する総合満足度	満足	100.0%	41.1%	41.7%	45.1%	13.0%	15.6%	21.4%	8.4%	11.4%	24.6%	2.8%
		501人	206人	209人	226人	65人	78人	107人	42人	57人	123人	14人
	どちらでもない	100.0%	41.0%	42.0%	46.0%	12.9%	15.9%	21.3%	8.6%	10.8%	25.5%	2.4%
	502人	206人	211人	231人	65人	80人	107人	43人	54人	128人	12人	
不満	100.0%	41.2%	46.8%	50.1%	12.2%	18.4%	22.4%	8.5%	10.8%	27.1%	2.6%	
	425人	175人	199人	213人	52人	78人	95人	36人	46人	115人	11人	

※「特になし」、「無回答」の属性別の回答については割愛

全体で回答の多かった「出産や子育てに対する経済的な負担の軽減」については、65歳未満の回答者で特に回答が多くなっていますが、『75歳以上（後期高齢者）』では20.3%にとどまっています。

また「生活環境の整備（安全な遊び場や見守り活動）」については『20～30代』や『小学校入学前の幼児』がいる世帯などで特に回答の割合が高くなっています。

②村に希望する子どもの福祉の取組

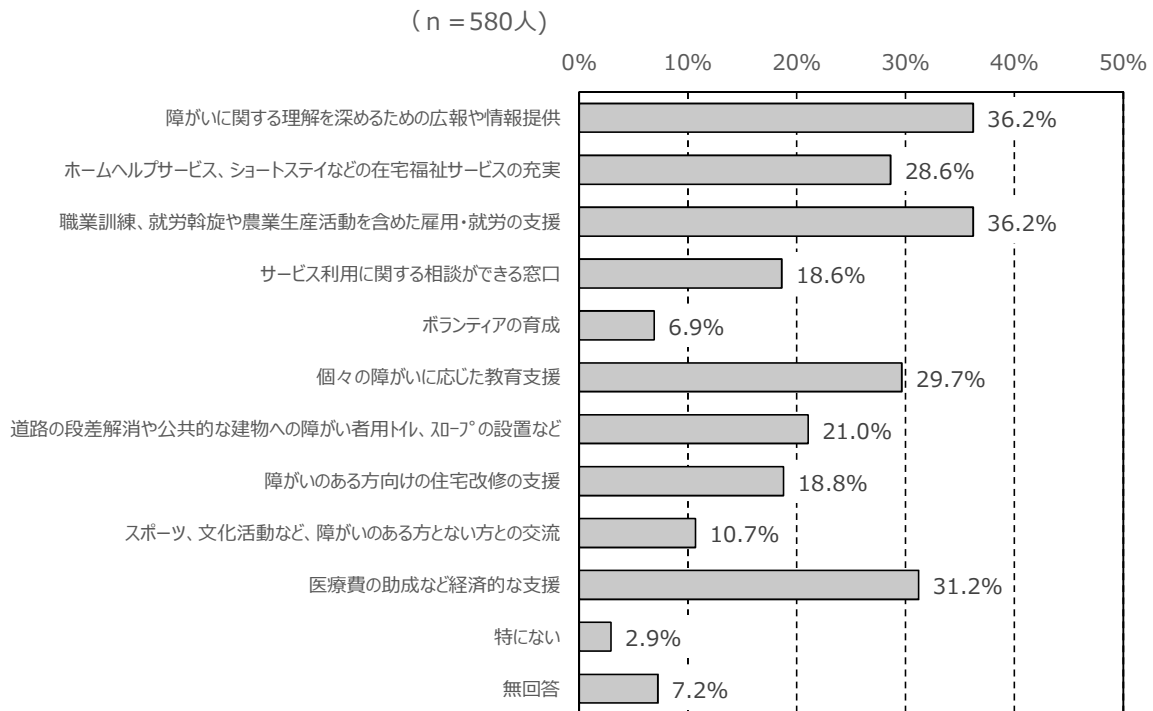
回答内容
これこそ、学外で子供を見る高齢者を育成していくことが大事。もしくは役場の仕事も人を使わずに省力化をしていくことで、予算を生みだしていく事も大事だと思う。
保育環境を整備し、村外からの需要についても積極的に対応する。保育職員の増加により、村内人口の増加も見込める。
大型公園遊具設置、英語教育、留学先確保
サンルーラルの前に、大きな公園（ゆめっぴい公園みたいな）を作り、子づれで遊びに来て、ランチをして、帰れるような場所を作ってほしい。（村外の人もこれのような。）
朝早くから夜遅くまで遊べる場所
出産後の保健士か助産士の家庭訪問ひんぱんに
民営化
母親が幸福な気持ちで過ごせることが良い子育てに継がる。親が心配事を相談できる窓口や、親育ても必要と思う。
子育て世代が気軽に遊びに、集まりに行ける場を作ってほしい。
職場が大潟村になくても、子育ての為に移住したくなる様な村づくり
診療所での小児診療
こども園になったから良かったが、保育園→幼稚園と他の選択肢がなく、幼稚園入園を強要されていたとしか思えない。
障害児への理解。
学童の継続（人数少ないとってサービスを減らさない）
農家の中には、日中家にいるのに保育サービスを利用している人もいる。本業は保育に欠けていないはず。きちんと線引きを。
不妊治療助成の充実
高校、大学教育に負担がかかる。通勤農業も負担が大い
予防接種が村で受けられたら助かります。
みんなで見守る児童、生徒の登・下校時の往還指導（ボランティア）
なかよし館の継続。（又は、見守る人のいる自由な遊び場の確保）。小学校グラウンドの早期整備。
少子化対策とし、第1子100万円、第2子200万円、第3子300万円の誕生祝金、人材育成費の支援制度を提案します。

6. 障がい福祉について

(1) 障がい者支援のために必要な取組

問 16 障がいのある方に対し、やさしい社会をつくるためには、あなたはどのようなことが大切だと思いますか。(〇は3つまで)

①障がい者支援のために必要なこと



障がい者支援のために必要なこととしては、「障がいに関する理解を深めるための広報や情報提供」(36.2%)、「職業訓練、就労斡旋や農業生産活動を含めた雇用・就労の支援」(36.2%)、「医療費の助成など経済的な支援」(31.2%)などへの回答の割合が高く、障がいに対する理解促進と、雇用・就労支援、医療費の助成などのニーズが高くなっています。

ついで「個々の障がいに応じた教育支援」(29.7%)、「ホームヘルプサービス、ショートステイなどの在宅福祉サービスの充実」(28.6%)などの支援サービスの充実を希望する回答が多くなっています。

一方で、「ボランティアの育成」への回答は6.9%と他の項目に比べて特に回答の割合が低くなっています。

＜属性別にみた回答傾向＞

		n	障がいに関する理解を深めるための広報や情報提供	ホームヘルプサービス、ショートステイなどの在宅福祉サービスの充実	職業訓練、就労斡旋や農業生産活動を含めた雇用・就労の支援	サービス利用に関する相談ができる窓口	ボランティアの育成	個々の障がいに応じた教育支援	道路の段差解消や公共的な建物への障がい者用トイレ、スロープの設置など	障がいのある方向けの住宅改修の支援	スポーツ、文化活動など、障がいのある方とない方との交流	医療費の助成など経済的な支援
全体		100.0%	36.2%	28.6%	36.2%	18.6%	6.9%	29.7%	21.0%	18.8%	10.7%	31.2%
		680人	210人	166人	210人	108人	40人	172人	122人	109人	62人	181人
回答者の性別	男性	100.0%	40.2%	29.6%	36.1%	18.9%	9.6%	28.5%	18.9%	16.2%	12.4%	29.9%
		291人	117人	86人	105人	55人	28人	83人	55人	47人	36人	87人
回答者の性別	女性	100.0%	32.0%	28.4%	36.7%	18.5%	4.4%	30.9%	23.6%	21.1%	9.1%	30.5%
		275人	88人	78人	101人	51人	12人	85人	65人	58人	25人	84人
回答者の年齢	20～30代	100.0%	46.4%	21.4%	35.7%	10.7%	8.9%	28.6%	28.6%	10.7%	16.1%	35.7%
		56人	26人	12人	20人	6人	5人	16人	16人	6人	9人	20人
	40～64歳	100.0%	32.9%	31.7%	39.6%	21.3%	7.9%	35.8%	21.3%	21.3%	10.0%	34.6%
		240人	79人	76人	95人	51人	19人	86人	51人	51人	24人	83人
	65～74歳（前期高齢者）	100.0%	34.2%	29.1%	38.6%	19.0%	5.1%	29.7%	18.4%	21.5%	8.2%	31.6%
	158人	54人	46人	61人	30人	8人	47人	29人	34人	13人	50人	
回答者の年齢	75歳以上（後期高齢者）	100.0%	40.7%	25.2%	26.0%	17.1%	6.5%	17.1%	20.3%	14.6%	12.2%	22.0%
		123人	50人	31人	32人	21人	8人	21人	25人	18人	15人	27人
世帯中の状況	妊婦・乳児（1歳未満）	100.0%	38.9%	38.9%	33.3%	5.6%	0.0%	38.9%	27.8%	11.1%	0.0%	44.4%
		18人	7人	7人	6人	1人	0人	7人	5人	2人	0人	8人
	小学校入学前の幼児	100.0%	32.3%	24.6%	43.1%	18.5%	6.2%	38.5%	20.0%	20.0%	9.2%	32.3%
		65人	21人	16人	28人	12人	4人	25人	13人	13人	6人	21人
	小学生・中学生	100.0%	29.8%	35.5%	37.9%	20.2%	6.5%	33.1%	22.6%	17.7%	17.7%	37.1%
		124人	37人	44人	47人	25人	8人	41人	28人	22人	22人	46人
	高校生	100.0%	33.3%	31.3%	43.8%	18.8%	4.2%	25.0%	20.8%	20.8%	16.7%	39.6%
		48人	16人	15人	21人	9人	2人	12人	10人	10人	8人	19人
	65歳以上の方	100.0%	36.2%	29.5%	35.3%	19.6%	6.7%	31.4%	23.4%	22.4%	9.9%	32.7%
		312人	113人	92人	110人	61人	21人	98人	73人	70人	31人	102人
介護を必要とする方	100.0%	42.2%	26.7%	24.4%	22.2%	4.4%	26.7%	28.9%	15.6%	15.6%	22.2%	
	45人	19人	12人	11人	10人	2人	12人	13人	7人	7人	10人	
障がいのある方	100.0%	50.0%	21.6%	23.0%	18.9%	4.1%	36.5%	21.6%	29.7%	4.1%	28.4%	
	74人	37人	16人	17人	14人	3人	27人	16人	22人	3人	21人	
いずれもない	100.0%	29.2%	30.0%	44.2%	13.3%	6.7%	25.8%	19.2%	11.7%	10.0%	33.3%	
	120人	35人	36人	53人	16人	8人	31人	23人	14人	12人	40人	
“関心がある”福祉分野	①高齢者の福祉に関すること	100.0%	36.9%	30.7%	37.1%	19.6%	7.2%	29.9%	22.4%	19.4%	10.8%	31.3%
		501人	185人	154人	186人	98人	36人	150人	112人	97人	54人	157人
	②介護に関すること	100.0%	38.4%	29.7%	37.8%	18.7%	7.2%	30.1%	21.3%	19.7%	11.0%	31.9%
		502人	193人	149人	190人	94人	36人	151人	107人	99人	55人	160人
	③保育、子育て支援など子どもの福祉に関すること	100.0%	37.9%	31.3%	38.8%	17.6%	6.6%	31.1%	23.8%	20.7%	11.3%	32.7%
		425人	161人	133人	165人	75人	28人	132人	101人	88人	48人	139人
	④障がい者の福祉に関すること	100.0%	40.4%	29.9%	38.0%	17.6%	6.6%	32.1%	22.1%	19.6%	10.5%	33.1%
		408人	165人	122人	155人	72人	27人	131人	90人	80人	43人	135人
⑤地域の助け合いやボランティア活動	100.0%	38.1%	28.9%	37.6%	20.1%	7.4%	31.2%	23.1%	19.2%	12.2%	31.2%	
	433人	165人	125人	163人	87人	32人	135人	100人	83人	53人	135人	
⑥保健・健康づくり	100.0%	37.2%	29.6%	36.6%	19.1%	7.2%	31.1%	21.4%	17.7%	10.7%	32.5%	
	486人	181人	144人	178人	93人	35人	151人	104人	86人	52人	158人	
⑦医療・保険に関すること	100.0%	37.5%	30.7%	37.1%	18.6%	6.8%	30.7%	21.9%	19.1%	10.9%	33.0%	
	512人	192人	157人	190人	95人	35人	157人	112人	98人	56人	169人	
福祉施策に対する総合満足度	満足	100.0%	36.9%	31.5%	38.1%	19.5%	9.0%	29.7%	22.8%	19.2%	12.9%	25.8%
		333人	123人	105人	127人	65人	30人	99人	76人	64人	43人	86人
	どちらでもない	100.0%	40.9%	27.7%	32.8%	18.2%	3.6%	29.2%	17.5%	18.2%	7.3%	37.2%
	137人	56人	38人	45人	25人	5人	40人	24人	25人	10人	51人	
不満	100.0%	32.3%	23.1%	41.5%	21.5%	4.6%	35.4%	23.1%	20.0%	12.3%	53.8%	
	65人	21人	15人	27人	14人	3人	23人	15人	13人	8人	35人	

※「特になし」、「無回答」の属性別の回答については割愛

世帯の中に『障がいのある方』がいる場合、「障がいに関する理解を深めるための広報や情報提供」への回答が半数を占め、ついで「個々の障がいに応じた教育支援」への回答が多くなっています。また「障がいのある方向けの住宅改修の支援」への回答も他の回答者よりも割合が高くなっています。

福祉施策の総合満足度において『不満』という回答者では半数以上が「医療費の助成など経済的な支援」と回答しています。

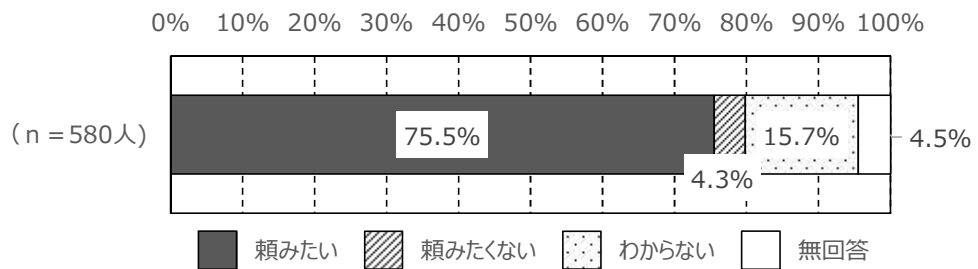
②村に希望する障がい福祉の取組

回答内容
障がいのある人にやさしい社会というのは、不平等だと思う。普通の人として接していかなくて、少し手伝いをするだけでいい。普通の人だと思う教育が必要。障がいのある人だつてやさしくしてほしい。やさしくしてほしいなど個性はあると思う。
出来るだけ自立出来るように村で運動、リハビリ施設（保健センター内）
障がい者を受け入れる企業の誘致
支援を厚く。
役場にエレベーター
職場に寮があるなど自立した生活を送る場所
子供の頃から障がい者が周りにいて、差別や偏見のない村であってほしい。
弱者に対しても温かい視線で見守ってあげるべきだといつも思っている。心がきれいな人が多いので。
きちんと理解できていないので、交流や情報提供
援産・施設等でも就労できない方のためのデイサービス（高齢の方と同じ施設で可能なのでは？）
障がいのある方の親の高齢に伴い宿泊できるような生活支援
孤立しないよう交流の場を増やす。障害への理解を深める講座等
相談窓口が1ヶ所で終わる様に
障害者と親しくして、いつでも安心して交流できる関係の人がいたらいいと思う。
障がい者として特別不便はないと暮らして来ましたが、公民館の階段、役場の階段はさすが大変。
エレベーター
誰でも障害になりたくてなった人はいないと思います。それぞれを理解してとりくんでほしいと思います。
障がい者が高齢になっても自立出来る環境づくり（グループホームと収入確保）
障がいのある方の親が高齢になったり、世話ができなくなった時の福祉的なサービスを考える
道路や建物のバリアフリー化

7. 災害時の助け合いについて

(1) 災害時の自治会などからの援助の必要性

問 17 もしあなたや同居するご家族が、介護や障がい等を理由として、災害時に同居家族の支援があっても自力での避難が困難である場合、自治会などによる援助をしてもらうことについてどう思いますか。(〇は1つだけ)



災害時の自治会などからの援助については、75.5%が「頼みたい」としています。

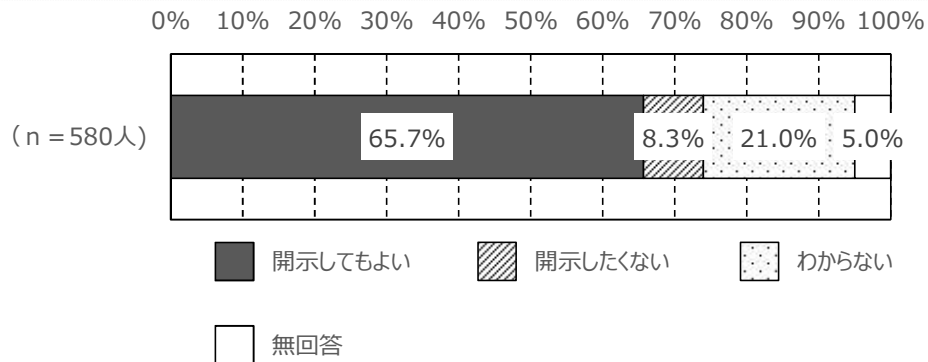
<属性別にみた回答傾向>

		n	頼みたい	頼みたくない	わからない	無回答
全体		100.0%	75.5%	4.3%	15.7%	4.5%
		580人	438人	25人	91人	26人
回答者の性別	男性	100.0%	74.9%	7.2%	14.8%	3.1%
		291人	218人	21人	43人	9人
回答者の性別	女性	100.0%	76.4%	1.1%	16.4%	6.2%
		275人	210人	3人	45人	17人
回答者の年齢	20～30代	100.0%	82.1%	1.8%	14.3%	1.8%
		56人	46人	1人	8人	1人
	40～64歳	100.0%	79.6%	4.6%	15.4%	0.4%
		240人	191人	11人	37人	1人
回答者の年齢	65～74歳 (前期高齢者)	100.0%	67.7%	2.5%	21.5%	8.2%
		158人	107人	4人	34人	13人
回答者の年齢	75歳以上 (後期高齢者)	100.0%	74.8%	6.5%	9.8%	8.9%
		123人	92人	8人	12人	11人
回答者の世帯の構成	単身世帯 (ひとり暮らし)	100.0%	70.2%	8.5%	10.6%	10.6%
		47人	33人	4人	5人	5人
	夫婦のみ世帯	100.0%	81.6%	2.0%	15.3%	1.0%
		98人	80人	2人	15人	1人
	二世世代家族 (世帯)	100.0%	74.8%	5.0%	16.8%	3.4%
	238人	178人	12人	40人	8人	
回答者の世帯の構成	三世世代家族 (世帯)	100.0%	76.4%	3.2%	15.9%	4.5%
		157人	120人	5人	25人	7人
回答者の世帯の構成	その他の世帯	100.0%	71.0%	3.2%	16.1%	9.7%
		31人	22人	1人	5人	3人
世帯の中の状況	妊婦・乳児 (1歳未満)	100.0%	77.8%	0.0%	22.2%	0.0%
		18人	14人	0人	4人	0人
	小学校入学前の幼児	100.0%	78.5%	3.1%	16.9%	1.5%
		65人	51人	2人	11人	1人
	小学生・中学生	100.0%	81.5%	3.2%	13.7%	1.6%
		124人	101人	4人	17人	2人
	高校生	100.0%	79.2%	4.2%	12.5%	4.2%
		48人	38人	2人	6人	2人
	65歳以上の方	100.0%	76.6%	3.5%	17.9%	1.9%
	312人	239人	11人	56人	6人	
介護を必要とする方	100.0%	73.3%	4.4%	20.0%	2.2%	
	45人	33人	2人	9人	1人	
障がいのある方	100.0%	73.0%	5.4%	17.6%	4.1%	
	74人	54人	4人	13人	3人	
いずれもない	100.0%	75.0%	5.0%	12.5%	7.5%	
	120人	90人	6人	15人	9人	

いずれの属性においても「頼みたい」という回答が多くなっていますが、『20～30代』や『夫婦のみ世帯』、世帯の中に『小学生・中学生』がいる世帯では8割以上が「頼みたい」としています。

(2) 災害時の避難支援のための個人情報の開示意向

問 18 災害が発生したときに、同居家族の支援があっても自力での避難が困難な状態にあるとき、自治会などからの支援により迅速に避難するために、介護等級や障がい等級などを含む個人情報を平常時から自治会などに開示することについて、あなたはどのように思いますか。(〇は1つだけ)



災害時の避難支援のための個人情報の開示については、65.7%が「開示してもよい」としてはいますが、災害時に自治会などからの援助を「頼みたい」(75.5%)という回答に比べると、やや回答の割合が低くなっています。

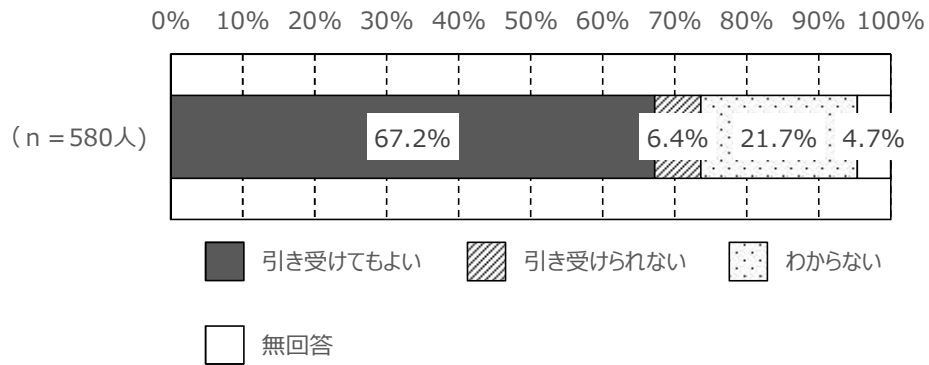
<属性別にみた回答傾向>

		n	開示してもよい	開示したくない	わからない	無回答
全体		100.0%	65.7%	8.3%	21.0%	5.0%
		580人	381人	48人	122人	29人
回答者の性別	男性	100.0%	68.4%	9.6%	17.9%	4.1%
		291人	199人	28人	52人	12人
回答者の性別	女性	100.0%	65.1%	6.5%	22.2%	6.2%
		275人	179人	18人	61人	17人
回答者の年齢	20～30代	100.0%	60.7%	10.7%	26.8%	1.8%
		56人	34人	6人	15人	1人
	40～64歳	100.0%	67.1%	8.8%	23.3%	0.8%
		240人	161人	21人	56人	2人
回答者の年齢	65～74歳 (前期高齢者)	100.0%	62.0%	8.2%	23.4%	6.3%
		158人	98人	13人	37人	10人
回答者の年齢	75歳以上 (後期高齢者)	100.0%	70.7%	5.7%	10.6%	13.0%
		123人	87人	7人	13人	16人
回答者の世帯の構成	単身世帯 (ひとり暮らし)	100.0%	59.6%	12.8%	12.8%	14.9%
		47人	28人	6人	6人	7人
	夫婦のみ世帯	100.0%	64.3%	11.2%	22.4%	2.0%
		98人	63人	11人	22人	2人
	二世帯家族 (世帯)	100.0%	66.8%	8.8%	21.0%	3.4%
	238人	159人	21人	50人	8人	
回答者の世帯の構成	三世帯家族 (世帯)	100.0%	68.2%	3.8%	22.3%	5.7%
		157人	107人	6人	35人	9人
回答者の世帯の構成	その他の世帯	100.0%	61.3%	9.7%	22.6%	6.5%
		31人	19人	3人	7人	2人
世帯の中の状況	妊婦・乳児 (1歳未満)	100.0%	44.4%	0.0%	50.0%	5.6%
		18人	8人	0人	9人	1人
	小学校入学前の幼児	100.0%	69.2%	6.2%	20.0%	4.6%
		65人	45人	4人	13人	3人
	小学生・中学生	100.0%	72.6%	7.3%	17.7%	2.4%
		124人	90人	9人	22人	3人
	高校生	100.0%	66.7%	4.2%	27.1%	2.1%
		48人	32人	2人	13人	1人
	65歳以上の方	100.0%	68.6%	8.0%	21.2%	2.2%
	312人	214人	25人	66人	7人	
介護を必要とする方	100.0%	71.1%	8.9%	20.0%	0.0%	
	45人	32人	4人	9人	0人	
障がいのある方	100.0%	63.5%	10.8%	21.6%	4.1%	
	74人	47人	8人	16人	3人	
いずれもない	100.0%	59.2%	9.2%	24.2%	7.5%	
	120人	71人	11人	29人	9人	

いずれの属性においても「開示してもよい」という回答が多くなっていますが、『単身世帯』や世帯の中に『妊婦・乳児(1歳未満)』がいる世帯では回答の割合が低くなっています。

(3) 災害時の要援護者への避難支援の協力意向

問 19 もしあなたの近所の方が、介護や障がい等を理由として災害時に同居家族の支援があっても自力での避難が困難であるとき、災害時の援助をすることを依頼された場合にどう思いますか。(〇は1つだけ)



災害時の要援護者への避難支援の協力については、67.2%が援助を「引き受けてもよい」としています。

<属性別にみた回答傾向>

		n	引き受けてもよい	引き受けられない	わからない	無回答
全体		100.0% 580人	67.2% 390人	6.4% 37人	21.7% 126人	4.7% 27人
回答者の年齢	20～30代	100.0% 56人	66.1% 37人	12.5% 7人	19.6% 11人	1.8% 1人
	40～64歳	100.0% 240人	72.5% 174人	2.5% 6人	24.2% 58人	0.8% 2人
	65～74歳（前期高齢者）	100.0% 158人	67.7% 107人	3.2% 5人	22.2% 35人	7.0% 11人
	75歳以上（後期高齢者）	100.0% 123人	57.7% 71人	14.6% 18人	17.1% 21人	10.6% 13人
	その他	100.0% 145人	67.6% 99人	3.5% 5人	22.2% 32人	6.5% 9人
回答者の世帯の構成	単身世帯（ひとり暮らし）	100.0% 47人	53.2% 25人	17.0% 8人	19.1% 9人	10.6% 5人
	夫婦のみ世帯	100.0% 98人	69.4% 68人	6.1% 6人	21.4% 21人	3.1% 3人
	二世世代家族（世帯）	100.0% 238人	68.5% 163人	5.5% 13人	21.8% 52人	4.2% 10人
	三世世代家族（世帯）	100.0% 157人	67.5% 106人	5.1% 8人	22.9% 36人	4.5% 7人
	その他の世帯	100.0% 31人	74.2% 23人	0.0% 0人	22.6% 7人	3.2% 1人
	その他	100.0% 145人	67.6% 99人	3.5% 5人	22.2% 32人	6.5% 9人
世帯の中の状況	妊婦・乳児（1歳未満）	100.0% 18人	72.2% 13人	0.0% 0人	27.8% 5人	0.0% 0人
	小学校入学前の幼児	100.0% 65人	66.2% 43人	9.2% 6人	21.5% 14人	3.1% 2人
	小学生・中学生	100.0% 124人	75.8% 94人	3.2% 4人	17.7% 22人	3.2% 4人
	高校生	100.0% 48人	64.6% 31人	4.2% 2人	27.1% 13人	4.2% 2人
	65歳以上の方	100.0% 312人	69.9% 218人	5.1% 16人	22.8% 71人	2.2% 7人
	介護を必要とする方	100.0% 45人	71.1% 32人	11.1% 5人	17.8% 8人	0.0% 0人
	障がいのある方	100.0% 74人	62.2% 46人	9.5% 7人	24.3% 18人	4.1% 3人
	いずれもない	100.0% 120人	66.7% 80人	7.5% 9人	19.2% 23人	6.7% 8人
	その他	100.0% 145人	67.6% 99人	3.5% 5人	22.2% 32人	6.5% 9人

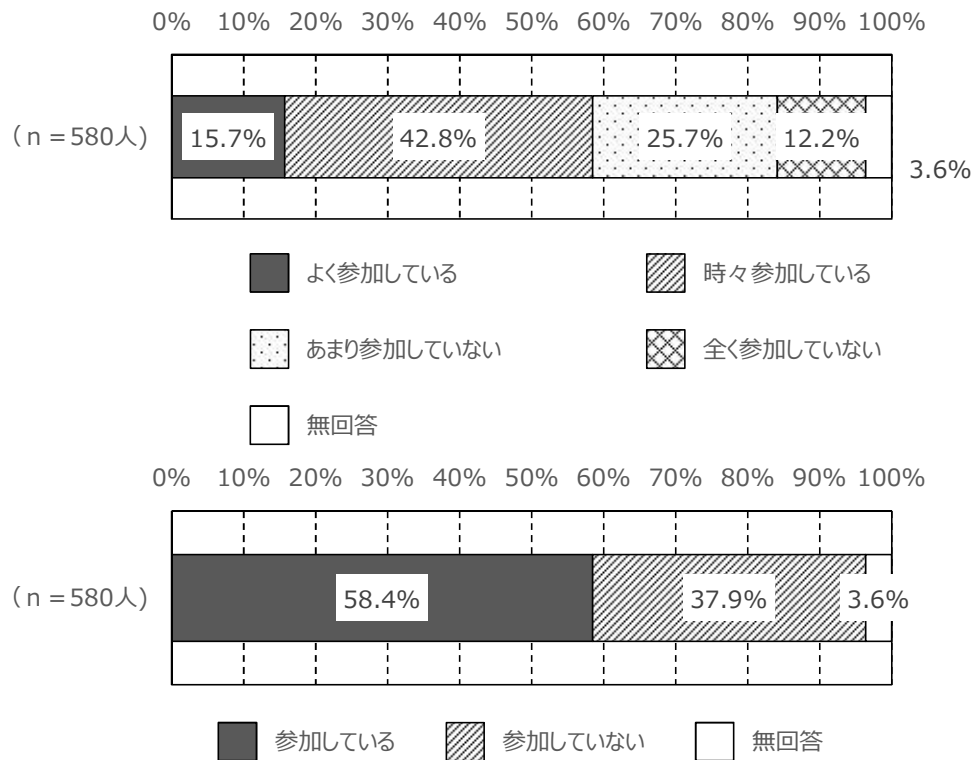
いずれの属性においても「引き受けてもよい」という回答が多くなっていますが、『75歳以上（後期高齢者）』や『単身世帯』では回答の割合が低くなっています。

8. 地域の助け合いやボランティア活動について

(1) 地域活動への参加状況

1) 地域活動の参加状況

問20 あなたは、地域のいろいろな行事や活動にどのくらい参加されていますか。(〇は1つだけ)



地域活動への参加状況をみると、「時々参加している」が42.8%で最も多く、「よく参加している」(15.7%)とあわせると、58.4%が『参加している』としています。

※小数点以下の処理の関係で、見た目の数字と、実際に合算した数字は一致しません。

<属性別にみた回答傾向>

		n	参加している	参加していない	無回答
全体		100.0%	58.4%	37.9%	3.6%
		580人	339人	220人	21人
回答者の性別	男性	100.0%	61.9%	35.1%	3.1%
		291人	180人	102人	9人
	女性	100.0%	55.6%	40.0%	4.4%
		275人	153人	110人	12人
回答者の年齢	20～30代	100.0%	66.1%	32.1%	1.8%
		56人	37人	18人	1人
	40～64歳	100.0%	63.8%	35.0%	1.3%
		240人	153人	84人	3人
	65～74歳（前期高齢者）	100.0%	56.3%	38.0%	5.7%
		158人	89人	60人	9人
	75歳以上（後期高齢者）	100.0%	47.2%	46.3%	6.5%
		123人	58人	57人	8人
回答者の世帯の構成	単身世帯（ひとり暮らし）	100.0%	53.2%	40.4%	6.4%
		47人	25人	19人	3人
	夫婦のみ世帯	100.0%	54.1%	45.9%	0.0%
		98人	53人	45人	0人
	二世帯家族（世帯）	100.0%	55.9%	40.3%	3.8%
		238人	133人	96人	9人
	三世帯家族（世帯）	100.0%	67.5%	28.0%	4.5%
		157人	106人	44人	7人
	その他の世帯	100.0%	51.6%	41.9%	6.5%
		31人	16人	13人	2人
世帯の中の状況	妊婦・乳児（1歳未満）	100.0%	72.2%	27.8%	0.0%
		18人	13人	5人	0人
	小学校入学前の幼児	100.0%	73.8%	23.1%	3.1%
		65人	48人	15人	2人
	小学生・中学生	100.0%	72.6%	26.6%	0.8%
		124人	90人	33人	1人
	高校生	100.0%	60.4%	39.6%	0.0%
		48人	29人	19人	0人
	65歳以上の方	100.0%	60.6%	37.5%	1.9%
	312人	189人	117人	6人	
介護を必要とする方	100.0%	46.7%	48.9%	4.4%	
	45人	21人	22人	2人	
障がいのある方	100.0%	48.6%	48.6%	2.7%	
	74人	36人	36人	2人	
いずれもない	100.0%	51.7%	43.3%	5.0%	
	120人	62人	52人	6人	

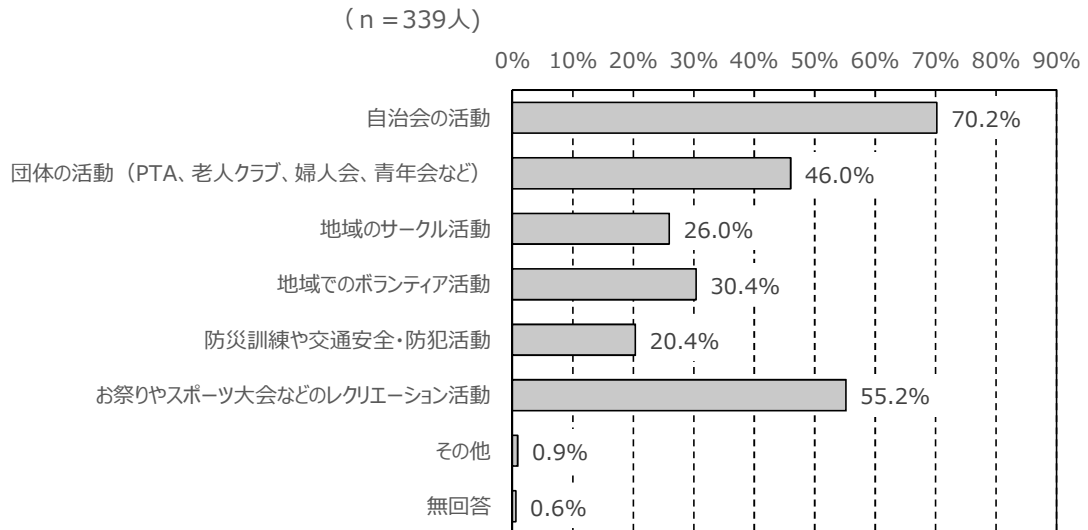
地域活動の参加状況をみると、『女性』よりも『男性』の方が「参加している」という回答の割合が高くなっています。また回答者の年齢が上がるほど「参加している」という回答の割合は低くなっています。

世帯の中に中学生以下の子どもがいる世帯では「参加している」という回答が7割を超えています。

2) 参加している地域活動

(問 20 で「1. よく参加している」、または「2. 時々参加している」とお答えの方に)

問 20-1 どのような行事や活動に参加されていますか。(〇はあてはまるものすべて)



地域活動に『参加している』と回答した 339 人に、参加している地域活動について聞いたところ、「自治会の活動」が 70.2%で最も多く、ついで「お祭りやスポーツ大会などのレクリエーション活動」が 55.2%となっています。

<その他の記載内容>

回答内容
シルバー
政治や経済に関わる活動
ケアハウスです。

<属性別にみた回答傾向>

		n	自治会の活動	団体の活動 (PTA、老人クラブ、婦人会、青年会など)	地域のサークル活動	地域でのボランティア活動	防災訓練や交通安全・防犯活動	お祭りやスポーツ大会などのレクリエーション活動	その他	無回答
全体		100.0% 339人	70.2% 238人	46.0% 156人	26.0% 88人	30.4% 103人	20.4% 69人	55.2% 187人	0.9% 3人	0.6% 2人
回答者の性別	男性	100.0% 180人	75.0% 135人	42.8% 77人	20.0% 36人	27.2% 49人	26.1% 47人	59.4% 107人	1.1% 2人	0.6% 1人
	女性	100.0% 153人	64.7% 99人	49.0% 75人	32.7% 50人	35.3% 54人	13.1% 20人	50.3% 77人	0.7% 1人	0.0% 0人
回答者の年齢	20～30代	100.0% 37人	73.0% 27人	48.6% 18人	13.5% 5人	16.2% 6人	21.6% 8人	75.7% 28人	0.0% 0人	0.0% 0人
	40～64歳	100.0% 153人	83.7% 128人	41.8% 64人	25.5% 39人	19.6% 30人	16.3% 25人	59.5% 91人	0.7% 1人	0.0% 0人
	65～74歳（前期高齢者）	100.0% 89人	64.0% 57人	38.2% 34人	30.3% 27人	44.9% 40人	29.2% 26人	48.3% 43人	2.2% 2人	0.0% 0人
	75歳以上（後期高齢者）	100.0% 58人	44.8% 26人	65.5% 38人	27.6% 16人	43.1% 25人	17.2% 10人	43.1% 25人	0.0% 0人	3.4% 2人
回答者の世帯の構成	単身世帯（ひとり暮らし）	100.0% 25人	76.0% 19人	24.0% 6人	36.0% 9人	16.0% 4人	20.0% 5人	32.0% 8人	4.0% 1人	0.0% 0人
	夫婦のみ世帯	100.0% 53人	75.5% 40人	34.0% 18人	15.1% 8人	26.4% 14人	26.4% 14人	43.4% 23人	0.0% 0人	3.8% 2人
	二世世代家族（世帯）	100.0% 133人	72.2% 96人	48.9% 65人	22.6% 30人	28.6% 38人	17.3% 23人	62.4% 83人	1.5% 2人	0.0% 0人
	三世世代家族（世帯）	100.0% 106人	66.0% 70人	56.6% 60人	30.2% 32人	33.0% 35人	18.9% 20人	57.5% 61人	0.0% 0人	0.0% 0人
	その他の世帯	100.0% 16人	56.3% 9人	31.3% 5人	43.8% 7人	56.3% 9人	43.8% 7人	50.0% 8人	0.0% 0人	0.0% 0人
	世帯の中の状況	妊婦・乳児（1歳未満）	100.0% 13人	84.6% 11人	53.8% 7人	23.1% 3人	0.0% 0人	23.1% 3人	84.6% 11人	0.0% 0人
小学校入学前の幼児	100.0% 48人	72.9% 35人	54.2% 26人	12.5% 6人	20.8% 10人	25.0% 12人	66.7% 32人	2.1% 1人	0.0% 0人	
小学生・中学生	100.0% 90人	75.6% 68人	51.1% 46人	15.6% 14人	24.4% 22人	15.6% 14人	63.3% 57人	1.1% 1人	0.0% 0人	
高校生	100.0% 29人	75.9% 22人	65.5% 19人	31.0% 9人	20.7% 6人	20.7% 6人	72.4% 21人	0.0% 0人	0.0% 0人	
65歳以上の方	100.0% 189人	69.3% 131人	50.3% 95人	27.0% 51人	32.3% 61人	21.7% 41人	59.8% 113人	1.1% 2人	0.5% 1人	
介護を必要とする方	100.0% 21人	66.7% 14人	57.1% 12人	33.3% 7人	47.6% 10人	9.5% 2人	57.1% 12人	0.0% 0人	0.0% 0人	
障がいのある方	100.0% 36人	75.0% 27人	52.8% 19人	38.9% 14人	47.2% 17人	22.2% 8人	72.2% 26人	2.8% 1人	0.0% 0人	
いずれもない	100.0% 62人	75.8% 47人	27.4% 17人	30.6% 19人	24.2% 15人	27.4% 17人	35.5% 22人	0.0% 0人	1.6% 1人	

参加している地域活動としては、いずれの属性においてもおおむね「自治会の活動」への回答が多くなっていますが、特に『男性』、『40～64歳』、『妊婦・乳児（1歳未満）』がいる世帯において回答の割合が高くなっています。

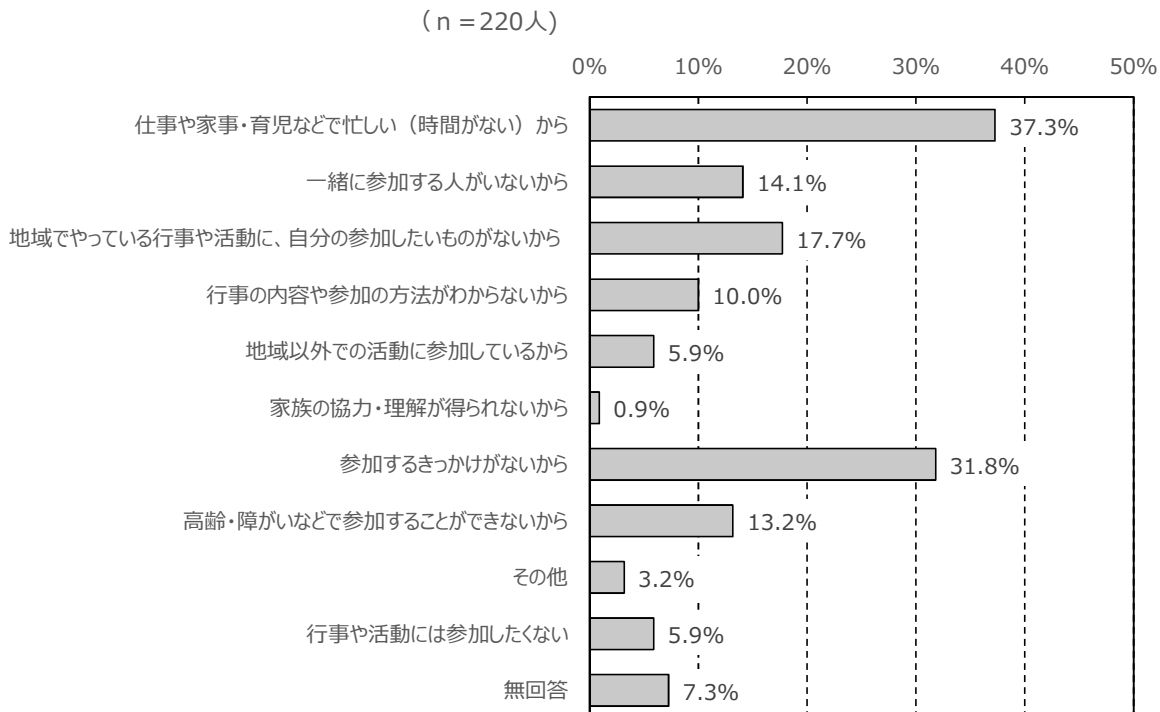
その他に『女性』では「地域のサークル活動」、「地域でのボランティア活動」への回答が『男性』よりも多く、『20～30代』では「お祭りやスポーツ大会などのレクリエーション活動」への回答が多くなっています。

また65歳以上では「地域でのボランティア活動」への回答が多く、『75歳以上（後期高齢者）』では「団体の活動（PTA、老人クラブ、婦人会、青年会など）」への回答がもっとも多くなっています。

3) 地域活動に参加していない理由

(問 20 で「3. あまり参加していない」、または「4. 全く参加していない」とお答えの方に)

問 20-2 参加されていない理由をお答えください。(〇は3つまで)



地域活動に『参加してない』と回答した 220 人に、地域活動に参加していない理由について聞いたところ、「仕事や家事・育児などで忙しい（時間がない）から」（37.3%）、「参加するきっかけがないから」（31.8%）への回答が多くなっています。

3割は参加のきっかけがないために地域活動に参加していないとしており、地域活動に参加したいのに参加できていない人が少なからずいるものと思われます。

<その他の記載内容>

回答内容
転居して日が浅いため
時間ができた時は疲れいてなかなか参加できない
仕事先が遠方であることから
体
自分の体調に合わせて参加する様になっている

<属性別にみた回答傾向>

		n	仕事や家事・育児などで忙しい(時間がない)から	一緒に参加する人がいないから	地域でやっている行事や活動に、自分の参加したくもないから	行事の内容や参加の方法がわからないから	地域以外での活動に参加しているから	家族の協力・理解が得られないから	参加するきっかけがないから	高齢・障がいなどで参加することができないから	その他	行事や活動には参加したくない
全体		100.0%	37.3%	14.1%	17.7%	10.0%	5.9%	0.9%	31.8%	13.2%	3.2%	5.9%
		220人	82人	31人	39人	22人	13人	2人	70人	29人	7人	13人
回答者の性別	男性	100.0%	34.3%	8.8%	17.6%	9.8%	10.8%	2.0%	27.5%	16.7%	2.9%	4.9%
		102人	35人	9人	18人	10人	11人	2人	28人	17人	3人	5人
回答者の性別	女性	100.0%	42.7%	19.1%	17.3%	10.0%	1.8%	0.0%	33.6%	10.0%	3.6%	7.3%
		110人	47人	21人	19人	11人	2人	0人	37人	11人	4人	8人
回答者の年齢	20~30代	100.0%	61.1%	33.3%	11.1%	16.7%	5.6%	0.0%	38.9%	0.0%	0.0%	5.6%
		18人	11人	6人	2人	3人	1人	0人	7人	0人	0人	1人
	40~64歳	100.0%	58.3%	13.1%	15.5%	10.7%	2.4%	1.2%	35.7%	2.4%	2.4%	6.0%
		84人	49人	11人	13人	9人	2人	1人	30人	2人	2人	5人
	65~74歳(前期高齢者)	100.0%	23.3%	15.0%	26.7%	6.7%	6.7%	0.0%	31.7%	15.0%	6.7%	8.3%
	60人	14人	9人	16人	4人	4人	0人	19人	9人	4人	5人	
回答者の年齢	75歳以上(後期高齢者)	100.0%	14.0%	8.8%	14.0%	10.5%	10.5%	1.8%	24.6%	31.6%	1.8%	3.5%
		57人	8人	5人	8人	6人	6人	1人	14人	18人	1人	2人
回答者の世帯の構成	単身世帯(ひとり暮らし)	100.0%	31.6%	26.3%	5.3%	5.3%	10.5%	0.0%	52.6%	5.3%	0.0%	10.5%
		19人	6人	5人	1人	1人	2人	0人	10人	1人	0人	2人
	夫婦のみ世帯	100.0%	35.6%	6.7%	13.3%	4.4%	2.2%	0.0%	20.0%	17.8%	6.7%	8.9%
		45人	16人	3人	6人	2人	1人	0人	9人	8人	3人	4人
	二世世代家族(世帯)	100.0%	39.6%	15.6%	26.0%	14.6%	6.3%	2.1%	32.3%	11.5%	1.0%	6.3%
		96人	38人	15人	25人	14人	6人	2人	31人	11人	1人	6人
	三世世代家族(世帯)	100.0%	47.7%	13.6%	13.6%	9.1%	4.5%	0.0%	38.6%	13.6%	2.3%	0.0%
	44人	21人	6人	6人	4人	2人	0人	17人	6人	1人	0人	
その他の世帯	100.0%	7.7%	15.4%	7.7%	7.7%	15.4%	0.0%	23.1%	23.1%	15.4%	7.7%	
	13人	1人	2人	1人	1人	2人	0人	3人	3人	2人	1人	

※「無回答」の属性別の回答については割愛

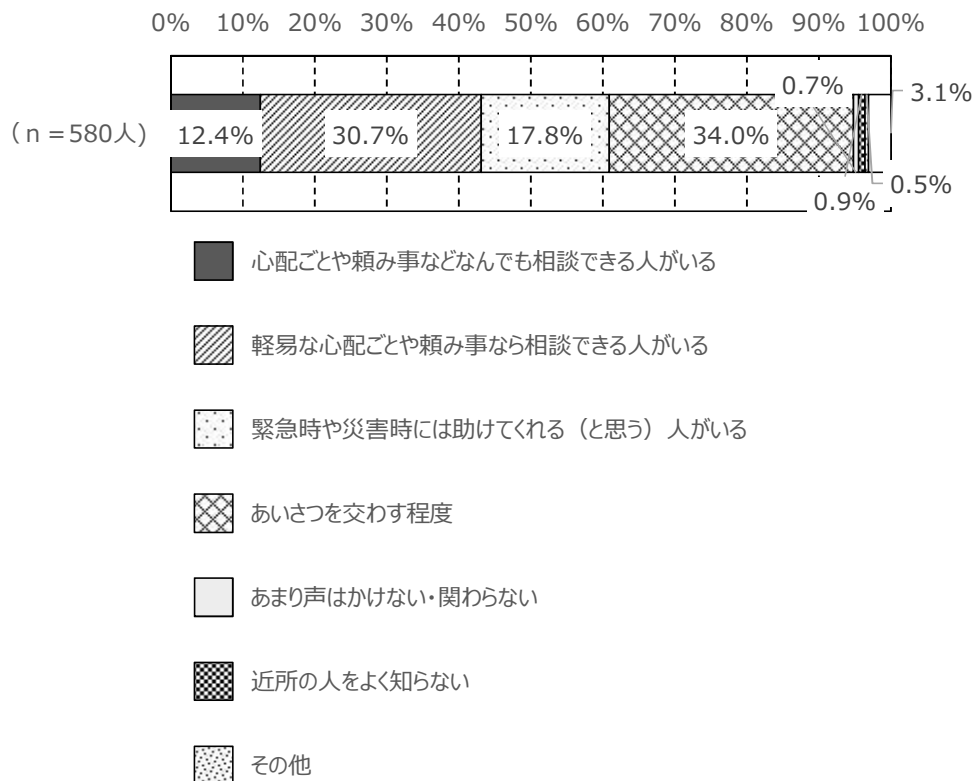
『女性』では「仕事や家事・育児などで忙しい(時間がない)から」、「一緒に参加する人がいないから」、「参加するきっかけがないから」などへの回答が『男性』よりも多く、『男性』では「地域以外での活動に参加しているから」への回答が多くなっています。

年齢が若いほど「仕事や家事・育児などで忙しい(時間がない)から」への回答の割合は高く、『75歳以上(後期高齢者)』では「高齢・障がいなどで参加することができないから」への回答の割合が高くなっています。

また『単身世帯(ひとり暮らし)』では「参加するきっかけがないから」が半数を超え、『三世世代家族(世帯)』では「仕事や家事・育児などで忙しい(時間がない)から」への回答が多くなっています。

(2) 近所づきあいの状況

問21 あなたは、近所の方とどのようなお付き合いをされていますか。(〇は1つだけ)



近所づきあいの状況をみると、34.0%は「あいさつを交わす程度」としています。

一方、「軽易な心配ごとや頼み事なら相談できる人がいる」は30.7%で、「心配ごとや頼み事などなんでも相談できる人がいる」(12.4%)、「緊急時や災害時には助けてくれる(と思う)人がいる」(17.8%)という回答もそれぞれ1割を超えており、あわせると6割は近所とある程度親密なつき合いをしているものと思われます。

<その他の記載内容>

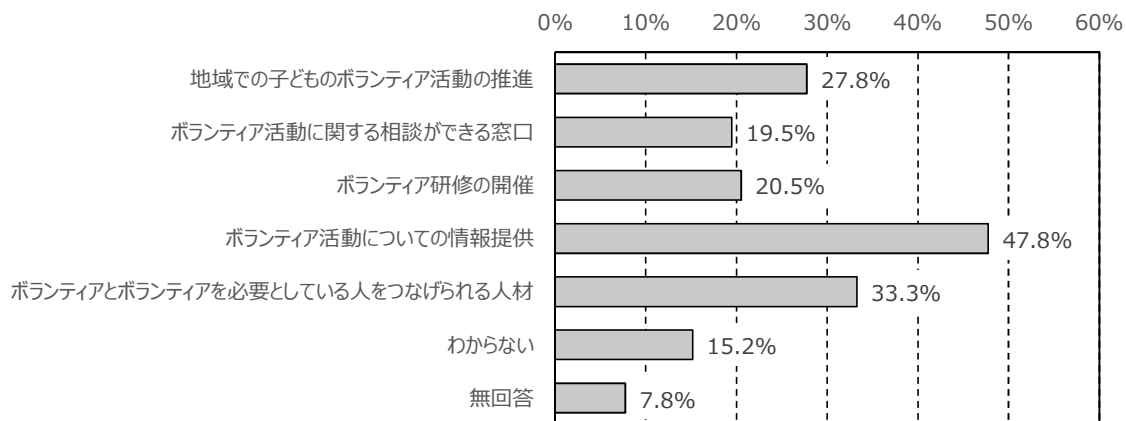
回答内容
住区のごとは協力する程度。
近所付き合い
心の通ずる方、友人、気心の合っている方

(3) ボランティア活動促進のために必要なこと

問 22 今後、ボランティア活動の輪を広げていくために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

①ボランティア活動促進のために必要なこと

(n = 580人)



ボランティア活動促進のために必要なことについては、47.8%と半数近くが「ボランティア活動についての情報提供」と回答しており、必要な情報が十分には伝わっていない可能性が考えられます。

<属性別にみた回答傾向>

		n	地域での子どものボランティア活動の推進	ボランティア活動に関する相談ができる窓口	ボランティア研修の開催	ボランティア活動についての情報提供	ボランティアとボランティアを必要としている人をつなげられる人材	わからない	無回答
全体		580人	27.8%	19.5%	20.5%	47.8%	33.3%	15.2%	7.8%
回答者の性別	男性	291人	29.6%	24.7%	22.3%	47.1%	28.9%	15.8%	5.8%
	女性	275人	25.8%	14.2%	17.8%	48.7%	38.2%	14.5%	9.1%
回答者の年齢	20~30代	56人	30.4%	8.9%	17.9%	51.8%	32.1%	12.5%	3.6%
	40~64歳	240人	30.4%	16.3%	20.4%	47.9%	39.2%	14.6%	2.9%
	65~74歳 (前期高齢者)	158人	31.6%	19.0%	20.3%	50.6%	24.7%	17.1%	11.4%
	75歳以上 (後期高齢者)	123人	16.3%	31.7%	22.8%	42.3%	33.3%	15.4%	13.8%

ボランティア活動促進のために必要なことについては、男女とも「ボランティア活動についての情報提供」への回答が多くなっていますが、『男性』では『女性』よりも、「ボランティア活動に関する相談ができる窓口」への回答が、『女性』では「ボランティアとボランティアを必要としている人をつなげられる人材」への回答が多くなっています。

『75歳以上(後期高齢者)』では「地域での子どものボランティア活動の推進」への回答の割合が低く、「ボランティア活動に関する相談ができる窓口」への回答の割合が高くなっています。

②村に希望するボランティア活動促進の取組

回答内容
ボランティアなんかやったら何の為に成らない。公務員を増やすだけ。自分の力で稼ぐ。自分の力で生きられる人が初めて、他人のために力を使うことがボランティア。子供のうちは、ボランティアなんかやらなくていい。そういうことをやっている人がいるということだけわかればいい。
賃金を発生させる。
有償ボランティアの推進
皆が「忙しい」と言う今、そのボランティア活動が自分や他者に対してどれだけの価値や意味があるのか啓蒙する何らかの方策
ボランティアは何でも無償では、数がふえないと思います。有償もすすめてほしい。
色々な窓口があればいいと思う
例えば今、村でどんなボランティアを必要としているのか提供しているとは思っていますが、余裕がなくて、関われない状態です。すみません。
コーディネーターの設置、配置
ボランティア活動に対する財政面、人材面、情報面での強化
村内の各ボランティア団体とも、会員が減ってきていて活動しにくい状態に推進キャンペーンとか、ボランティア活動してみませんかとか。
若い世代に依存しない、年間通して活動できる団体を育てる
86 才なのでボランティアあまりできないが自分に出来ると思った時はやりたいと思います。
ひだまり苑でのボランティアでも内容によってはある程度の知識（老人への接し方守秘義務、その他）も必要だったりするので、繋いでいく為には研修も必要と思う。
ふれあいネットぬくもりの会員の高齢化に伴い、活動を続けていくためにも新規でヘルパー育成講座を開催して欲しい。
ボランティアを永続するには家族の理解が必要と思います。
ボランティアコーディネーター等の人材の育成、若い世代の人材育成、ボランティア活動の事務局体制が大切
社会福祉協議会事業への積極的参加の推進
ボランティア奉仕は無料と云うことを考えなおして、小額でも、負担することにより、支援を受ける人の心の負担を楽にすること

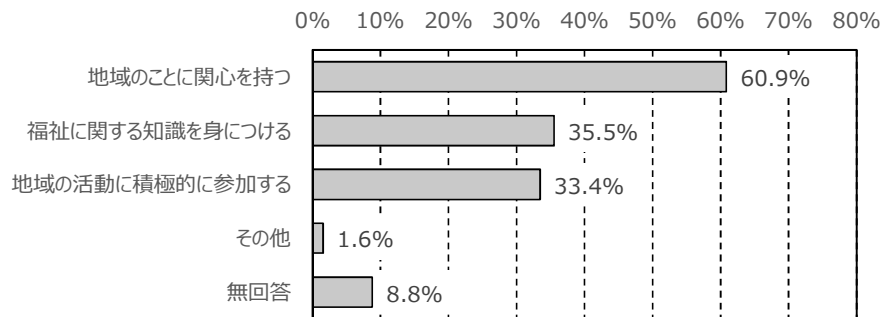
9. 大潟村の福祉施策の取組について

(1) 自助・共助・公助のあり方について

問23 地域福祉の推進のためには、自助（一人ひとりの取り組み）、共助（住民相互の支え合いのほか、自治会、ボランティア団体などによる活動）、公助（国や自治体などによる公的な支援）の連携が重要だと考えられます。あなたは地域福祉の推進のため、①自助、②共助、③公助において、どのようなことが重要だと考えますか。（〇は①～③のそれぞれにいくつでも）

1) 自助において重要なこと

(n = 580人)



『①自助』において重要なこととしては、「地域のことに興味を持つ」が60.9%で最も多くなっています。

まずは一人ひとりが地域のことに興味を持つことが重要と考えられています。

<その他の記載内容>

回答内容
自分のことは自分でやる
自分のことは自分で責任を持つ
自己解決力を高める

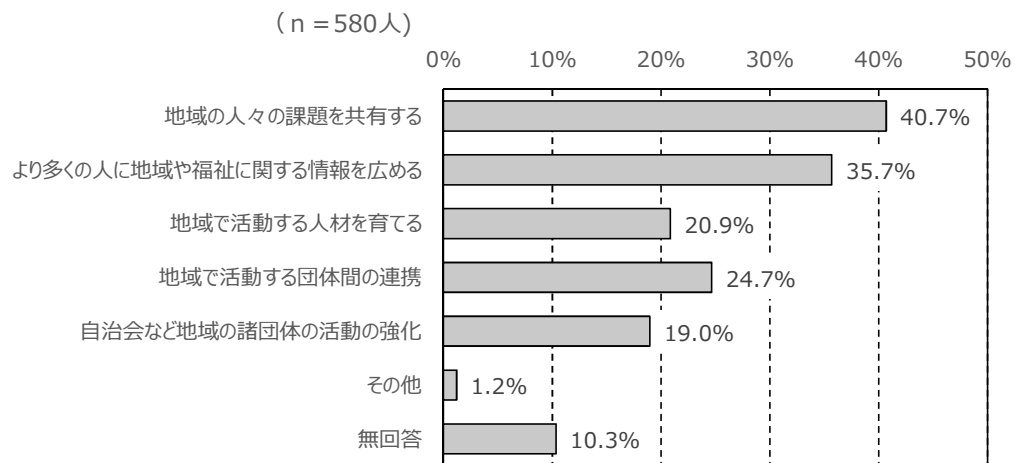
<属性別にみた回答傾向>

		n	地域のことに関心を持つ	福祉に関する知識を身につける	地域の活動に積極的に参加する	その他	無回答
全体		100.0%	60.9%	35.5%	33.4%	1.6%	8.8%
		580人	353人	206人	194人	9人	51人
回答者の性別	男性	100.0%	59.1%	37.1%	34.7%	2.1%	6.5%
		291人	172人	108人	101人	6人	19人
女性	100.0%	63.3%	34.5%	32.7%	1.1%	10.2%	
	275人	174人	95人	90人	3人	28人	
回答者の年齢	20～30代	100.0%	71.4%	41.1%	32.1%	3.6%	3.6%
		56人	40人	23人	18人	2人	2人
	40～64歳	100.0%	65.8%	32.5%	35.4%	0.4%	4.2%
		240人	158人	78人	85人	1人	10人
	65～74歳（前期高齢者）	100.0%	58.2%	32.9%	31.0%	0.6%	12.7%
		158人	92人	52人	49人	1人	20人
	75歳以上（後期高齢者）	100.0%	50.4%	41.5%	33.3%	4.1%	14.6%
		123人	62人	51人	41人	5人	18人
福祉施策に対する総合満足度	満足	100.0%	61.9%	35.1%	38.4%	0.9%	5.4%
		333人	206人	117人	128人	3人	18人
	どちらでもない	100.0%	70.1%	31.4%	27.0%	2.2%	8.0%
		137人	96人	43人	37人	3人	11人
	不満	100.0%	52.3%	53.8%	36.9%	0.0%	4.6%
		65人	34人	35人	24人	0人	3人

いずれの属性においてもおおむね「地域のことに関心を持つ」への回答の割合が高く、『20～30代』では7割を超えています。

福祉施策に対する総合満足度別にみると、『不満』という回答者では「福祉に関する知識を身につける」への回答の割合が『満足』という回答者よりも高くなっています。

2) 共助において重要なこと



『②共助』において重要なこととしては、「地域の人々の課題を共有する」が40.7%で最も多く、ついで「より多くの人に地域や福祉に関する情報を広める」が35.7%となっています。

地域の中で情報を広め、課題を共有し、ヨコの広がりを強めていくことが共助において重要と考えられています。

<その他の記載内容>

回答内容
コミュニケーション

<属性別にみた回答傾向>

		n	地域の人々の課題を共有する	より多くの人に地域や福祉に関する情報を広める	地域で活動する人材を育てる	地域で活動する団体間の連携	自治会など地域の諸団体の活動の強化	その他	無回答
全体		100.0%	40.7%	35.7%	20.9%	24.7%	19.0%	1.2%	10.3%
		580人	236人	207人	121人	143人	110人	7人	60人
回答者の性別	男性	100.0%	45.4%	33.3%	24.4%	24.4%	20.6%	1.0%	8.9%
		291人	132人	97人	71人	71人	60人	3人	26人
女性	100.0%	36.7%	38.5%	17.8%	25.1%	17.8%	1.5%	10.5%	
		275人	101人	106人	49人	69人	49人	4人	29人
回答者の年齢	20～30代	100.0%	48.2%	37.5%	17.9%	35.7%	25.0%	3.6%	5.4%
		56人	27人	21人	10人	20人	14人	2人	3人
	40～64歳	100.0%	40.0%	37.1%	23.8%	27.5%	19.2%	0.8%	4.2%
		240人	96人	89人	57人	66人	46人	2人	10人
65～74歳（前期高齢者）	100.0%	41.1%	32.3%	14.6%	19.6%	17.7%	0.6%	12.7%	
		158人	65人	51人	23人	31人	28人	1人	20人
75歳以上（後期高齢者）	100.0%	38.2%	35.8%	23.6%	21.1%	17.9%	1.6%	21.1%	
		123人	47人	44人	29人	26人	22人	2人	26人
福祉施策に対する総合満足度	満足	100.0%	42.0%	38.1%	21.9%	24.6%	18.3%	0.6%	7.2%
		333人	140人	127人	73人	82人	61人	2人	24人
	どちらでもない	100.0%	40.1%	32.8%	16.8%	21.9%	21.9%	2.2%	10.2%
	137人	55人	45人	23人	30人	30人	3人	14人	
不満	100.0%	41.5%	36.9%	32.3%	36.9%	21.5%	0.0%	4.6%	
		65人	27人	24人	21人	24人	14人	0人	3人

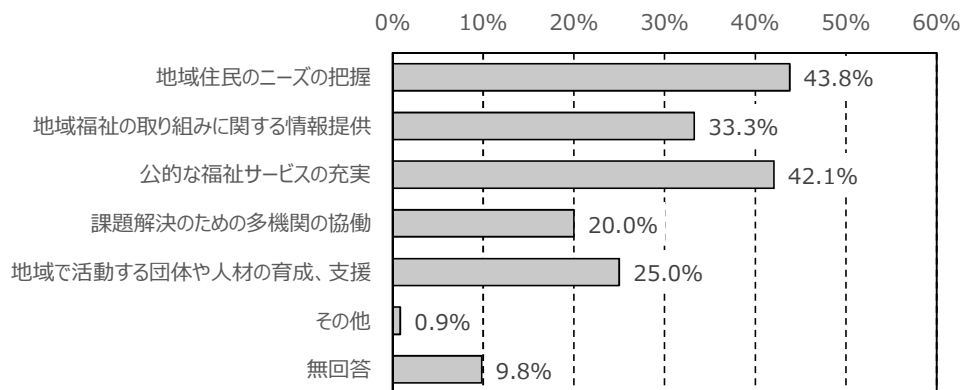
男女ともおおむね同様の回答傾向となっておりますが、『男性』の方が「地域の人々の課題を共有する」への回答の割合が『女性』よりも高くなっています。

回答者の年齢別にみると、『20～30代』では「地域の人々の課題を共有する」、「地域で活動する団体間の連携」への回答の割合が他の年代よりも高くなっています。

福祉施策の総合満足度別にみると、『不満』層では『満足』層よりも「地域で活動する人材を育てる」、「地域で活動する団体間の連携」などの回答の割合が高くなっています。

3) 公助において重要なこと

(n = 580人)



『③公助』において重要なこととしては、「地域住民のニーズの把握」(43.8%)と「公的な福祉サービスの充実」(42.1%)がともに4割を超えて多くなっています。

公助においては、住民ニーズを把握して、ニーズに即して的確なサービスの充実を図ることが重要と考えられています。

<その他の記載内容>

回答内容
サービスに費用が多くかかるとサービスが受けられない。所得に応じて、でもいいので、だれもがサービスを受けられるようにしてほしい。
体育会系の人とそうでない人を分け隔てしない雰囲気作り
時々会合を行う
行政職員と住民との関係強化
共助

<属性別にみた回答傾向>

		n	地域住民のニーズの把握	地域福祉の取り組みに関する情報提供	公的な福祉サービスの充実	課題解決のための多機関の協働	地域で活動する団体や人材の育成、支援	その他	無回答
全体		100.0%	43.8%	33.3%	42.1%	20.0%	25.0%	0.9%	9.8%
		580人	254人	193人	244人	116人	145人	5人	57人
回答者の性別	男性	100.0%	45.7%	33.7%	39.2%	21.0%	26.1%	1.0%	7.2%
		291人	133人	98人	114人	61人	76人	3人	21人
	女性	100.0%	43.6%	33.1%	46.2%	19.6%	23.6%	0.7%	11.3%
		275人	120人	91人	127人	54人	65人	2人	31人
回答者の年齢	20～30代	100.0%	57.1%	33.9%	44.6%	32.1%	21.4%	0.0%	7.1%
		56人	32人	19人	25人	18人	12人	0人	4人
	40～64歳	100.0%	48.8%	32.9%	50.0%	24.6%	25.4%	0.8%	3.3%
		240人	117人	79人	120人	59人	61人	2人	8人
	65～74歳（前期高齢者）	100.0%	41.8%	31.0%	34.8%	13.9%	22.2%	0.6%	13.3%
	158人	66人	49人	55人	22人	35人	1人	21人	
	75歳以上（後期高齢者）	100.0%	30.9%	37.4%	34.1%	13.8%	28.5%	1.6%	18.7%
		123人	38人	46人	42人	17人	35人	2人	23人
福祉施策に対する総合満足度	満足	100.0%	44.1%	38.1%	41.4%	18.3%	23.7%	0.6%	6.9%
		333人	147人	127人	138人	61人	79人	2人	23人
	どちらでもない	100.0%	46.7%	26.3%	43.8%	21.2%	23.4%	1.5%	8.8%
		137人	64人	36人	60人	29人	32人	2人	12人
	不満	100.0%	49.2%	33.8%	56.9%	30.8%	36.9%	0.0%	3.1%
		65人	32人	22人	37人	20人	24人	0人	2人

『女性』では「公的な福祉サービスの充実」への回答が『男性』よりも多く、『20～30代』では「地域住民のニーズの把握」、「課題解決のための多機関の協働」などの回答が他の年代よりも多くなっています。

福祉施策に対する総合満足度別にみると、『不満』層では「公的な福祉サービスの充実」、「課題解決のための多機関の協働」、「地域で活動する団体や人材の育成、支援」などへの回答の割合が『満足』層よりも高くなっています。

4) 自助・共助・公助において取り組んでもらいたいこと

回答内容
大潟村社会福祉協議会の再構成“何のために存在するのか”を再確認、具体的には、主要な決定機関である理事会の再構成（理事選出の仕方＝細則の改正）組織としてリーダーシップを発揮するような体制へ移行する。“ドロ縄”的運営から決別（訣別）村と福祉協議会との連携、一体化
他の人が参加しやすくする。
地域の声をひろって下さい。
第1に勉強会、アンケートはいいが、地域福祉、地域包括ケアシステムをどれくらい理解しているだろうか…
（3）受けたいサービスに対して、受け付に課で対応できない場合。適切に対処できるところまで案内していただきたい。ここではできませんで終わらないで。
公助に依存しない共助、自助をパワーアップしなければならないと思う。
各村内にある職場の職員全員に1年目にボランティア活動一年間経験する必要があると思います。それによって自分の老後、家族のあり方、福祉のあり方ということがわかると考えています。きれい事では人間すまされないのです。職場の中では挨拶はするけれど1歩外に出ると挨拶のしない人が多いです。特に役場の人、市民の給料です。
住民のニーズ、困りごとの把握をワンストップで、ネット経由で気軽に。ケースバイケースで返信できること。（システム構築して下さい）
世代間の交流イベントが少なく、地域福祉の基盤が弱い、お世話する事もお世話になる事も自然に出来る環境づくり
とても難しい言葉での設問で、とても答えるのに戸惑いました。高齢者の方々が設問を理解して答えられると思いますか？もっとわかり易い表現方法が考えられます。形式的アンケートなら必要無い！
若いボランティアに参加する人を増やすための育成支援
住区単位活動の積極的な推進。
他の事をいくら沢山覚えても、自分が動けないと何の役にも立てない。自分が自立する様、努力する事柄はないのですが。
地域福祉の発展は自助努力する人を多くすることだ、推進者を多数にすること、人材づくりに取り組むべきです。

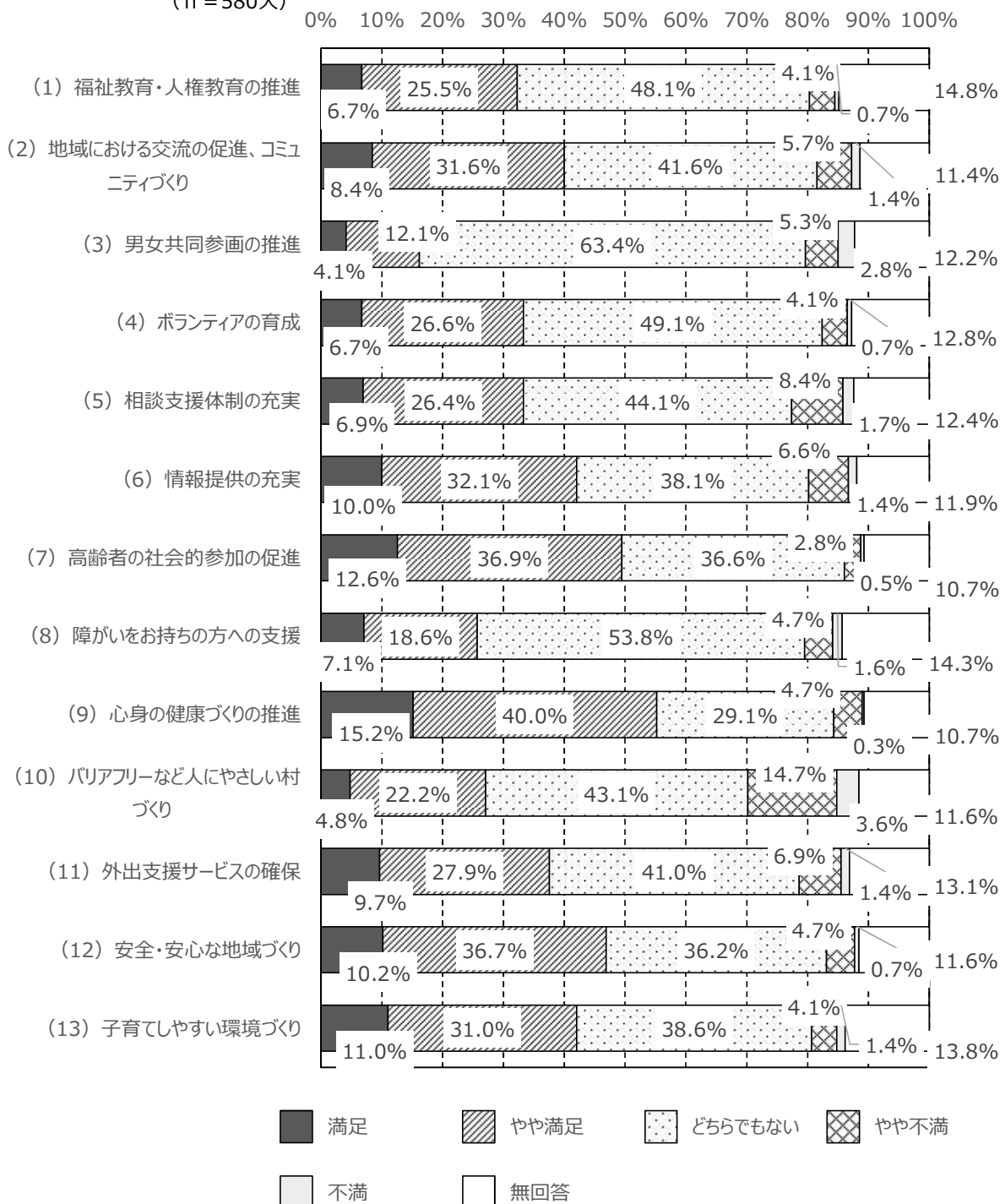
(2) 大潟村の地域福祉施策に対する満足度と重要度

問24 地域福祉推進に関する次の主要施策(1)～(13)に対する、①現状の満足度と②今後の地域福祉推進における重要度について、5段階の評価をお伺いします。(各主要施策について①と②にそれぞれ〇は1つだけ)

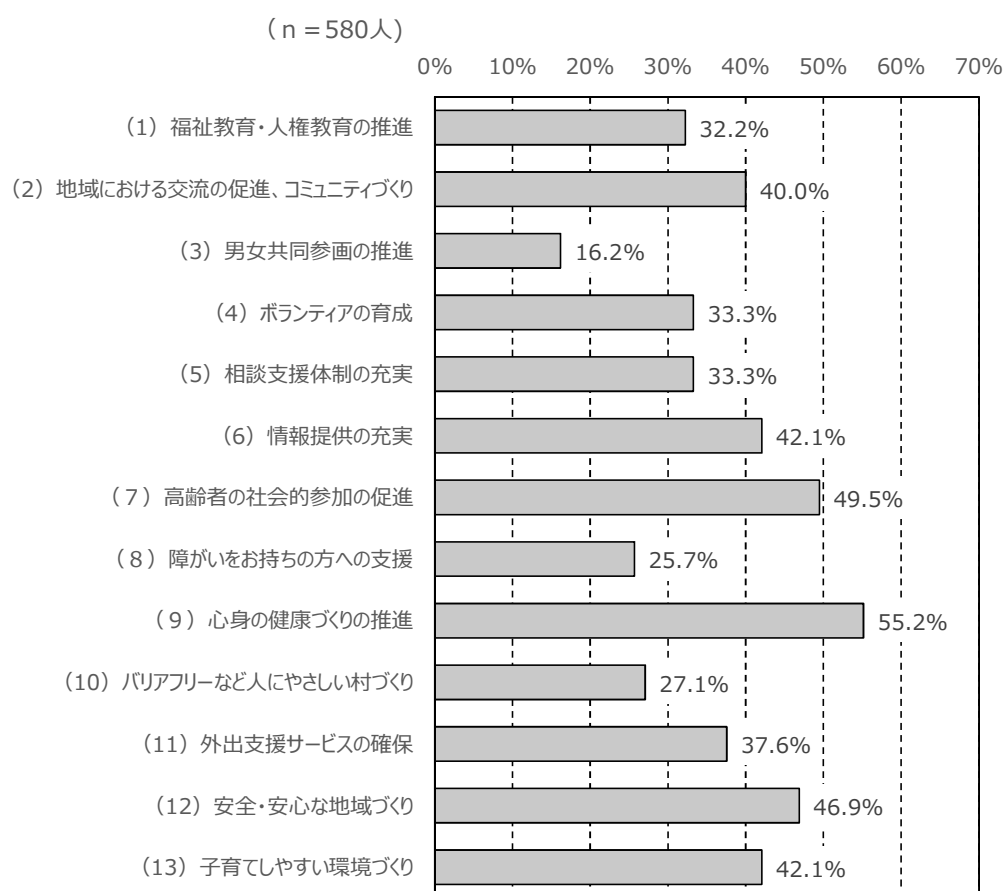
1) 満足度

<回答結果>

(n=580人)



< “満足している” 主要施策 >



「満足」と「やや満足」をあわせた“満足している”という回答の割合について整理すると、「(9) 心身の健康づくりの推進」が 55.2%と最も多く、回答者の半数以上が満足していると評価しています。

ついで「(7) 高齢者の社会的参加の促進」も 49.5%と半数近くが満足していると評価しており、「(12) 安全・安心な地域づくり」(46.9%)、「(6) 情報提供の充実」(42.1%)「(13) 子育てしやすい環境づくり」(42.1%)、「(2) 地域における交流の促進、コミュニティづくり」(40.0%) などについても4割以上が満足していると評価しています。

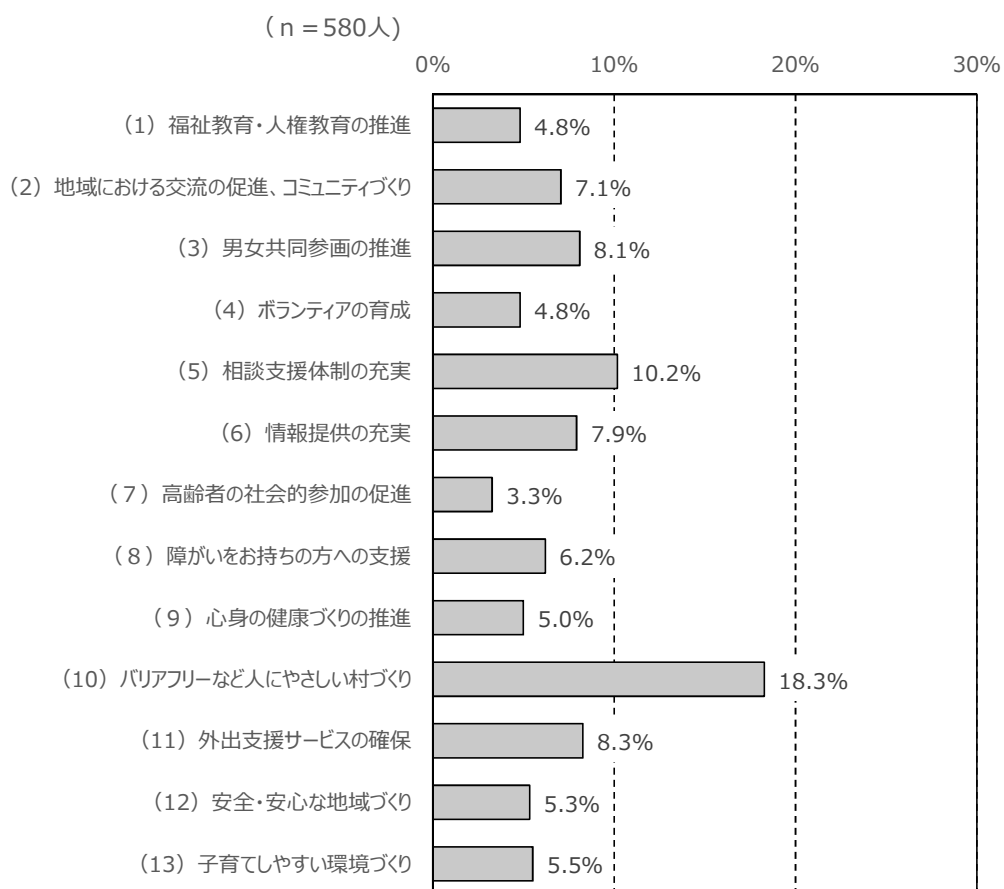
＜属性別にみた回答傾向（“満足している”主要施策）＞

		n	(1) 福祉教育・人権教育の推進	(2) 地域における交流の促進、コミュニティづくり	(3) 男女共同参画の推進	(4) ボランティアの育成	(5) 相談支援体制の充実	(6) 情報提供の充実	(7) 高齢者の社会的参加の促進	(8) 障がい者お持ちの方への支援	
全体		100.0%	32.2%	40.0%	16.2%	33.3%	33.3%	42.1%	49.5%	25.7%	
		580人	187人	232人	94人	193人	193人	244人	287人	149人	
福祉施策に対する総合満足度	満足	100.0%	47.4%	54.7%	26.4%	46.5%	48.9%	59.2%	68.2%	39.9%	
		333人	158人	182人	88人	155人	163人	197人	227人	133人	
	どちらでもない	100.0%	13.9%	19.7%	1.5%	15.3%	11.7%	20.4%	23.4%	5.8%	
		137人	19人	27人	2人	21人	16人	28人	32人	8人	
	不満	100.0%	9.2%	26.2%	4.6%	23.1%	13.8%	15.4%	30.8%	6.2%	
		65人	6人	17人	3人	15人	9人	10人	20人	4人	
		n	(9) 心身の健康づくりの推進	(10) PVアリアーなど人にやさしい村づくり	(11) 外出支援サービスの確保	(12) 安全・安心な地域づくり	(13) 子育てしやすい環境づくり				
全体		100.0%	55.2%	27.1%	37.6%	46.9%	42.1%				
		580人	320人	157人	218人	272人	244人				
福祉施策に対する総合満足度	満足	100.0%	73.0%	39.9%	51.4%	64.6%	59.5%				
		333人	243人	133人	171人	215人	198人				
	どちらでもない	100.0%	35.8%	11.7%	20.4%	24.8%	21.2%				
		137人	49人	16人	28人	34人	29人				
	不満	100.0%	32.3%	7.7%	21.5%	24.6%	16.9%				
		65人	21人	5人	14人	16人	11人				

福祉施策に対する総合満足度別に“満足している”主要施策をみると、『不満』層よりも『満足』層の方がすべての施策において満足とする回答の割合が高くなっています。

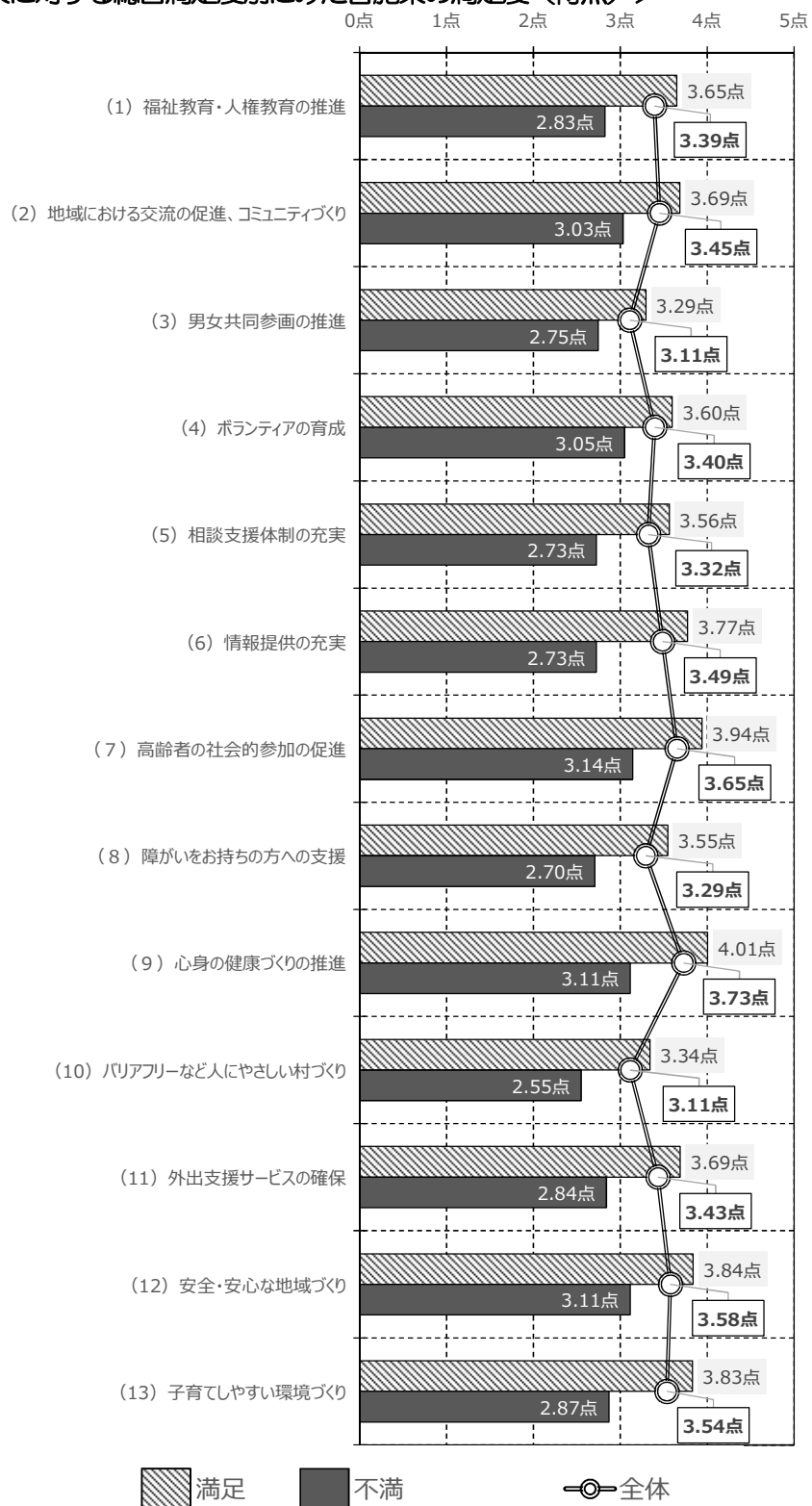
特に「(6) 情報提供の充実」、「(9) 心身の健康づくりの推進」、「(13) 子育てしやすい環境づくり」などでは『不満』層よりも『満足』層の回答の差が大きくなっています。

<”満足していない”主要施策>



「やや不満」と「不満」をあわせた“満足していない”という回答の割合について整理すると、「(10) バリアフリーなど人にやさしい村づくり」が18.3%で最も多くなっています。ついで「(5) 相談支援体制の充実」が10.2%となっています。

＜福祉施策に対する総合満足度別にみた各施策の満足度（得点）＞

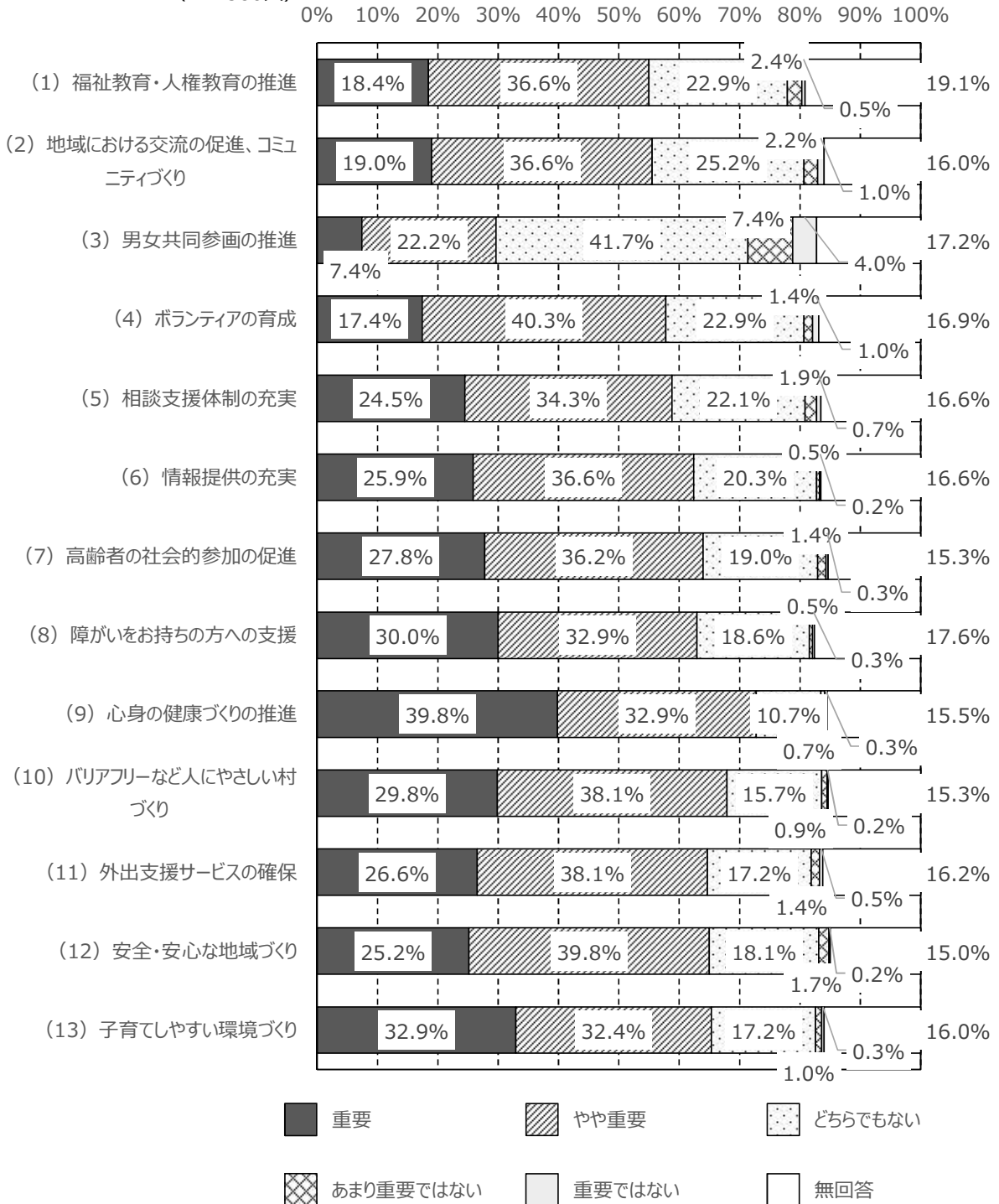


主要施策の満足度得点（満足＝5点～不満＝1点として算出）を福祉施策に対する総合満足度別にみると、『不満』層では全般的に得点が低く、「(10) バリアフリーなど人にやさしい村づくり」が2.55点でもっとも得点が低くなっています。

2) 重要度

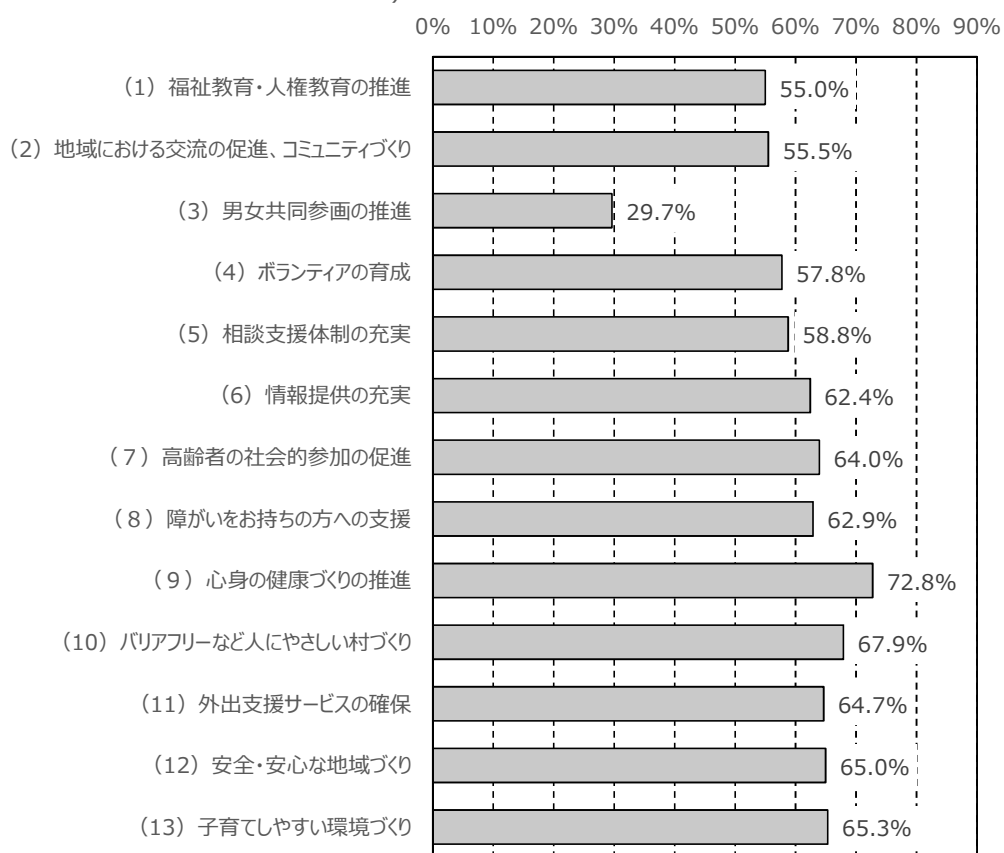
<回答結果>

(n = 580人)



<”重要と思う”主要施策>

(n = 580人)



「重要」と「やや重要」をあわせた“重要と思う”という回答の割合について整理すると、ほぼすべての項目で半数以上が重要と思うと評価しており、特に「(9) 心身の健康づくりの推進」では72.8%が重要と思うと評価しています。

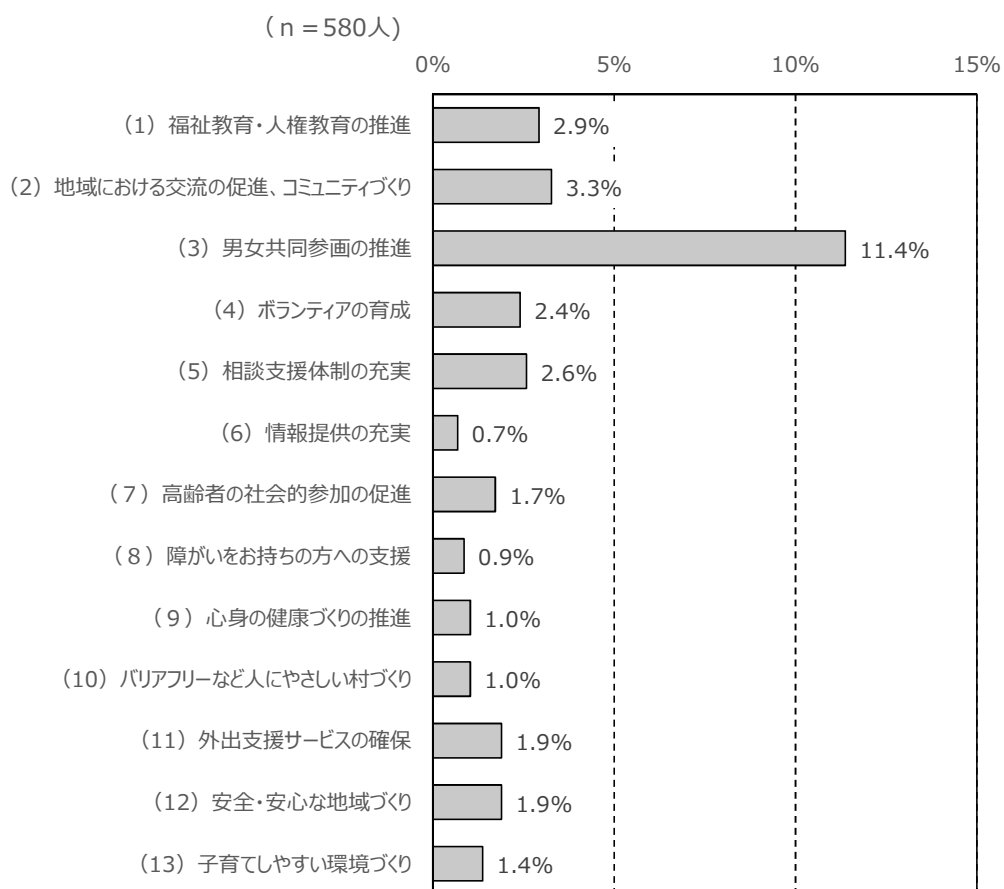
一方で、「(3) 男女共同参画の推進」は29.7%で、重要と思うという評価が少なくなっています。

＜属性別にみた回答傾向＞

		n	(1) 福祉教育・人権教育の推進	(2) 地域における交流の促進、コミュニティづくり	(3) 男女共同参画の推進	(4) ボランティアの育成	(5) 相談支援体制の充実	(6) 情報提供の充実	(7) 高齢者の社会的参加の促進	(8) 障がい者お持ちの方への支援
全体		100.0%	55.0%	55.5%	29.7%	57.8%	58.8%	62.4%	64.0%	62.9%
		580人	319人	322人	172人	335人	341人	362人	371人	365人
福祉施策に対する総合満足度	満足	100.0%	62.5%	64.3%	38.1%	66.1%	66.1%	70.0%	73.0%	70.0%
		333人	208人	214人	127人	220人	220人	233人	243人	233人
	どちらでもない	100.0%	51.1%	46.0%	18.2%	48.2%	53.3%	54.7%	54.7%	54.0%
		137人	70人	63人	25人	66人	73人	75人	75人	74人
	不満	100.0%	49.2%	55.4%	23.1%	63.1%	63.1%	69.2%	67.7%	73.8%
		65人	32人	36人	15人	41人	41人	45人	44人	48人
		n	(9) 心身の健康づくりの推進	(10) バリアフリーなど人にやさしい村づくり	(11) 外出支援サービスの確保	(12) 安全・安心な地域づくり	(13) 子育てしやすい環境づくり			
全体		100.0%	72.8%	67.9%	64.7%	65.0%	65.3%			
		580人	422人	394人	375人	377人	379人			
福祉施策に対する総合満足度	満足	100.0%	81.7%	73.3%	71.2%	75.7%	73.9%			
		333人	272人	244人	237人	252人	246人			
	どちらでもない	100.0%	64.2%	65.0%	58.4%	56.2%	58.4%			
		137人	88人	89人	80人	77人	80人			
	不満	100.0%	78.5%	78.5%	73.8%	60.0%	69.2%			
		65人	51人	51人	48人	39人	45人			

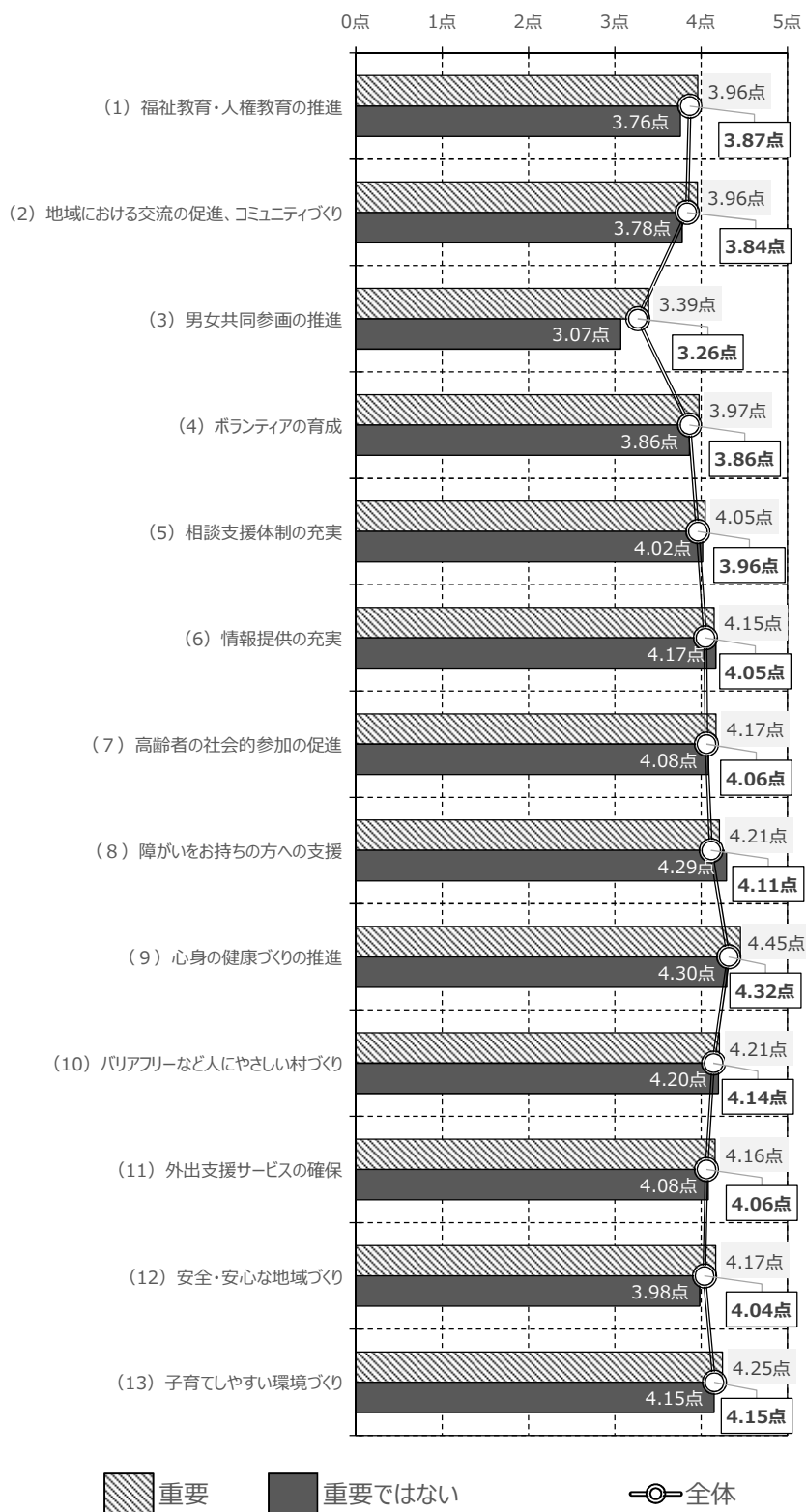
福祉施策に対する総合満足度別に”重要と思う”主要施策をみると、『不満』層よりも『満足』層の方が多くの施策において重要とする回答の割合が高くなっていますが、「(8) 障がい者お持ちの方への支援」、「(10) バリアフリーなど人にやさしい村づくり」、「(11) 外出支援サービスの確保」については、『不満』層の方が『満足』層よりも重要とする回答の割合が高くなっています。

< “重要と思わない” 主要施策 >



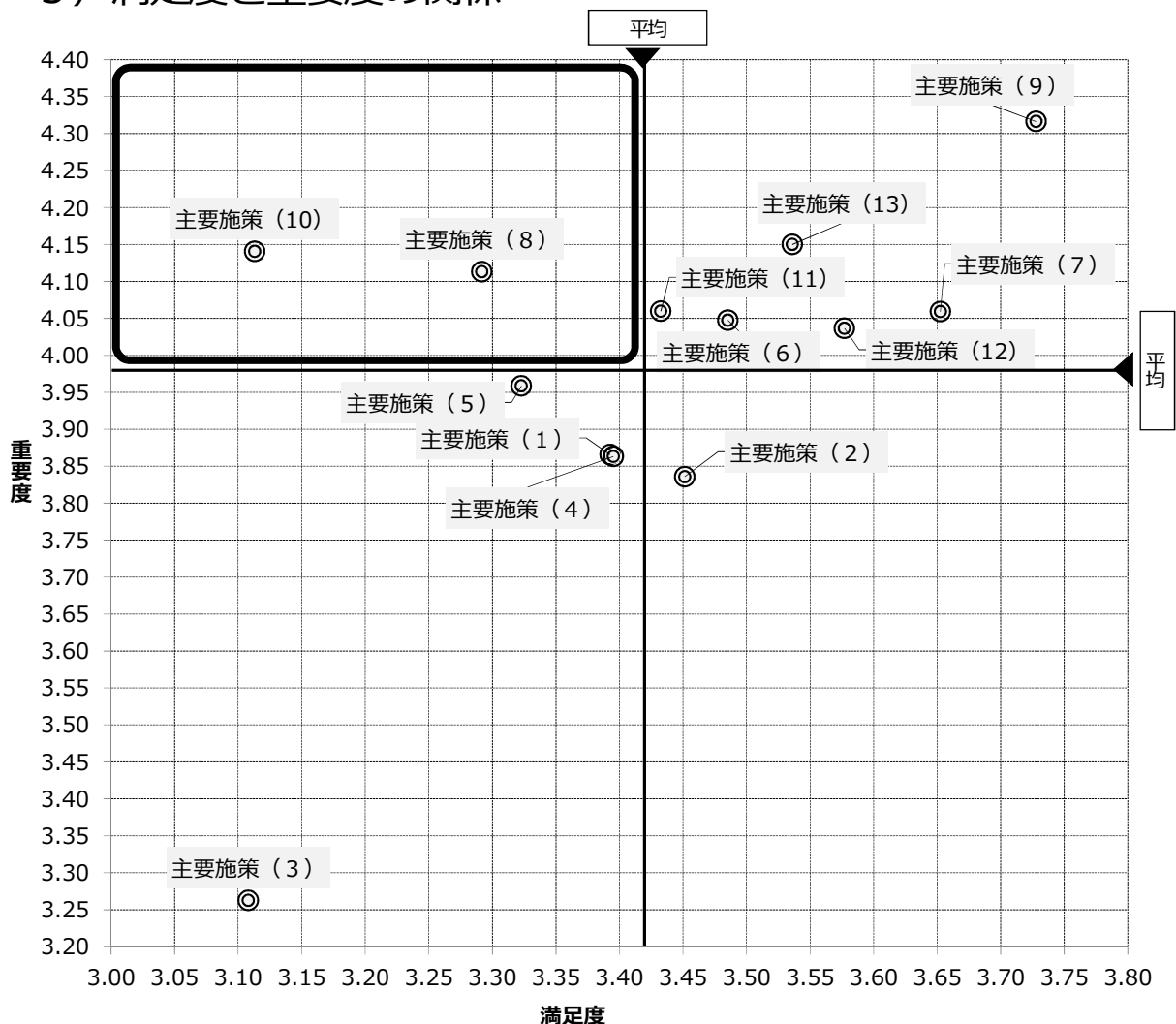
「あまり重要ではない」と「重要ではない」をあわせた“重要と思わない”という回答の割合について整理すると、「(3) 男女共同参画の推進」が11.4%で最も多くなっています。

＜福祉施策に対する総合満足度別にみた各施策の重要度（得点）＞



主要施策の重要度得点（重要＝5点～重要ではない＝1点として算出）を福祉施策に対する総合満足度別にみると、『満足』層と『不満足』層との間に大きな差はみられません。

3) 満足度と重要度の関係



- 【①満足度】
満足=5点、やや満足=4点、どちらともいえない=3点、やや不満=2点、不満=1点
- 【②重要度】
重要=5点、やや重要=4点、どちらともいえない=3点、あまり重要ではない=2点、重要ではない=1点

○①満足度と②重要度について、各回答を上記のように得点化し、横軸に満足度の平均得点、縦軸に重要度の平均得点を使用して、主要施策ごとの満足度と重要度の関係を整理したものが上記のプロット図です。

地域福祉推進における主要施策に対する満足度と重要度について整理すると、重要度が高いにもかかわらず、満足度が低い課題領域に該当するものは、以下の2項目となっています。

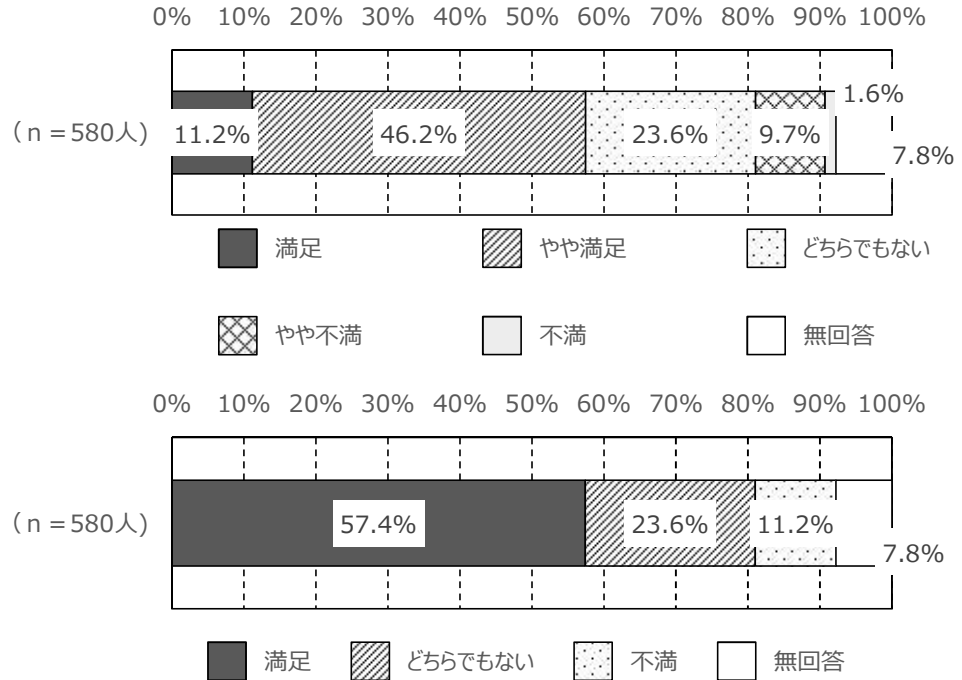
- (8) 障がいをお持ちの方への支援
- (10) バリアフリーなど人にやさしい村づくり

これらについては最優先で改善を図り、満足度を高めていくことが必要だと考えられます。

また主要施策「(1) 福祉教育・人権教育の推進」、「(3) 男女共同参画の推進」、「(4) ボランティアの育成」、「(5) 相談支援体制の充実」についても満足度が低いいため、満足度の向上が求められると考えられます。

(3) 大潟村の地域福祉の取組に対する総合満足度

問 25 これまでの大潟村における福祉施策の取り組みについて、総合的にみて、どの程度満足されていますか。(〇は1つだけ)



大潟村のこれまでの福祉施策については、46.2%が「やや満足」と評価しています。

「満足」とあわせると、57.4%と半数以上が『満足』としており、「やや不満」と「不満」をあわせた『不満』という評価の11.2%を大きく上回る人が満足と評価しています。

<属性別にみた回答傾向>

		n	満足	どちらでもない	不満	無回答	平均
全体		100.0% 580人	57.4% 333人	23.6% 137人	11.2% 65人	7.8% 45人	3.61点
回答者の性別	男性	100.0% 291人	57.0% 166人	25.1% 73人	10.7% 31人	7.2% 21人	3.60点
	女性	100.0% 275人	58.2% 160人	21.5% 59人	12.0% 33人	8.4% 23人	3.61点
回答者の年齢	20～30代	100.0% 56人	55.4% 31人	26.8% 15人	8.9% 5人	8.9% 5人	3.65点
	40～64歳	100.0% 240人	52.5% 126人	30.8% 74人	11.7% 28人	5.0% 12人	3.50点
	65～74歳（前期高齢者）	100.0% 158人	58.2% 92人	20.9% 33人	12.7% 20人	8.2% 13人	3.56点
	75歳以上（後期高齢者）	100.0% 123人	67.5% 83人	12.2% 15人	8.1% 10人	12.2% 15人	3.91点
世帯の中の状況	妊婦・乳児（1歳未満）	100.0% 18人	55.6% 10人	27.8% 5人	16.7% 3人	0.0% 0人	3.56点
	小学校入学前の幼児	100.0% 65人	63.1% 41人	23.1% 15人	4.6% 3人	9.2% 6人	3.73点
	小学生・中学生	100.0% 124人	57.3% 71人	29.8% 37人	5.6% 7人	7.3% 9人	3.70点
	高校生	100.0% 48人	50.0% 24人	31.3% 15人	14.6% 7人	4.2% 2人	3.43点
	65歳以上の方	100.0% 312人	59.0% 184人	24.4% 76人	10.6% 33人	6.1% 19人	3.61点
	介護を必要とする方	100.0% 45人	64.4% 29人	15.6% 7人	20.0% 9人	0.0% 0人	3.53点
	障がいのある方	100.0% 74人	52.7% 39人	27.0% 20人	12.2% 9人	8.1% 6人	3.53点
	いずれもない	100.0% 120人	51.7% 62人	26.7% 32人	12.5% 15人	9.2% 11人	3.50点

10. 自由意見

(1) 日常生活において困っていること

問26 日常の生活において困っていることがあれば、ご自由にお書きください。

回答内容
今のところ自立して生活するよう努力している。しかし、無理なことが間近である。交通、買物、通院などやはり近隣の世話になるのは、不可能と思える。その時は村の福祉に世話になりたい。
老夫婦ですのでご支援の程よろしくお願ひします。
今のところ困っていることはありません。実際に困ったときにならないと何が必要か何を望みたいかわからない。
・あそぶところがない（レジャー）、カフェ。・100均作ってほしい（セリア）／国花苑のような遊具（室内でも大型遊具）。・交換留学させたい。・働き先が少なすぎる→インターネットでの在宅ビジネス講座など開いてほしい。・農業以外も開拓してほしい。・おしゃれで自由度の高い貸したい物件を作れば若い子育て世代が集まるはず、子供の英語やリミックなどもっと特化しないと子供がへっていく。・学校英語が同じことのくり返しでつまらないと言っている。
1人暮らしになって、車の免許を返納した場合、通院、買物等が不安となります。老後はもっと便利な所に住所をかえた方がよいのか…と考えたりもします。だれもが、迎える老後はどうぞですか、これからも考えていかなければと思います。
子どもの人数が少なく、しかも中3までずっと一緒のため、外の世界を知らなくなってしまうのではないかと不安
マイタウンバスの便数が少ない。
冬の間、農作業もなく、体作りができるスポーツジムを熱望してます。40代50代の人達が70代以上になる頃には体力の低下からくる病気が心配です。屋内のランニングコース、筋トレの設備などが無い市町村所は近隣では大湯村だけです。
東2-5から東2-4や東2-3に車で通れるような道路を作してほしい。
入植して半世紀もたつのに水道の水が安心して飲み水として利用出来ず、飲み水だけは、他市町村へ汲みに行っている状態。住区内の側溝の掃除が強く平らにして蓋をする等、事故が起きる前に早急に対処してもらいたい。以上2点の解決を早急に！
地域活動に対しての村民各々の温度差。
今は親も二人なんとか元気だが、今後も今までのような高齢者支援が続くか不安。
今のところはありません。車の運転ができなくなった時が心配です。
時代遅れと言われるそうですが、この頃どこかへ出かけ、トイレへ行くと和式のトイレがなくなりました。私は、まず和式をさがしてなかったら仕方なく、洋式で済ませますが、村のホテルにも和式あったのに、今は無い。農協には和式有りほっとします。全部は無くないでほしい。
非農家の意見が通りづらい（発信する機会も少ない）子育て支援をもっと充実させて欲しい。給食無料化、教材費無料化、ベビー用品レンタル、無料学習塾、アスレチック場などの遊具の充実
冬期道路除雪により生じる、敷地出入口の封鎖

回答内容
トイレ排水口の悪臭、特に夜間（来客の時など困る）。※下水道の掃除を定期的にお願したい。
地域が密すぎて、噂が先行する事が多々あり、人との関係性に困る。また、JAや役場、その他の機関で、個人情報の漏洩を耳にする事がある。どんなに些細な事でも個人の情報は守られるべきだし、ましてや組織の人間が口外するのはあってはならないと思う。その延長上で、ごみ袋に記名するのは反対である。ごみ出しのマナーが良くなかったのだろうと推測されるので、そこは反省しているが、他に方法はなかったのかとも思う。他人のごみ袋を開封するなんてないとは思いますが、このご時世絶対ないという保証もないと思う。
ケアハウスにお世話になって4ヶ月になりました。家に居て思っていたことは全く異なり、実に良くお世話を下さり感謝でいっぱいです。ただ経費的に豊かでないので、外出の車代を思うと・・・
この度新しく医者が来村くださるそうでうれしいですが、できれば村内にとけこんで病気は勿論ですが、村民の健康づくりなどに本気でとりくんでもらえるよう考えてほしいと思います。そのためにはなるべく早く先生と住民との話し合いをしたらいいと思いますが・・・よろしく隣近所の関わりが以前とかわり少し希薄になって来た様に思われる。
入植以来、村作りに努力してきた一次入植者、年老いて現在、存在しているが一億総活躍とは言いながら有効活用されてない。もっとパワー、知恵、能力を利用すべき、まだ若くて村作りに協力する人が多くいる。大切にされてない。家内でも孤立が目立ち、健康寿命のためにも、生き甲斐、行動が必要と考える。
買い物をするところが、あぐり、瀧の店の他にコンビニができた。コンビニは便利だがひんぱんに買うとコストがかかる。かといってあぐりには買いたいような商品がない。昔から全然かわってないし、よそのスーパーへわざわざ行ったほうが、満足感がある。医療機関も診療所だけで、インフルエンザの予防接種のとしかいかない。とても不便だ。
冬期には運動不足になってしまう。近所にある公園の遊具がこわれているがメンテナンスがされているのか不安、保健センターにランニングマシンがあるのは知っているが誰かが使っているかと思うと行きづらい、フリーで使えるもの予約制（ネット予約がベスト）で使えるものがあると良い。秋田弁が分からない。農家の仕事が分からない事が多くストレス歩道の段差が気になる。（子ども、お年寄り、ベビーカー、カートなど危険に思う）
マイタウンバスの運行で困っている。高校生に対して、バスの時刻表を見直してほしい。もしマイタウンバスが対応できないなら、外出支援サービス確保の1つとして、村や社協からマイクロバスとかを出して、今、住んでいる住民、学生、他にやさしくしてほしい。高校生が村外へ出るのはあたり前なのに、なぜ、自力で家まで戻ってこれないのか、なぜ一人で学校へ行けないのか？おかしいと思う。そう言えば、大瀧村は、村は村でなんとかしていく！！とか言っているが、学生が自立できないというのは、矛盾している。学生が自立して、親などにたのまないで学校へ行って帰ってこれるようにできないものか？
医師の緊急患者発生時の往診をして頂けないでしょうか。
体に痛みがあり、気力が湧かない。
物忘れが多くなった。自分の財布を無くしたとか、車のかぎが無いなど、思い出せなくなってきた。

(2) 大潟村の地域福祉施策に対する意見

問 27 大潟村の地域福祉施策についてご意見、ご要望などがありましたら、ご自由にお書きください。

回答内容
通院への福祉タクシーとてもありがたい。
自立の村であるから、自律の精神を維持したい（余り頼ることは避けたい）
このアンケートはあまりにも項目が多く複雑なアンケートである。この様なアンケートは直接聞き取り調査すべきである。
こういうアンケートでニーズを聞いているつもりならば、それでいいが、万人が満足する社会福祉をやろうと思うと、それだけ負担も大きくなる以上、ある程度の枠組みの中でしかできないからこの公共福祉であると考えている。子供のうちに覚えなさいいけないことは、しっかりと働きながらボランティアをやっている人がいるということを知ること。それを教えるために大人はしっかりと働きながらボランティアを出来る範囲でやっていくこと。高齢者も自分の時間だけでなく、公共的な意識を持ち、地域のために自分の時間を使うことで、今ある大体の問題は解決できると考えている。
地元の施設には地元の人になるべく入れることが必要だと思う。特に農繁期等見守の出来ない時
介護予防のための取組（筋トレの講座など）を強化してほしいです。
相談ってとてもむずかしいと思う。経験者でない人に話を聞いてもらってもさらにつらくなるだけのことが多い。村の中で解決するのではなく、ちゃんと解決までつき合ってくれる力のある人を紹介してほしい。福祉って誰にでも必要なことだけど、実はかなりハードルが高く、名前がついている困りごと（離婚、介護など）でないとがまんしてしまうような気がする。以前、本当に苦しく助けてほしい時があったが、「福祉」は門前払いされるような気がして行かなかった。
指導員のいる運動具でリハビリや予防が出来るように、昼間はお年寄り、夜は若者が出来るような場所を空屋か今あるものを利用して出来ないものか（保育園後）。
浅く広くやりすぎない（人員不足）
老後が不安でしかたない。
当事者になってはじめてこまるのがでてくるので、いろいろな情報提供を周知していただければと思います。
公共の施設とかもう少し活用すればよいと思う。e x、村民体育館、マシン等インストラクターがついて指導してくれば活用時間が増え、有益利用ができると思います。
基本的に皆知らない。もっとPRするべき。福祉や子育てに特化した村にするべき。ムダを省きもっと金を回すべき。もうちょっと考えてほしい。
信頼無くして組織無し！
村民が自由にいこえる場が少ない。健康館は65才以上で、その他使う時は予約が必要。博物館は窓側にテーブルとイスがあるが飲食できない。公民館はちょこつとのスペースがあるが、いつでも使える場になっていない。ちょこつとはきまった人が行ってるので行きにくい。

回答内容
<p>(1) 社会福祉協議会の運営が不透明(会計的にも)。一部の人による運営では、あまり協力ができない。(2) ボランティアによる福祉では限界がある。予算の配分を見直して、人件費も考慮してやっていくべきでは。(3) ワンストップサービスで情報を一元化していくべき。(4) 高齢化で福祉への支出がある程度増えるのはしかたないにしても、今までと同じことをやっているのは税金を支払う人も少なくなっていくので、予算等の配分や使い方を見直す時期に来ていると思います。</p>
<p>「ボランティア」は元々無償ではないのに、ボランティア＝無償になっている、引き受ける方のためにもう少し配慮があっても良いと思う。</p>
<p>冬期間の巡回バスの補助(員)は不要と思う。利用者が非常に少ないため。駐車場(特にあぐり)においての車イス専用の場所を多く設けすぎて一般利用者が不便。</p>
<p>引きこもりをしている人がいるという話を耳にするが、そのような方に、どのような対策をしているのだろうかと思う。村以外の相談窓口など、情報をもっと提供すべきだと思う。村の中では、気持ちを素直に話したり、相談したりできないのではないかなと思う。</p>
<p>今後必要と考えられる村の方策について。村が高齢化に適応していくため、高齢者受入施設の増設が必要になります。そのため村の受入超過に伴い周辺市町との連携が大きな課題となりかねません。他市町の状況では現に多くの施設が増加の一途をたどりその対応がもう始まっています。当村が農業と福祉の村を造り上げていくためにはまず、周辺市町の施設の充実状況の把握に心を掛けておかなければなりません。同時に財源の確保に努めなければならない、福祉基金の積立を増額することが不可欠と考えます。村も高齢者増加とともに医療費、介護費用の財源が相対的に増加してまいります。この課題に対応するため、健康寿命を何歳に伸ばすかが大きな取組みとなります。医療、介護費用をおさえるため、今後健康作りとその予防対策に新しい健康メニューのシステム作りを全力を注いでいかなければと思います。</p>
<p>社会福祉協議会のあり方に問題があると思う。理事の選び方が変わったことで、公平性に疑問がある。福祉の現場で長年ボランティアをしていて、様々な問題を目のあたりにしてきた。経験と実績のある婦人部(会)からの理事の枠をなくして、老人会関係の理事が2名、その他の理事も75歳以上が2名と高齢化している。様々な年齢層からの意見が集約されるべきであり、様々な意見が言える社福であることが、村民の期待に応えられることにつながると思うが。</p>
<p>村内の福祉のイベントや施策について、広報やチラシなど様々な形でお知らせが来るがバラバラに来るので、様々な機関でおこなう行事を1つに紙にまとめる等して把握しやすいようにしたら良いと思う。(カレンダーのようとか) 掲示板を設置して(村民のよく行き来する場所) もっとお知らせすると良い。スポレや子育て支援センターは、あぐりプラザで定期的に変化があって良い。施策の内容も大切だがそれを周知する方法も大切。</p>
<p>(1) 前回のホームヘルパー養成講座より、年月がたち、その時、受講した方達の年齢も上がっております。また、是非、高齢者福祉への意識を高めるためにも、もう一度、講座開催をしていただきたいと思います。(2) ひとり親世帯への支援強化を要望します。</p>
<p>大潟村福祉協議会の運営方針が以前よりも変わっているはずですが、住民への説明がありません。又、福祉協議会監事が長年にわたり同一人が行っている事はおかしいのではないかと、又、理事職にある方々も以前のように村民、住民の中から公平、公正に選出しておりましたが、現在はそうではありません。多くの住民が現在の有り方に不満を持っております。よって現在の福祉協議会組織は無い方が良いと思います。</p>
<p>大潟村社会福祉協議会は一老人会の為にあるのでしょうか？福祉の観点から片寄りがあるのではないのでしょうか。</p>

回答内容
毎年、敬老会で80才になると杖をいただいておりますが、つえとしてつかえなく、本当にお年よりがつかえる、折りたたみ式のつえをもらった方がどんなにかうれしいと思います。
村は健康な人が多いと思うが、今後、高齢者が増えていくのは必然的であり、ひとりで暮らせる安心できる環境を作り出してほしいと思っている。自分が一番居心地のよい自宅で長く生活できることが本望である。
残念ながら、自分や家族が、当事者にならないと福祉について、考えることがないし、今現在、どうなっているのかまったく無知だということがわかりました。このアンケートに答えることで、福祉について考える機会ができました。
年寄りの方々の支援が充実していて、逆に若年者への（障害者）支援は不足。福祉運動会は、老人クラブ運動会にした方がよいのでは…。
社協の運営などで一部の人の意見で動いているように感じる。理事の選び方など、もっと、村民の納得のいく方を選んでほしい。社協職員が、福祉政策にうまいように思う。経験や実力の意欲ある方の採用を望みます。老人対策に重きがあって、子供や障害者には、軽んずられているように思う。
高齢者、82才と77才の老人と同居です。今の所、自分の事はできるし、福祉サービスにもお世話になっていませんが、これから、数年後にお世話になると思います。車の運転が出来なくなってしまうたら、家に閉じこもりがちになるのではないかと心配です。社協などに行って、同じ年代の方々と交流の場に足を運んで行けるような、場所であればと思っています。
10年程前にヘルパー講習が5年間ありましたが、当時の受講した者は、高齢になり、または亡くなられた方もおり、介護される側になりつつあります。今後、自宅介護等重要になると思いますので、また、何年かの期間を得て初任者介護講習を実施されることを希望します。
連休などで保健センターの利用が出来ないこと。
「福祉の村」と言われるぐらい、あらゆる面で充実して欲しい。
ひだまりえん的なものを増してほしい。
村では地域福祉について色々な対策を立て、村民の暮らしを守っていらっしゃる事に心から感謝致します。
今の村政は村民のためと思えないこともあるので、福祉計画は村民のためと思える計画を作成してほしい。
このアンケートに答えるにあたって思ったのは、何らかのボランティア活動をしている人でなければよくわからなくて答えようがない設問も多いのではということです。普段あまり考えた事がないという人も多いのでは。
人が亡くなって葬祭の男鹿のレゼールへ行くのは大変な時があります。大潟村でも葬祭場があってもよいと思います。
◎自分の身の廻りのことができなくなったら老人ホームとっておりましたが、人生100年といわれるこれからの時代、それもままならないといわれております。本人が何も解らなくなれば別問題として、グループホーム、ホームヘルパー、デイサービス等、地域にお世話になりながらも自宅で過ごすことができれば、自分らしく楽しい老後になるのではと思っております。抱える家族はたいへんですが、時々にはショートステイ等に預かってもらい息抜きも必要です。◎大潟村民は車に頼りすぎている状況です。今から自分の足で老後も歩ける身体づくりを皆で心かけることを努めていきたい。

回答内容
<p>今後高齢化が予想されるので、ボランティア等の育成に力を入れてもらいたい。同居する家庭が減少傾向にあるので、子供と高齢者のふれ合いの場を増やし、福祉の面でも関心を寄せてもらいたい。</p>
<p>一生懸命やって下さい感謝しております。</p>
<p>大潟村の高齢化が今後どう進むのかのデータを村民へわかりやすく示すことが第一歩では。現時点で、福祉対象者数や、世帯数などの実態を村民に知らせておく等（現状はほとんどわからない）。村民の健康度（？）データはありますか？そんなデータがあれば、我が身におきかえて、自覚できそうなのですが。</p>
<p>このアンケートに答えてみて、私のコミュニケーションの対象者が片寄っていると感じました。子育て中の方、障がいをお持ちの方やその保護者、小中高生の方ともしっかり色々な話をする必要があると思いました。行政に携わっている方々も積極的に住民とコミュニケーションをとって欲しいです。同じ住区でもお話したことのない役場の職員もいらっやるので。</p>
<p>始めまして前は秋田市に住んでおりましたが家族が皆亡くなって一人になり秋田市の施設をさがしたが入る所なくて娘が男鹿市の方におりますので、ケアハウスをさがしてくれて助かりました。代々の施設長さん始め職員さん給食員の方々のおかげで助かっております。又、大潟村の方にも大変色々とお世話になっております。ありがとうございます。此の後も宜しく願います。</p>
<p>村の福祉関係の予算をふやす。村職員人数をふやさないのであれば、今の職員がスキルを上げ資格がとれる様に時間をとってほしい。社会教育（生涯学習等）の活動計画がないのか。学校での福祉教育の時間をとる。目的を持ったボランティア増すのであれば講習会を開催してほしい。特に福祉関係であれば包括がしっかり計画して実行してほしい。</p>
<p>こんなアンケートは、むずかしすぎる。もう少しやさしくしてほしい。</p>
<p>名前、住所を言えば「○○の誰々」と思っても言わない人選をお願いしたいです。それで会話がスムーズに進むと思っている方もいらっやるかもしれませんが、嫌な方もいると思います。事務的な処理を進めることと、フレンドリーな対応にメリハリをつけていただきたいと思います。</p>
<p>こども園の受け入れ人数を制限すべき。農家の大半は、専従者、給与をもらっていても、実際は家にいる。それなのに、こども園で、7：30～とか18：30まで、受け入れる必要はない。農家には保育サービスが、そんなに必要か。保育士も全然足りていないようだ。真剣に考えるべき。本当に必要な人が保育サービスを使えるように。</p>
<p>満足な村の福祉施策に感謝しています。</p>
<p>軽スポーツ室の暖房について！冬期間かかさず通い続けた高齢者卓球！調節のできない暖房の中、何度か息苦しく、汗だくで倒れそうな状態になりました。だが最近3／7日頃から止めてくれる様になり、ほっこり安心です。冬空だけに暖かい部屋から外気温にふれるのが恐ろしく感じることもありました！</p>
<p>介護をされている家族の方は、あまり夜眠れない方が多いのではないかと思います。日中はともかく夜眠れないといろいろな病気の引きがねになるのではないかと思います。そうした機関があればいいのでは？と思います。（あるのかもしれませんが夜のみのみ）</p>

回答内容
<p>地域の団体やサークルへ参加するのに、入口がわからない、きっかけがつかめない。という事で孤立している方がいます。もっと気楽に参加できるよう、個々の団体やグループが頑張っていて受け入れる姿勢を見せたら良いと思います。経済的に…。若者のとじこもりの方も、増えているように思います。小さな村だからこそ出来る手厚いサポートを作っていくべきだと思います。職員と村民の温度差にがっかりする話も、多々聞かれます。村職員は強制は出来ない事はわかりますが、村に骨をうずめるつもりの方々を採用すべき。他人事すぎます。</p>
<p>私の代は親との同居はギリギリセーフだったが、今の若者は総じて親との同居は考えにくいと思います。（家庭環境の違いもあるとは思いますが）二世帯家族の支援や、村営住宅の増設など対策を講じてほしい。</p>
<p>村民に良いこと、村民の為、良いことは、どしどしやってほしい。</p>
<p>社会福祉協議会の職員について。（１）事務局長が役場職員を定年されてる人ではないのでしょうか？社会福祉のプロの人を？（２）村では文化人の入村制度がありますが、優遇措置を受けて入村して公務員（地方公務員）になって良いのでしょうか？</p>
<p>人、自動車、自転車や、車椅子等が安心して通れるそれぞれの道が欲しい。</p>
<p>ボランティアの高齢化が問題です。</p>
<p>今まで行ってきた園芸療法のますますの拡大を図って貰えないでしょうか。</p>
<p>問 15 と同じく。小学校のグラウンドはいつになったら整備されるのか。子供たちが自然に外で体を動かして遊べる環境をととのえて欲しい。低学年の子には特に遊具は必要。ボール遊びが好きな子供ばかりではない。ほんの数年でも、子供の 1 人 1 人はすぐ大きくなってまう。1 年 1 年が成長に大切な時間であることを考慮し、できる限り早く着手して欲しい。</p>
<p>月 1 度の老人健康教室、食事会等、続けた方が良い。</p>
<p>若い村でしたが、これからは大瀧村も高齢者の村となります。農業ではモデル農村づくりを実践して来ました。これからは高齢化農村のモデルになるべく高齢者が大瀧村で生抜いてよかったと思える、福祉の村をつくりたいものです。人生最後良ければすべて良しと云うことですので心豊かな福祉の村づくりを実行し実現したいものです。そのために先ずは健康寿命を伸ばす活動を提案します。</p>

「大湯村地域福祉計画」策定における調査
結果報告書

平成30年3月

発行・編集：	大湯村 住民生活課 〒010-0494 秋田県南秋田郡大湯村字中央 1-1 TEL：0185-45-2114
--------	---